

Welcome to Lexus

ようこそレクサスへ

安全、快適にお使いいただくため、本書をお読みください。



TABLE OF CONTENTS

目次

1	運転する前に	運転するまでに必要となる操作、ご注意が説明してあります。
2	運転するときに	走行、停止の方法や安全運転の方法が説明してあります。
3	室内装備の使い方	室内装備を快適にご使用いただくための説明がしてあります。
4	お手入れのしかた	お車のお手入れ、メンテナンスに関する方法が説明してあります。
5	トラブルが起きたら	故障やパンクしたときなど、万一のときの対処に関する説明がしてあります。
6	車両仕様	車の仕様やカスタマイズ機能に関する情報が記載してあります。
	さくいん	本書に記載されている情報を五十音順などの方法で探すことができます。

次の装備は、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」をお読みください。

- ・ GPS ボイスナビゲーション
- ・ エアコン・デフォッガー
- ・ バックガイドモニター
- ・ クリアランスソナー
- ・ ITS スポット対応 DSRC システム (ETC 機能付)
- ・ オーディオ&ビジュアル
- ・ リヤウインドウデフォッガー&ミラーヒーター

1 運転する前に

1-1. キーの取扱い

キー	26
----------	----

1-2. ドアの開閉のしかた、 ロックのしかた

スマートエントリー& スタートシステム	31
ワイヤレスリモコン	42
ドア	45
バックドア	49

1-3. シート、ミラー、 ハンドルの調整のしかた

フロントシート	59
リヤシート	62
ドライビングポジション メモリー	65
ヘッドレスト	70
シートベルト	72
ハンドル	76
インナーミラー	78
ドアミラー	80

1-4. ドアガラス・ムーンルーフの 開け方、閉め方

パワーウインドウ	85
ムーンルーフ	90
電動サンシェード	95

1-5. 給油のしかた

給油口の開け方	97
---------------	----

1-6. 盗難防止システム

エンジンイモバイザー システム	101
オートアラーム	102

1-7. 安全にお使いいただくために

正しい運転姿勢	108
SRS エアバッグ	110
子供専用シート	119
チャイルドシートの 取り付け	129

2 運転するときに

2-1. 運転のしかた

運転にあたって	138
エンジン（イグニッション） スイッチ	148
オートマチックトランス ミッション	153
方向指示レバー	160
パーキングブレーキ	161
ホーン（警音器）	162

2-2. メーターの見方

計器類	163
表示灯／警告灯	165
マルチインフォメーション ディスプレイ	169
ヘッドアップディスプレイ	177

2-3. ライトのつけ方・

ワイパーの使い方

ランプスイッチ	182
フォグラмпスイッチ	185
ワイパー＆ウォッシャー （フロント）	187
ワイパー＆ウォッシャー （リヤ）	191
ヘッドランプクリーナー	193

2-4. その他の走行装置の使い方

クルーズコントロール	194
レーダークルーズ コントロール	198
運転を補助する装置	210
AWD ロックモードスイッチ	216
ヒルスタートアシスト コントロール	217
プリクラッシュセーフティ システム	219

2-5. 様々な状況での運転

荷物を積むときの注意	226
寒冷時の運転	228

3 室内装備の使い方

3-1. 室内灯のつけ方

室内灯一覧	232
・ インテリアランプ	233
・ パーソナルランプ	233

3-2. 収納装備の使い方

収納装備一覧	235
・ グローブボックス	236
・ ボトルホルダー／ ドアポケット	237
・ カップホルダー	238
・ コンソールボックス	240
・ コインホルダー	242
・ 小物入れ	242
・ アンダートレイ	243

3-3. その他の室内装備の使い方

サンバイザー	244
パニティミラー	245
アクセサリソケット／ アクセサリコンセント	246
ステアリングヒーター	249
シートヒーター＆ ベンチレーター	250
アームレスト	252
コートフック	253
アシストグリップ	254
フロアマット	255
ラゲージルーム内装備	257

4 お手入れのしかた

4-1. お手入れのしかた

外装の手入れ	264
内装の手入れ	268
タイヤについて	271

4-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット	274
ガレージジャッキ	276
エンジンルームカバー	278
電球（バルブ）の交換	280
ヒューズの点検、交換	294
電子キーの電池交換	303
ウォッシュャー液の補給	305

5 トラブルが起きたら

5-1. まず初めに

故障したときは	308
非常点滅灯 （ハザードランプ）	309
発炎筒	310
けん引について	312
フューエルポンプ シャットオフシステム	321

5-2. 緊急時の対処法

警告灯がついたときは	322
警告メッセージが 表示されたときは	326
パンクしたときは	342
エンジンが かからないときは	351
シフトレバーがシフト できないときは	353
キーを無くしたときは	354
電子キーが正常に 働かないときは	355
バッテリーが あがったときは	358
オーバーヒートしたときは	362
スタックしたときは	365
車両を緊急停止するには	367

6 車両仕様

6-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ
(指定燃料、オイル量など) 370

6-2 カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ
機能一覧 377

6-3 初期設定

初期設定が必要な項目 384

さくいん

略語一覧 386

五十音順さくいん 387

症状別さくいん 399

1

2

3

4

5

6



リヤウインドウデフォグガー ※

尾灯 P. 182

給油口 P. 97

リヤワイパー P. 191

バックドア P. 49

ドア P. 45

タイヤ

●ローテーション P. 271

●交換 P. 342

バックドアオープンスイッチ
P. 49

リヤフォグランプ * P. 185

リヤ方向指示灯 P. 160

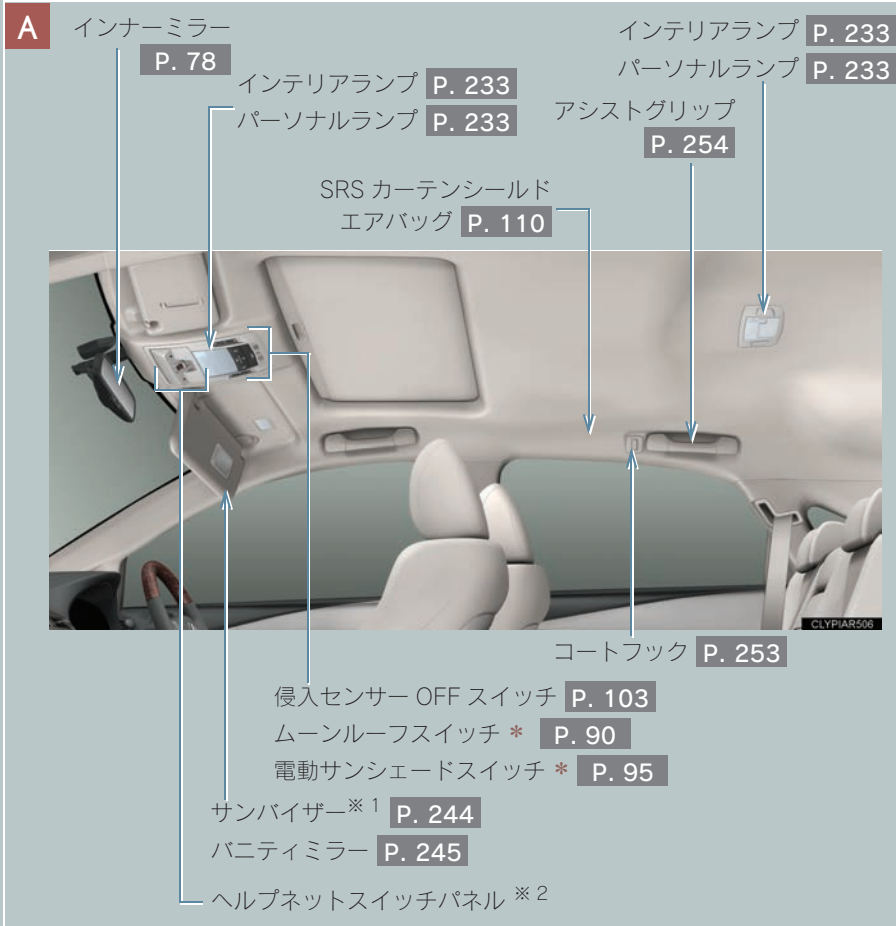
* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

※ : 別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

イラスト目次

室内





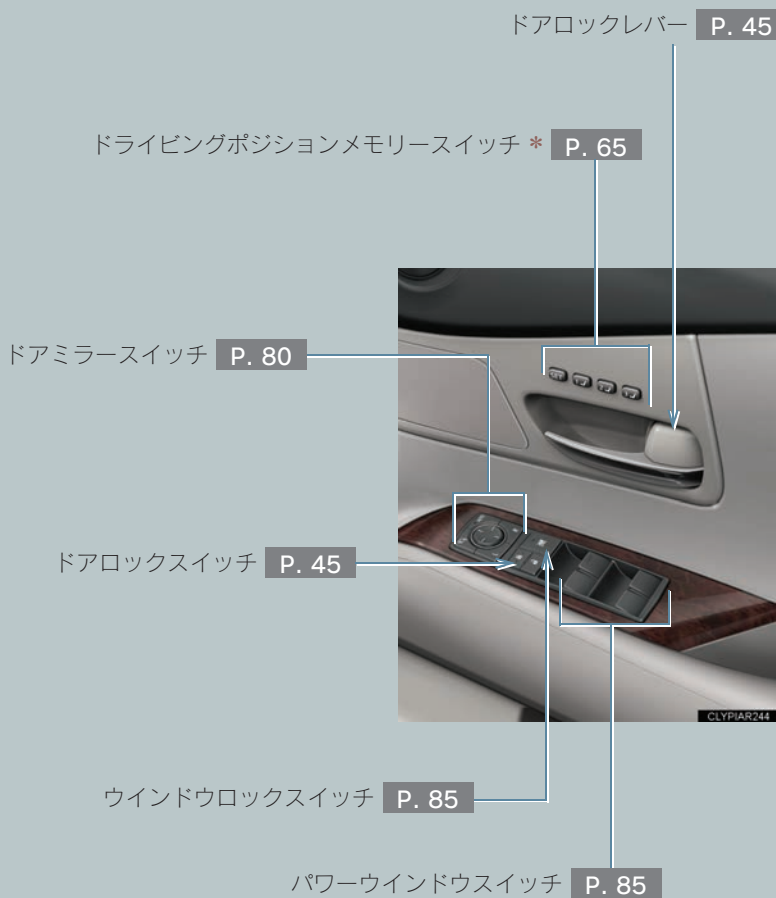
* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

※¹ : やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けしないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。(→ P. 134)

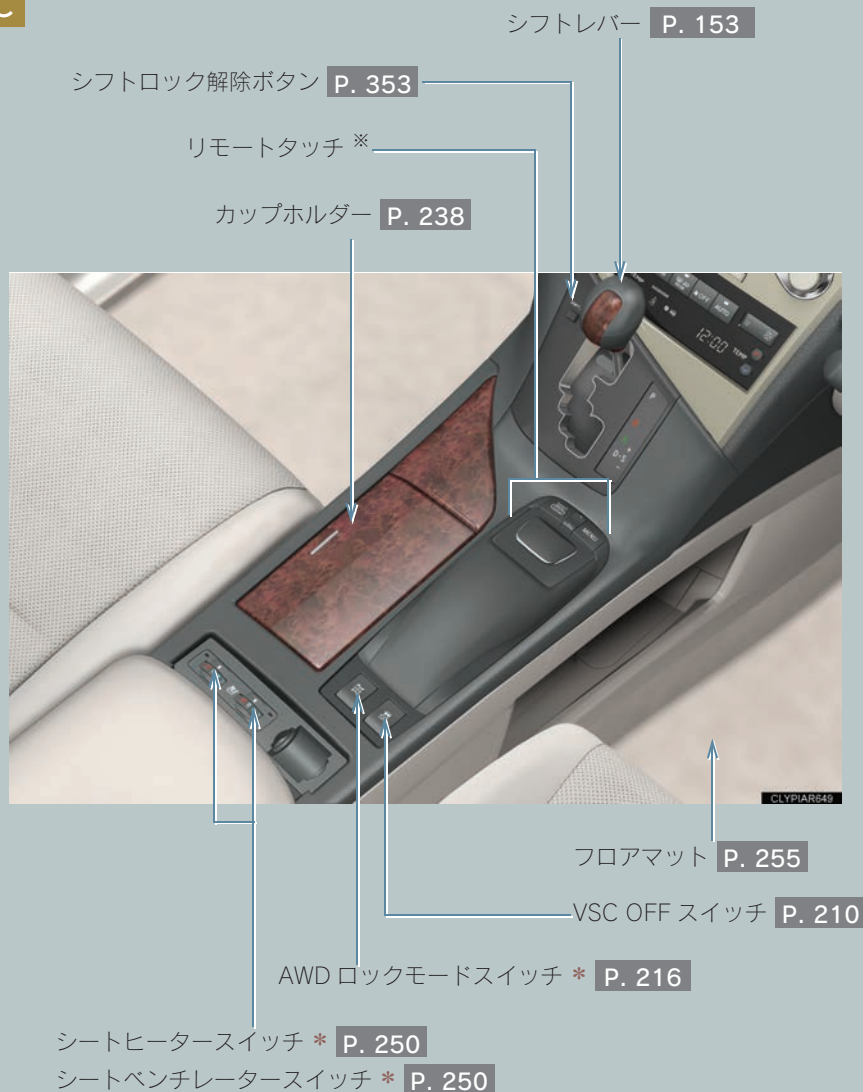


※² : 別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書参照してください。

B



C



* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

※ : 別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

イラスト目次

インストルメントパネル

ワイパー&ウォッシャースイッチ P. 187

エンジン（イグニッション）
スイッチ P. 148

グローブボックス P. 236

パワーバックドア
メインスイッチ P. 51

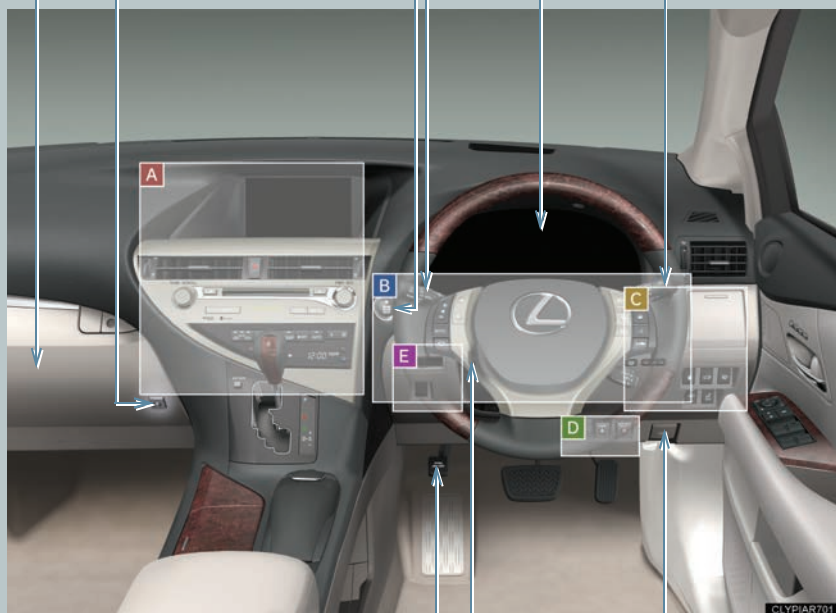
メーター P. 163

マルチインフォメーション
ディスプレイ P. 169

ランプスイッチ P. 182

方向指示レバー P. 160

フォグラмпスイッチ P. 185

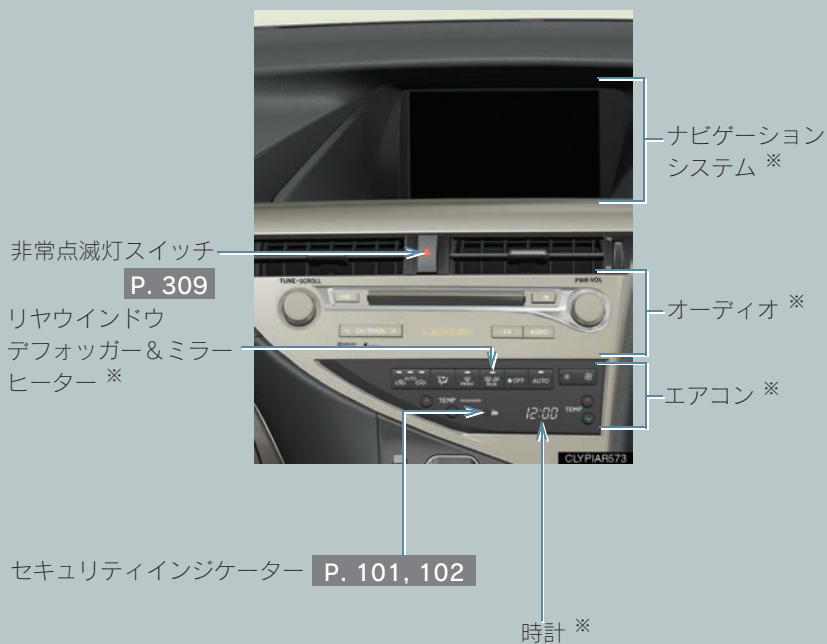


パーキングブレーキペダル P. 161

ハンドル位置調整スイッチ P. 76

ボンネット解除レバー
P. 274

A



※：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

B ▶ タイプA

オーディオスイッチ ※

電話スイッチ ※



サイドカメラスイッチ ※ P. 81

トークスイッチ ※

マルチインフォメーション
スイッチ P. 169

車間距離切り換え
スイッチ * P. 198

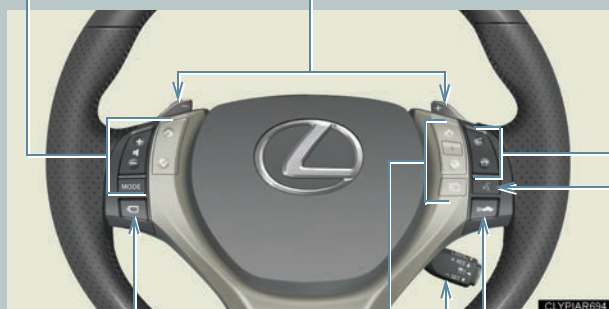
クルーズコントロールスイッチ P. 194, 198

▶ タイプB

パドルシフトスイッチ P. 156, 157

オーディオスイッチ ※

電話スイッチ ※



サイドカメラスイッチ ※ P. 81

トークスイッチ ※

マルチインフォメーション
スイッチ P. 169

クルーズコントロールスイッチ

P. 194, 198

車間距離切り換えスイッチ * P. 198

C

ヘッドランプクリーナースイッチ P. 193

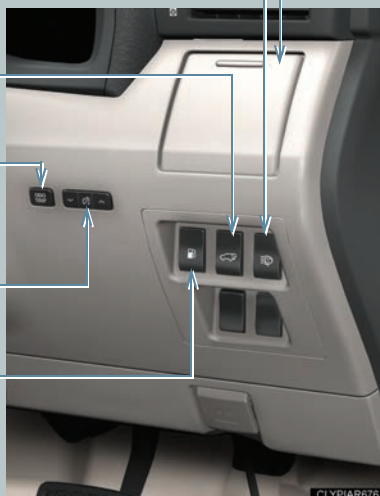
バックドアオープンスイッチ
P. 50

“ODO/TRIP” スイッチ P. 164

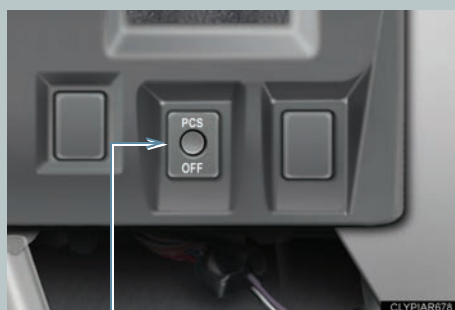
インストルメントパネル照度調整
スイッチ P. 164

給油口オープナー P. 97

カップホルダー P. 238



D



ブリクラッシュブレーキ OFF
スイッチ * P. 219

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備
※ : 別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

E

HUD メインスイッチ *

P. 177

表示輝度調整スイッチ *

P. 177

表示位置調整スイッチ *

P. 177

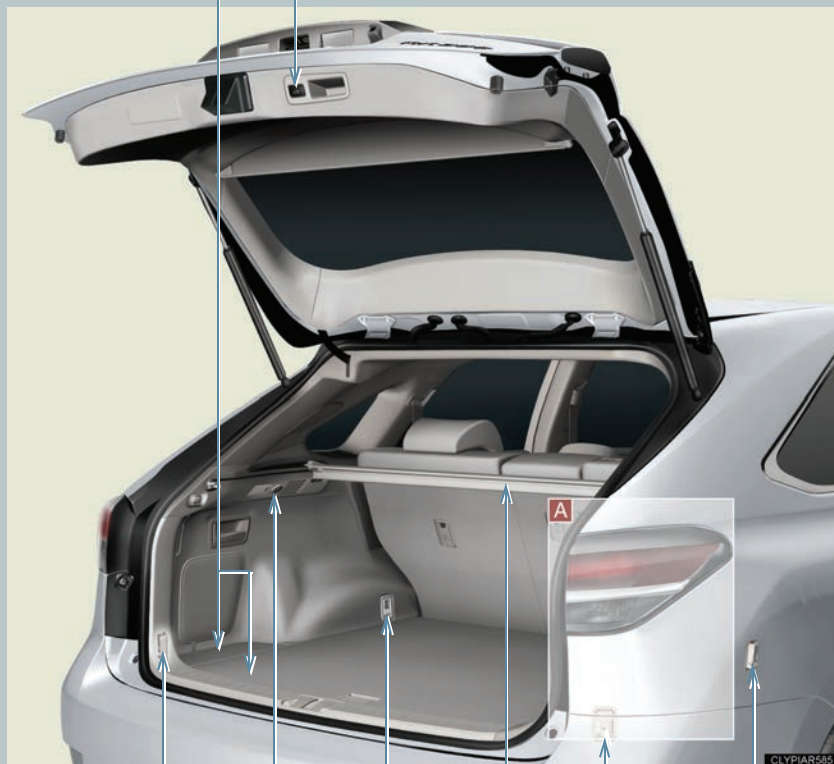


ステアリングヒータースイッチ * P. 249

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

デッキアンダートレイ P. 257

パワーバックドアクローズスイッチ P. 50



アクセサリ
ソケット
P. 246

トノカバー
P. 259

デッキフック
P. 257

デッキフック P. 257

A

ラゲージ
ルームランプ

P. 51



リヤシート
リクライニング
レバー P. 62

知っておいていただきたいこと

本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。

そのため、お客様のお車にはない装備の説明が記載されている場合があります。また、車の仕様変更により、内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。

レクサス販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取扱書をお読みください。

イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様のお車の装備や色と一致しない場合があります。

不正改造について

- トヨタが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、不正改造になることがあります。
- 車高を下げたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因となったり、事故をおこし、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルにはS R Sエアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 次の場合はレクサス販売店にご相談ください。
 - ・ タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットの交換。
異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、不正改造になることがあります。
 - ・ 電装品・無線機などの取り付け、取りはずし。
電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。
- フロントウィンドウガラス、および運転席・助手席のドアガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼りつけないでください。視界を妨げるばかりでなく、不正改造につながるおそれがあります。

運転についてのご注意

他の車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。

酒気帯び運転は絶対しないでください。お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。

運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。

お子さまを乗せるときは

お子さまを車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、ライター、発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思いがけない事故につながるおそれがあり危険です。

お車にお子さまをのせる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取り付け方などをまとめた「チャイルドシートの取り付け」（→P. 129）をお読みください。

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。（法律で義務づけられています。）

車両データの記録について

お車には、車両の制御や操作に関するデータなどを記録するコンピューターが複数装備されており、主に次のようなデータを記録します。

- ・ エンジン回転数
- ・ アクセルの操作状況
- ・ ブレーキの操作状況
- ・ 車速
- ・ シフトポジション

グレード・オプション装備により記録されるデータ項目は異なります。なお、コンピューターは会話などの音声や映像は記録しません。

● データの取り扱いについて

レクサスはコンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。

なお、次の場合を除き、レクサスは取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。

- ・ お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- ・ 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- ・ 統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

● G-Link によるデータの取り扱いについて

お客様が G-Link をご利用の場合、記録データとその使用について、G-Link 利用規約をご覧ください。

イベントデータレコーダー

お車には、イベントデータレコーダー（EDR）が装備されています。EDR は、一定の衝突や衝突に近い状態（SRS エアバッグの作動および路上障害物との接触など）が発生した時に車両システムの作動状況に関するデータを記録します。

EDR は車両の動きや安全システムに関するデータを短時間記録するように作られています。ただし、衝突の程度と形態によっては、データが記録されない場合があります。

EDR は次のようなデータを記録します。

- ・ 車両の各システムの作動状況
- ・ アクセルペダルおよびブレーキペダルの操作状況
- ・ 車速

これらのデータは、衝突や傷害が発生した状況を把握するのに役立ちます。

注意：EDR は衝突が発生したときにデータを記録します。通常走行時にはデータは記録されません。また、個人情報（例：氏名・性別・年齢・衝突場所）は記録されません。ただし、事故調査の際に法執行機関などの第三者が、通常の手続きとして収集した個人を特定できる種類のデータと EDR データを組み合わせ使用することがあります。EDR で記録されたデータを読み出すには、特別な装置を車両または EDR へ接続する必要があります。レクサスにくわえ、法執行機関などの特別な装置を所有する第三者が車両または EDR に接続した場合でも情報を読み出すことができます。

● EDR データの情報開示

次の場合を除き、レクサスは EDR で記録されたデータを第三者へ開示することはありません。

- ・ お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- ・ 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- ・ レクサスが訴訟で使用する場合

ただし、レクサスは

- ・ データを車両安全性能の研究に使用することがあります。
- ・ 使用者・車両が特定されないデータを調査目的で第三者に開示することがあります。

本書の中の表示について

警告、注意、知識について

警告

ここに記載されていることをお守りいただかないと、生命の危険または、重大な傷害につながるおそれがあります。お客様自身と周囲の人々への危険を避けたり減少させたりするため必ずお読みください。

注意

ここに記載されていることをお守りいただかないと、お車や装備品の故障や破損につながるおそれや、正しい性能を確保できない場合があります。

知識

機能の説明や操作方法の説明以外で知っておいていただきたいこと、知っておくと便利なことを説明しています。

イラスト内の表示について



セーフティーシンボル

“してはいけません” “このようにしないでください” “このようなことを起こさないでください” という意味を表しています。



操作を示す矢印

 スイッチなどの操作（押す、まわすなど）を示しています。

 操作後の作動（ふたが開くなど）を示しています。

1-1. キーの取扱い

キー.....	26
---------	----

1-2. ドアの開閉のしかた、 ロックのしかた

スマートエントリー& スタートシステム	31
ワイヤレスリモコン	42
ドア.....	45
バックドア.....	49

1-3. シート、ミラー、 ハンドルの調整のしかた

フロントシート	59
リヤシート.....	62
ドライビングポジション メモリー.....	65
ヘッドレスト.....	70
シートベルト.....	72
ハンドル.....	76
インナーミラー.....	78
ドアミラー.....	80

1-4. ドアガラス・ムーンルーフの 開け方、閉め方

パワーウインドウ.....	85
ムーンルーフ	90
電動サンシェード.....	95

1-5. 給油のしかた

給油口の開け方.....	97
--------------	----

1-6. 盗難防止システム

エンジンイモビライザー システム	101
オートアラーム.....	102

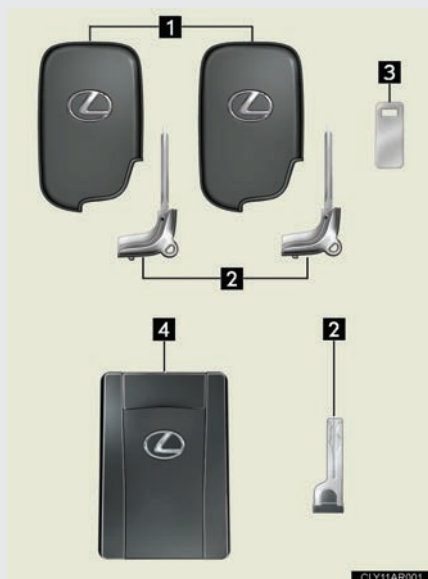
1-7. 安全にお使いいただく ために

正しい運転姿勢.....	108
SRS エアバッグ.....	110
子供専用シート.....	119
チャイルドシートの 取り付け	129

1-1. キーの取扱い

キー

お客様へ次のキーをお渡しします。



1 電子キー

- ・ スマートエントリー&スタートシステムの作動 (→P. 31)
- ・ ワイヤレスリモコンの作動 (→P. 42)

2 メカニカルキー

3 キーナンバープレート

4 カードキー (電子キー) *

スマートエントリー&スタートシステムの作動 (→P. 31)

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

メカニカルキーを使うには



メカニカルキーを取り出すには、下記の操作を行ってください。

電子キー：解錠レバーをスライドしてキーを取り出す

カードキー：解除ボタンを押してキーを取り出す

メカニカルキーがキーシリンダーに差し込めないときは、キー溝面の向きを覚えて挿し込んでください。片溝キーは、挿し込み方向に指定があります。

使用後はもとにもどし、電子キーと一緒に携帯してください。電子キーの電池が切れたときやスマートエントリー&スタートシステムが正常に作動しないとき、メカニカルキーが必要になります。
(→P. 355)

知識

■ カードキーについて*

- カードキー内蔵のメカニカルキーは、カードキーが正常に作動しないなどの緊急時にのみ使用してください。
- メカニカルキーが取り出しにくいときは、ボールペンの先などでロック解除ボタンを押してください。引き出しにくいときは、コインなどで引っかけてください。



- メカニカルキーをカードキーへ入れるときは、ロック解除ボタンを押しながら奥まで入れてください。



- 電池カバーがはずれたときやぬれたときに電池をはずした場合は、電池の+極をレクサスエンブレム面側にして取り付けてください。

- カードキーは非防水です。

■ 駐車場などでキーを預けるときは

必要に応じてグローブボックスを施錠します。(→P. 236)
メカニカルキーを取り出し、電子キーのみを渡してください。

■ キーナンバープレート

車の中以外の安全な場所（財布の中など）に保管してください。万一、メカニカルキーを紛失した場合、レクサス販売店でキーナンバーから新しいキーが作製できます。(→P. 354)

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

■ 航空機に乗るときは

航空機に電子キーを持ち込む場合は、航空機内で電子キーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。



注意

■ キーの故障を防ぐために

以下のことをお守りください。

- 落としたり、強い衝撃を与えたり、曲げたりしない
- 温度の高いところに長時間放置しない
- めらしたり超音波洗浄器などで洗ったりしない
- キーに金属製または磁気を帯びた製品を取り付けたり、近付けたりしない
- 分解しない
- 電子キー表面にシールなどを貼らない
- テレビやオーディオ、電磁調理器などの磁気を帯びた製品や、低周波治療器などの電気医療機器の近くに置かない

■ 電子キーについて

電子キーは電波法の認証に適合しています。必ず以下のことをお守り下さい。

- 電池交換時以外は、不用意に分解しないでください。分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。
- 必ず日本国内でご使用下さい。

■ キーを携帯するときは

電源を入れた状態の電化製品とは 10 cm 以上離して携帯してください。

■ スマートエントリー&スタートシステムの故障等で販売店に車両を持っていくときは

車両に付属している全ての電子キー（カードキーを含む）をお持ちください。

 注意

■ キーを紛失したときは

電子キーを紛失した状態で放置すると、盗難の危険性が極めて高くなります。車両に付属している残りの電子キーとカードキーを全てお持ちのうえ、ただちにレクサス販売店にご相談ください。

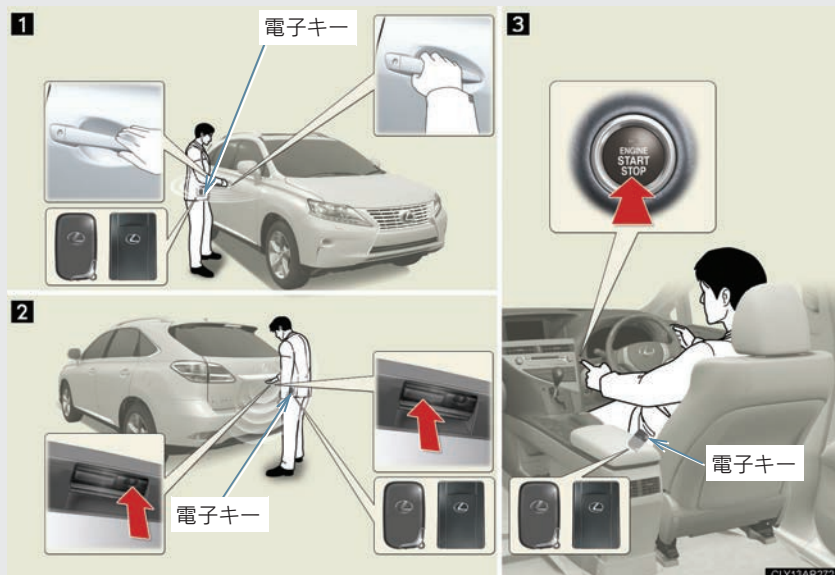
■ カードキー取り扱いの注意

- メカニカルキーをカードキーに挿し込むときは、無理な力を与えないでください。カードキーが破損するおそれがあります。
- 電池やカードキーの電極がぬれた場合は、電池が錆びて作動しなくなるおそれがあります。
水の中に落としたときや飲料水などをこぼしたときは、ただちに電池カバーをはずして電池および電極部分を拭き取ってください。(電池カバーをはずすには、軽く持って引き抜いてください)。電池が錆びた場合は、レクサス販売店で電池を交換してください。
- 電池カバーを取りはずす場合は、押しつぶしたりドライバーなどを使用したりしないでください。
無理にこじ開けようとすると、曲がったり傷をつけたりするおそれがあります。
- 電池カバーをひんぱんに取りはずすと、電池カバーが抜けやすくなることがあります。
- 電池を取り付けるときは、必ず電池の向きを確認してください。電池の向きを間違えると、電池が急激に消耗する原因になります。
- 以下のような使い方をした場合は、カードキーの表面に傷をつけたり塗装がはがれたりするおそれがあります。
 - ・ 小銭や鍵などの硬いものと同時に携帯したとき
 - ・ シャープペンシルの先端などの鋭利なものでこすったとき
 - ・ シンナーやベンジンでカードキーの表面を拭いたとき

1-2. ドアの開閉のしかた、ロックのしかた スマートエントリー&スタートシステム

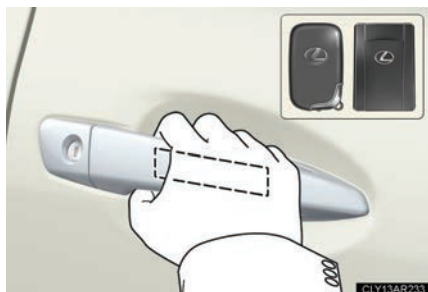
電子キー（カードキーを含む）をポケットなどに携帯していると、次の操作が行えます。

（必ず運転者が携帯してください）



- 1** ドアを施錠・解錠する (→P. 32)
- 2** バックドアを施錠・解錠する (→P. 33)
- 3** エンジンを始動する (→P. 148)

ドアの解錠・施錠（フロント席ドアハンドルのみ）



ハンドルを握って解錠する

ハンドル裏面のセンサー部に確実にふれてください。

施錠操作後 3 秒間は解錠できません。



ドアハンドル上側のロックセンサー部（ハンドルのくぼみ部）にふれ施錠する

バックドアの施錠



ロックスイッチを押して施錠する

1

運転する前に

バックドアを開ける

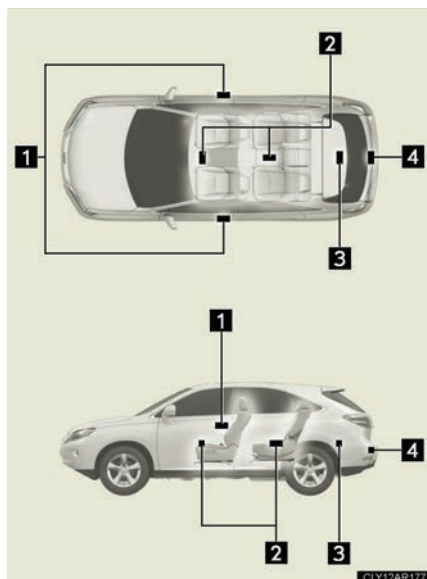


バックドアオープンスイッチを押す

バックドアが自動で全開します。
施錠操作後3秒間は開けることができません。

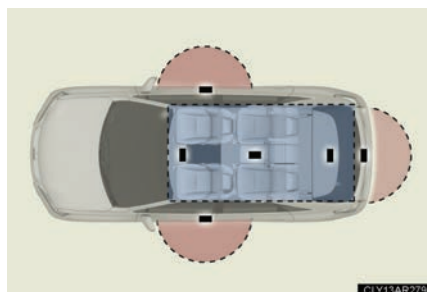
アンテナの位置と作動範囲

■ アンテナの位置



- 1 車外アンテナ
- 2 車内アンテナ
- 3 ラゲージルーム内アンテナ
- 4 ラゲージルーム外アンテナ

■ 作動範囲（電子キーの検知エリア）



- : ドアの施錠・解錠時

フロント席ドア・バックドアハンドルから周囲約 70 cm 以内で電子キーを携帯している場合に作動します。(電子キーを検知しているドアハンドルのみ作動します。)

- : エンジン始動時またはモード切りかえ時

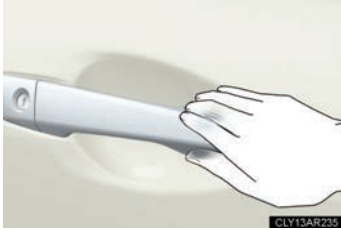
車内で電子キーを携帯している場合に作動します。

知識

■ 作動の合図

ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。(施錠は 1 回、解錠は 2 回)

■ ドアハンドル上側のロックセンサーで施錠できないときは



ドアハンドル上側のロックセンサー部にふれても施錠できないときは、上下のロックセンサー部に同時にふれてください。

■ 警告音と警告表示について

誤動作などによる予期せぬ事故や盗難を防ぐため、車内や車外で警告音が鳴ったり、マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されることがあります。マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されたときは、ディスプレイの表示をもとに適切に対処してください。(→P. 326)

警告音のみが鳴る場合の状況と対処方法は次のようになります。

警告音	状況	対処方法
車外から“ピー”と 5 秒間鳴る	いずれかのドアが開いているときにスマートエントリー&スタートシステムで施錠しようとした	全ドアを閉めたあと、再度施錠してください。
車内から“ポーン、ポーン”と鳴り続ける	運転席ドアが開いている状態で“エンジン スタート ストップ”スイッチをアクセサリモードにした(アクセサリモードのとき運転席ドアを開いた)	運転席ドアを閉めてください。
	運転席ドアが開いている状態で“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にした	運転席ドアを閉めてください。

■ 解錠操作のセキュリティ機能

解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは、盗難防止のため自動的に施錠されます。

■ 節電機能

長期駐車時に電子キーの電池と車両のバッテリーあがりを防止するため、節電機能が働きます。

- 以下の状況では、スマートエントリー&スタートシステムによる解錠に時間がかかる場合があります。
 - ・車の外約 2m 以内にスマートキーを 10 分以上放置した。
 - ・5 日間以上スマートエントリー&スタートシステムを使用しなかった。
- 14 日間以上スマートエントリー&スタートシステムを使用しなかった場合、運転席以外での解錠ができなくなります。この場合は、運転席のドアハンドルを握る、もしくは、ワイヤレスリモコン、メカニカルキーで解錠してください。

以下のいずれかを行うと、スマートエントリー&スタートシステムが復帰します。

- ドアハンドル上のロックセンサーで施錠する
- ワイヤレスリモコンで施錠・解錠する (→P. 42)
- メカニカルキーで施錠・解錠する (→P. 355)

■機能が正常に働かないおそれのある状況

スマートエントリー&スタートシステムは微弱な電波を使用しています。次のような場合は電子キーと車両間の通信をさまたげ、スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコン、イモビライザーシステムが正常に作動しない場合があります。(対処方法：→P. 355)

- 電子キーの電池が消耗しているとき
- 近くにテレビ塔や発電所、ガソリンスタンド、放送局、大型ディスプレイ、空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
- 無線機や携帯電話、コードレス式電話などの無線通信機器を携帯しているとき
- 電子キーが、以下のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき
 - ・ アルミ箔などの金属の貼られたカード
 - ・ アルミ箔を使用したタバコの箱
 - ・ 金属製の財布やかばん
 - ・ 小銭
 - ・ カイロ
 - ・ C D や D V D などのメディア
- 複数の電子キーが近くにあるとき
- 近くでほかの電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき
- 電子キーを、以下のような電波を発信する製品と同時に携帯しているとき
 - ・ 他の車の電子キーや電波式ワイヤレスリモコン
 - ・ パソコンや携帯情報端末（P D A など）
 - ・ デジタルオーディオプレーヤー
 - ・ ポータブルゲーム機器
- リヤウインドウガラスに金属を含むフィルムなどが貼ってあるとき

■スマートエントリー&スタートシステム特有の留意事項

- 電子キーが作動範囲内にあれば、電子キーを携帯している人以外でも施錠・解錠できます。ただし、電子キーを検知しているドア以外では解錠できません。
- 洗車や大雨などでドアハンドルに大量の水がかかると、電子キーが作動範囲内にある場合ドアが解錠することがあります。（ドアの開閉操作がなければ約 30 秒後に自動的に施錠されます。）
- 車両に近い位置に電子キーがあるときにワイヤレスリモコンなどで施錠を行うと、スマートエントリー&スタートシステムによる解錠ができなくなることがあります。（ワイヤレスリモコンを使って解錠すると復帰します。）

■施錠時の留意事項

- 手袋を着けてロックセンサーに触れた場合、施錠が遅れたり、施錠されなかったりすることがあります。その場合、手袋をはずしてロックセンサーに触れてください。
- ロック操作は、連続で 2 回まで有効で、3 回目以降はロック動作しません。
- キーを携帯して洗車などで水をドアハンドルにかけた場合、施錠／解錠動作を繰り返すことがあります。その場合はキーを車両から 2m 以上離れた場所に保管して、洗車等をしてください（キーの盗難に注意してください）。
- 車内にキーがあるときに、洗車機で洗車するなどして水をドアハンドルにかけた場合、警報がマルチインフォメーションディスプレイに表示され、車外のブザーが吹鳴することがあります。その場合は全ドアを施錠すれば警報は表示されなくなります。
- ロックセンサーの表面に氷や雪、泥が付着した場合、センサーが反応しない場合があります。反応しない場合は表面に付着した氷や雪、泥を取り除いて再度操作するか、ドアハンドル下部のロックセンサーを使って操作してください。
- ドアハンドルを操作するときに、爪がドアに当たる場合があります。ドアを傷つけたり、爪を割ったりしないよう注意してください。

■解錠時の留意事項

- 急なドアハンドル操作や、車外アンテナの作動範囲内へ急に入ってドアハンドルを操作したときは、解錠されない場合があります。その場合は、ドアハンドルを一度もとの位置にもどし、解錠されたことを確認してからドアハンドルを引いてください。
- 手袋を着けてドアハンドルを握った場合は、解錠が遅れたり、解錠されなかったりすることがあります。
- 作動範囲内に他の電子キーがあるときは、ドアハンドルを握ってから解錠するまでの時間が少し長くなる場合があります。

■長期間運転しないときは

- 盗難防止のため、電子キーを車から2 m以上離しておいてください。
- あらかじめスマートエントリー&スタートシステムを非作動にすることができます。(→P. 377)

■システムを正しく作動させるために

電子キーを必ず携帯した上で作動させてください。

■電子キーの検知に関する留意事項

- 車外から操作する場合は電子キーを車に近づけすぎないようにしてください。作動時の電子キーの位置や持ち方によっては、電子キーが正しく検知されず、システムが正しく作動しないことがあります。(誤って警報が鳴ったり、キー閉じ込み防止機能が働かない場合があります。)
- 電子キーが作動範囲内にあっても、以下のような場合は正しく作動しないことがあります。
 - ・ドアの施錠、解錠時に電子キーがドアガラスやドアハンドルに近づきすぎる、または地面の近くや高い場所にある場合
 - ・電子キーがインストルメントパネルやフロア上、ドアポケット、またはグローブボックス内などに置かれている場合

■スマートエントリー&スタートシステムが正常に作動しないときは

- ドアの施錠・解錠：→P. 355
- エンジン始動：→P. 356

■ 電池の消耗について

- 電池の標準的な寿命は 1 ～ 2 年です。(カードキーは 1 年半程度で消耗します。)
- 電池残量が少なくなると、エンジンを停止した際に車内から警告音が鳴ります。
(→P. 336)
- 電子キーは常に電波を受信しているため、使用していないあいだでも電池が消耗します。以下のような状態になったときは、電池が消耗している可能性があります。新しい電池に交換してください。(→P. 303)
 - ・ スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンが作動しない
 - ・ 作動範囲が狭くなった
 - ・ 電子キーの LED が点灯しない
- 電池の著しい消耗を防ぐために以下のような磁気を発生する電化製品の 1 m 以内に電子キーを保管しないでください。
 - ・ T V
 - ・ パソコン
 - ・ 携帯電話やコードレス電話機、および充電器
 - ・ 電気スタンド
 - ・ 電磁調理器

■ 電池が切れたときは

→P. 303

■ カスタマイズ機能

スマートエントリー&スタートシステムを非作動にするなどの変更ができます。
(カスタマイズ一覧 →P. 377)

**警告****■ 電波がおよぼす影響についての警告**

- 植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器を装着されている方は、室内アンテナ・車外アンテナから約 22 cm 以内に近づかないようにしてください。(→P. 34) 電波により植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。
- 植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用される場合は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波により医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

スマートエントリー&スタートシステムを非作動にすることもできます。詳しくは雷克萨斯販売店にお問い合わせください。

1-2. ドアの開閉のしかた、ロックのしかた ワイヤレスリモコン

ドアを施錠・解錠できます。



- 1** 全ドアを施錠する
- 2** ドアガラスとムーンルーフ*を閉める（押し続ける）※
- 3** 全ドアを解錠する
- 4** ドアガラスとムーンルーフ*を開く（押し続ける）※
- 5** バックドアを開閉する（押し続ける）

※ レクサス販売店ででの設定が必要です。

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

 知識

■ 作動の合図

ドア：ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。

(施錠は 1 回、解錠は 2 回)

バックドア：ブザーと非常点滅灯の点滅（2 回）で知らせます。

ドアガラス・ムーンルーフ：ブザーで知らせます。

■ 半ドア警告ブザー

ドアが完全に閉まっていない状態でドアを施錠しようとする、ブザーが鳴ります。

ドアを完全に閉めてからもう一度施錠してください。

■ 解錠操作のセキュリティ機能

→P. 36

■ バックドアのオープン機能

● バックドアは施錠されていても、ワイヤレスリモコンで開けることができます。

● ワイヤレスリモコンで開閉したあとは、バックドアは自動的に施錠されません。

■ オートアラームについて

ワイヤレスリモコンで施錠するとオートアラームが設定されます。(→P. 102)

■ パワーバックドアの反転作動について

作動中に再度ワイヤレスリモコンのスイッチを押すと、反転作動に切りかわります。

■ 電池の消耗について

→P. 40

■ ワイヤレスリモコンが正常に作動しないときは

ドアの施錠、解錠：→P. 355

■ 電池が切れたときは

→P. 303

■ カスタマイズ機能

作動合図の設定などを変更できます。(カスタマイズ一覧 →P. 377)



■ **ワイヤレスリモコンを使ってドアガラスやムーンルーフを操作するとき**

ドアガラスやムーンルーフに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、ワイヤレスリモコンによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスやムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

1-2. ドアの開閉のしかた、ロックのしかた ドア

スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコン、ドアロックスイッチを使って施錠・解錠できます。

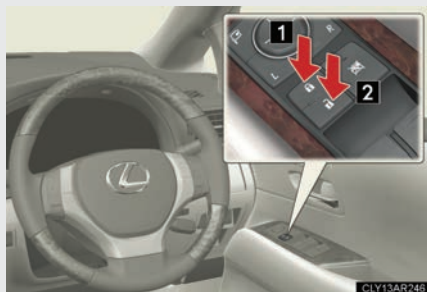
■ スマートエントリー&スタートシステム

→P. 32

■ ワイヤレスリモコン

→P. 42

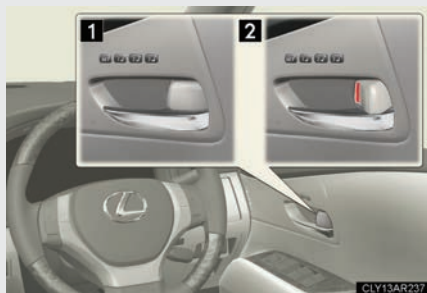
■ ドアロックスイッチ



1 全ドアを施錠する

2 全ドアを解錠する

■ ロックレバー



1 ドアを施錠する

2 ドアを解錠する

運転席ドアは、ロックレバーが施錠側になっていても、車内のドアレバーを引くと開けられます。

キーを使わずに外側からフロント席を施錠するときは

手順 1 ロックレバーを施錠側にする

手順 2 ドアハンドルを引いたままドアを閉める

“エンジン スタート ストップ” スイッチがアクセサリまたはイグニッション ON モードのときや車内に電子キーが放置されているときは施錠されません。

キーが正しく検知されずに施錠される場合があります。

チャイルドプロテクター



施錠側になると、リヤ席ドアが車内から開かなくなります

1 解錠

2 施錠

お子さまが車内からリヤ席ドアを開けられないようにできます。両側のリヤ席ドアを施錠側にしてください。



知識

■ 衝撃感知ドアロック解除システム

車が前後左右から強い衝撃を受けると、すべてのドアが解錠されます。衝撃の度合いや事故の形態によっては作動しないことがあります。

■ メカニカルキーでの施錠・解錠

メカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。(→P. 355)

■ チャイルドプロテクター使用時のドアの開け方

ドアを解錠して車外のドアハンドルを引くと開きます。万一車内から開ける場合は、ドアガラスを下げて手を出し、車外のドアハンドルを引いてください。

■ 不正キーの使用について

指定のメカニカルキー以外のキーを使用すると、キーシリンダーが空回りして解錠できません。

■ カスタマイズ機能

キー操作によって解錠されるドアの設定などを変更できます。
(カスタマイズ一覧 →P. 377)



警告

■ 事故を防ぐために

運転中は以下のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、不意にドアが開き、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- シートベルトを必ず使用する
- すべてのドアを施錠する
- すべてのドアを確実に閉める
- 走行中はドア内側のドアハンドルを引かない

ドアが開き車外に放り出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。特に、運転席はロックレバーが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。

- お子さまをリヤ席に乗せるときは、チャイルドプロテクターを使用して車内からドアが開かないようにする



■ ドアを開閉するときは

傾斜地・ドアと壁などのあいだが狭い場所・強風など、周囲の状況を確認し、予想せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。

1-2. ドアの開閉のしかた、ロックのしかた バックドア

バックドアは以下の方法で施錠・解錠および開けることができます。

■ バックドアの施錠・解錠

- ▶ ドアロックスイッチ
→P. 45
- ▶ スマートエントリー & スタートシステム
→P. 31
- ▶ ワイヤレスリモコン
→P. 42

■ 車外からバックドアを自動で開けるには

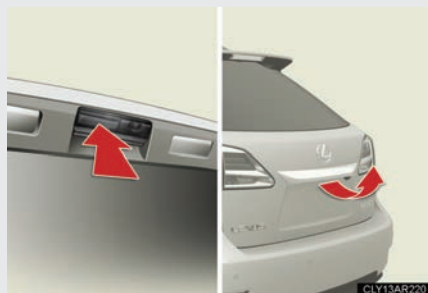
- ▶ バックドアオープンスイッチ



バックドアオープンスイッチを
押す

- ▶ ワイヤレスリモコン
→P. 42

■ 車外からバックドアを手動で開けるには※



バックドアオープンスイッチを
押したまま、バックドアを持ち上
げる

※ レクサス販売店ででの設定が必要で
す。

■ 車内からバックドアを開けるには



スイッチを押し続ける

開閉作動中に再度スイッチを押すと、反転作動します。

パワーバックドアクローズスイッチ



スイッチを押すとブザーが鳴り、非常点滅灯が2回点滅し、バックドアが自動で閉まります。

バックドアが閉まる途中でスイッチを押すと、バックドアは再び開きます。

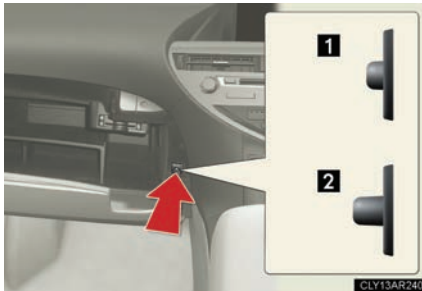
バックドアを開めるときは



バックドアハンドルを持ってバックドアを引き下げ、必ず外から押して閉めてください。

パワーバックドアを使用できなくするには

グローブボックス内のパワーバックドアメインスイッチを OFF にします。



1 ON

2 OFF

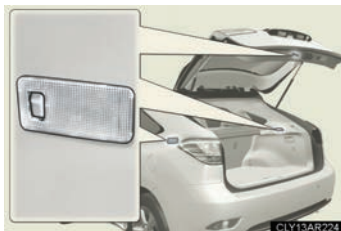
ワイヤレスリモコン、バックドアスイッチでもバックドアを開けられなくなります。

知識

■パワーバックドアの作動可能条件

- バックドアが解錠されている。(バックドアオープンスイッチまたはワイヤレスリモコン使用時は、バックドアが施錠されていてもパワーバックドアは作動します。)
- パワーバックドアメインスイッチが ON になっている。
- “エンジン スタート ストップ” スイッチがイグニッション ON モードのとき開作動するには上記に加え、車速が 3 km/h 未満かつシフトレバーが P になっている必要があります。(バックドアオープンスイッチ使用時)
- “エンジン スタート ストップ” スイッチが OFF になっている。(ワイヤレスリモコン使用時)

■ラゲージルームランプ

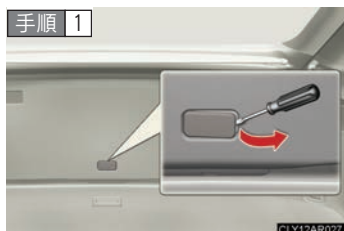


スイッチをONにしておくとバックドアを開けたとき、ラゲージルームランプが点灯します。

“エンジン スタート ストップ” スイッチを OFF にしたときに、ラゲージルームランプが点灯したままの場合、約 20 分後に自動消灯します。

■ バックドアが開かないときは

バックドアを内側から開けることができます。



カバーをはずす。



レバーを押す。

■ バックドアイージークローザー

バックドアが半ドア状態になったとき、イージークローザーが作動しバックドアが自動で閉まります。

- “エンジン スタート ストップ” スイッチが OFF になっていても、イージークローザーは作動します。
- イージークローザーが作動中でも、バックドアオープンスイッチを押してバックドアを開けることができます。

■パワーバックドアの作動について

- 作動開始時にブザーが鳴り、非常点滅灯が2回点滅します。
- パワーバックドアメインスイッチがOFFのときは、パワーバックドアは作動しませんが手動で開閉できます。
- パワーバックドア自動開閉中に、バックドアオープンスイッチを押すと、手動操作に切り替わります。
- パワーバックドア自動開閉中に人や異物などにより挟み込みを感知すると、ブザーが鳴り、その位置から自動的にドアは反対方向に動きます。
- 連続して2回以上の閉方向の異常を感知するとブザーが鳴り、手動操作に切り替わります。

■バックドアが開いているときにバッテリーを再接続またはヒューズを交換したときは※

パワーバックドアを適切に作動させるために、初期設定としてバックドアを手動で一度全閉にしてください。

※バックドアが閉まっているときにバッテリーを再接続またはヒューズを交換したときは、初期設定の必要はありません。

■挟み込み防止機能



パワーバックドアの左右端部には、センサーがついています。ドアを自動で閉めているときに、挟み込みなどによりセンサーが押されると挟み込み防止機能が作動し、その位置からドアは自動的に反対方向に動き、全開位置で停止します。

 警告

■ **走行中の警告**

- 走行中はバックドアを開めてください。
開けたまま走行すると、バックドアが車外のものにあたったり荷物が投げ出されたりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
また、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡につながるおそれがあります。走行前にバックドアが閉まっていることを必ず確認してください。
- 走行前にバックドアが完全に閉まっていることを確認してください。バックドアが完全に閉まっていないと、走行中にバックドアが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ラゲージルームには絶対に人を乗せないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ **お子さまを乗せているときは**

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ラゲージルームでお子さまを遊ばせないでください。
誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。
- お子さまにはバックドアの開閉操作をさせないでください。
不意にバックドアが動いたり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

警告

■バックドアの操作にあたって

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- バックドアを開ける前に、バックドアに貼り付いた雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでバックドアが突然閉じるおそれがあります。
- バックドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- 人がいるときは、安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- 強風時の開閉には十分注意してください。

バックドアが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。



- 半開状態で使用すると、バックドアが突然閉じて重大な傷害を受けるおそれがあります。とくに傾斜した場所では、平坦な場所よりもバックドアの開閉がしにくく、急にバックドアが開いたり閉じたりするおそれがあります。必ずバックドアが全開で静止していることを確認して使用してください。



- バックドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。
- バックドアは必ず外から軽く押して閉めてください。バックドアハンドルを持ったままバックドアを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります。

- バックドアダンパーステアを持ってバックドアを閉めたり、ぶらさがったりしないでください。

手を挟んだり、バックドアダンパーステアが破損したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- バックドアにキャリアなどの重いものを取り付けると、開けたあとにドアが突然閉じて、手・頭・首などを挟むおそれがあります。バックドアへのアクセサリ用品の取り付けは、レクサス純正品を使用することをおすすめします。

警告

■ イージークローザーについて



- バックドアが半ドア状態になったとき、イージークローザーが働き自動で完全に閉まります。また、作動し始めるまでに数秒かかります。指などを挟まないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあります。

- イージークローザーは、パワーバックドアメインスイッチがOFFであっても作動するため、指などの挟み込みには十分注意してください。

■ パワーバックドアについて

パワーバックドアの操作時は、次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 周辺の安全を確かめ、障害物がないか、身のまわりの品が挟み込まれる危険がないか確認してください。
- 人がいるときは、作動させる前に安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- 自動開閉中にパワーバックドアメインスイッチをOFFにすると、作動が停止し手動操作に切り替わります。この場合、バックドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので、十分注意してください。
- 自動開閉中に作動可能条件を満たさなくなったときは、ブザーが鳴り、作動が停止し手動操作に切りかわる場合があります。この場合、坂道などの傾斜した場所ではバックドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので十分注意してください。
- 傾斜した場所では、開いたあとにドアが突然閉じる場合があります。必ずドアが全開で静止していることを確認してください。

 警告

- 次のような場合、システムが異常と判断して自動作動が停止し、手動作動に切り替わることがあります。この場合、バックドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので、十分注意してください。
 - ・ 自動作動中、障害物に干渉したとき
 - ・ エンジン停止時でパワーバックドアが自動作動しているときに、“エンジンスタートストップ”スイッチをイグニッション ON モードにしたりエンジンを始動したりして、バッテリー電圧が急に低下したとき
- バックドアにキャリアなどの重いものを取り付けると、自動で作動できずにパワーバックドアが故障したり、開いたあとにドアが突然閉じて、手・頭・首などを挟むおそれがあります。バックドアへのアクセサリ用品の取り付けは、レクサス純正品を使用することをおすすめします。

■ 挟み込み防止機能

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 挟み込み防止機能が作動したときは、十分注意してください。バックドアに当たりけがをするおそれがあります。
- 挟み込み防止機能はバックドアが閉まる途中で異物を感知すると反転しますが、体を挟んだ場合けがをするおそれがあるため、十分注意してください。
- 挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、体の一部を挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、バックドアが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。
- パワーバックドアの左右端部のセンサーは障害物を検知し、挟み込みを防止する装置です。挟まれる物の形状や挟まれかたによっては検知できない場合があります。ドア開閉時は指などを挟まないよう十分注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

 注意

■ ダンパーステアについて

バックドアにはバックドアを支えるためのダンパーステアが取り付けられています。ダンパーステアの損傷や作動不良を防ぐため次のことをお守りください。



- ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステアのロッド部（棒部）に付着させない
- ロッド部を軍手などで触れない
- バックドアにレクサス純正品以外のアクセサリ用品をつけない
- ステアに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない

■ イージークローザーの故障を防ぐために

- イージークローザーの作動中はバックドアに無理な力をかけないでください。
- バックドアの開け閉めを短時間に繰り返すとイージークローザーが作動しないことがあります。この場合、1度ドアを開け、少し時間をおいてから閉めなおすと作動します。

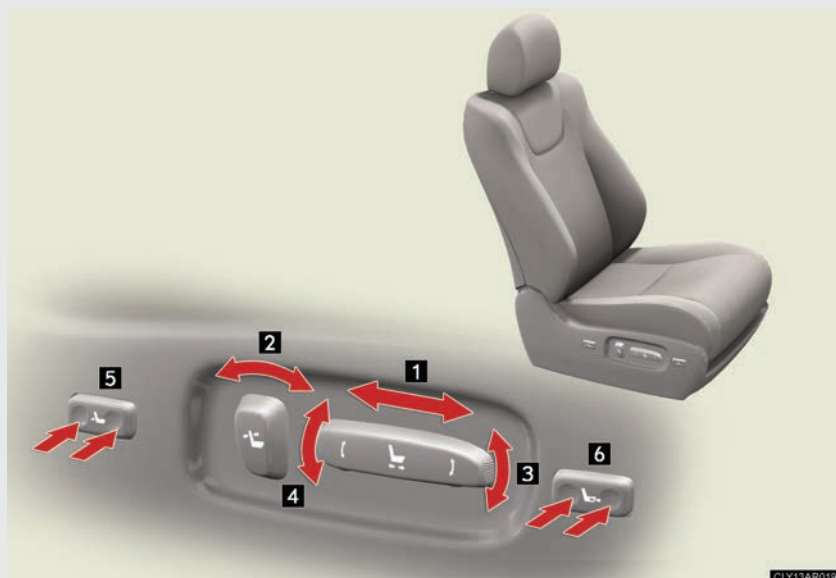
■ パワーバックドアの故障を防ぐために

- パワーバックドアを作動させる前に、凍結によるバックドアの貼り付きがないことを確認してください。バックドアに無理な力がかかっている状態で作動させると、故障の原因になります。
- パワーバックドアの作動中は、バックドアに無理な力をかけないでください。
- パワーバックドア左右端部のセンサーを刃物などの鋭利なもので傷つけないように注意してください。センサーが切断されると自動で閉めることができなくなります。
- パワーバックドアが自動で全開した直後に手でバックドアを閉めようすると抵抗を感じる場合があります。

1-3. シート、ミラー、ハンドルの調整のしかた フロントシート

1

運転する前に



- 1 前後位置調整
- 2 リクライニング調整
- 3 クッション前端的上下調整
- 4 シート全体の上下調整
- 5 腰部硬さ調整（ランバーサポート）
- 6 クッションの長さ調整*

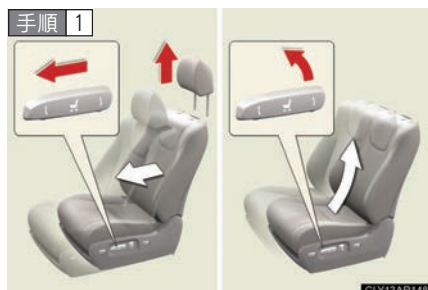
*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

フラットシートの作りかた

■ 背もたれを倒す前に

リヤシートをいちばんうしろまで移動させてください。(→P. 62)

■ シートを平らにする



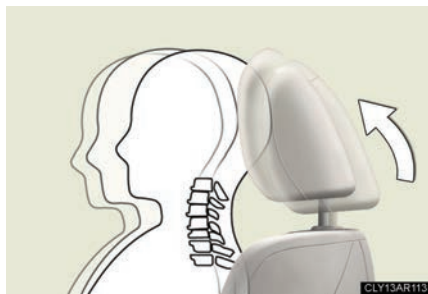
フロントシートのヘッドレストを取りはずし (→P. 70)、シート全体をいちばん前および上まで移動させる

シートを元にもどしたら、必ずヘッドレストを取り付けてください。



リクライニングスイッチを押しながら、背もたれをいちばんうしろまで倒す

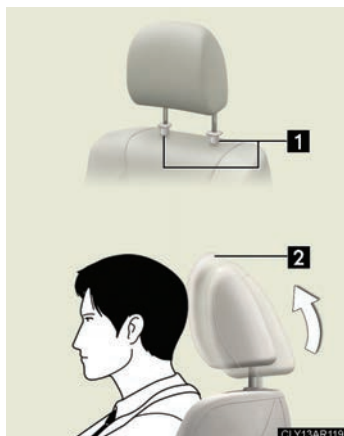
アクティブヘッドレスト



追突の衝撃によって、乗員の腰がシートバックを押すことでヘッドレストが少し斜め上方に動き乗員のむち打ち傷害軽減に貢献します。

 知識

■ アクティブヘッドレスト



シートバックへの衝撃が弱い場合でもアクティブヘッドレストが作動することがあります。なお、解除ボタンを押さずにヘッドレストを無理に押し上げると、ヘッドレストの構造部品が出てきますが、故障ではありません。

1 構造部品

2 作動状態

1

運転する前に

 警告

■ シート調整について

- 背もたれは必要以上に倒さないでください。
倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 走行中は運転席シートの調整をしないでください。シートが突然動いて運転を誤り、思わぬ事故の原因となるおそれがあります。

1-3. シート、ミラー、ハンドルの調整のしかた リヤシート

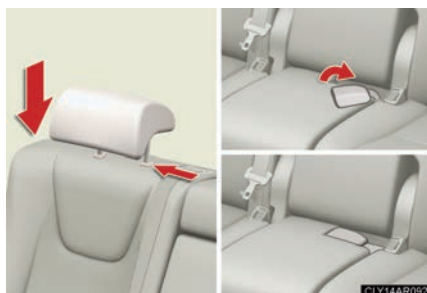


1 前後位置調整

2 リクライニング調整

背もたれを前に倒す

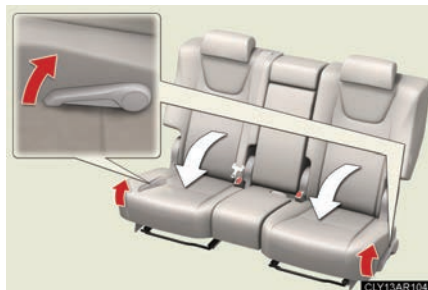
■ 操作する前に



ヘッドレストとセンターシートの
シートベルトバックルを格納する

■ 前に倒すときは

▶ 車内から



リクライニングレバーを引く

もどすときは背もたれを起こし、固定してください。

▶ 車外から



レバーを引く

左のレバー：左のシート

右のレバー：右・中央のシート

もどすときは背もたれを起こし、固定してください。

■ 中央のシートだけを倒すときは



レバーを引いて、背もたれを前方に倒す

もどすときは背もたれを起こし、固定してください。

警告

■ 背もたれを前倒しするときは

以下のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中に前倒しをしない
- シートに座ったまま、または荷物を置いたままで前倒しをしない
- 平坦な場所でパーキングブレーキを確実にかけ、シフトレバーを P にする
- 倒した状態でシートを前後に軽くゆさぶり、前後調整位置が確実に固定されていることを確認する
- 倒した背もたれの上やラゲージルームに人を乗せて走行しない
- お子さまがラゲージルームに入らないよう注意する

■ リクライニング調整について

背もたれを必要以上に倒さないでください。事故のときに体がシートベルトの下にもぐり腹部などに強い圧迫を受けたり、肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 背もたれをもとの位置にもどしたあとは

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- シートを前後に軽くゆさぶり、確実に固定されていることを確認する
- シートベルトを挟み込まないようにする

■ 前後調整をするときは

- 足元のスペースを確保し足をフロント席に挟まないように注意してください。
- 中央のシートベルトバックルを格納し、挟み込まないようにする。

注意

■ 背もたれを前倒しするときは

背もたれを倒す前に、必ずシートベルトとバックルを格納してください。

ドライビングポジションメモリー*

お好みのドライビングポジション（運転席・ハンドルの位置・ドアミラーの角度）を登録して、ワンタッチで呼び出すことができます。また、ドアの解錠と連動させることもできます。

ドライビングポジションは3パターンまで登録できます。

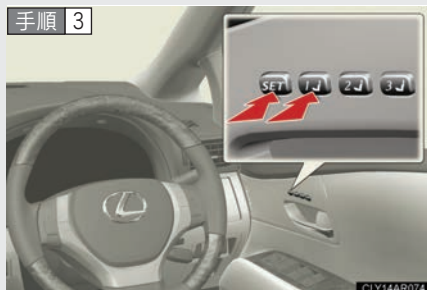
助手席ドアスイッチ*は助手席の位置を登録できます。

■ ポジションの登録

手順 1 “エンジン スタート ストップ” スイッチをイグニッション ON モードにする

手順 2 運転席・ハンドル・ドアミラー角度をお好みの位置に調整する

手順 3



SET ボタンを押したあと、3 秒以内に1～3のうち登録したいボタンをブザーが鳴るまで押す

すでに同じボタンに登録されている場合は、上書きされます。

■ ポジションの呼び出し

手順 1 シフトレバーがPの位置にあることを確認する

手順 2 “エンジン スタート ストップ” スイッチをイグニッション ON モードにする

手順 3



1 ～ 3 のうち呼び出したいポジションのボタンをブザーが鳴るまで押す

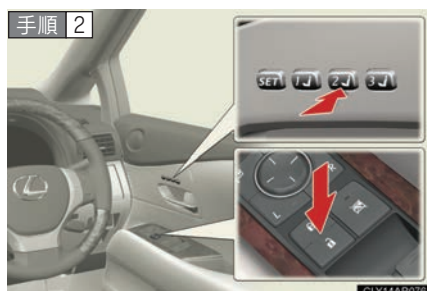
* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

ドアの解錠と連動させるには（運転席のみ）

お好みのポジションをあらかじめ 1 ～ 3 のいずれかのボタンに登録しておきます。

登録させたいキー（カードキーを含む）のみ携帯してください。車内にキーが2つ以上あると、正確に登録できません。

手順 1 シフトレバーを P にし、運転席ドアを閉めて、“エンジン スタートストップ” スイッチをイグニッション ON モードにする



1 ～ 3 のうち連動させたいボタンを押しながら、ドアロックスイッチ（運転席側）の施錠側または解錠側をブザーが鳴るまで押す

スマートエントリー&スタートシステムまたはワイヤレスリモコンでドアを解錠して運転席ドアを開けると、ドライビングポジションが呼び出されます。

パワーイージーアクセスシステム（運転席のみ）

運転者が乗り降りする際に、ハンドルと運転席が自動で、以下のように動きます。



降車時：以下のすべての操作を行ったとき、ハンドルが最上段・最前方に移動、運転席シートが後方に移動（オートアウェイ機能）

- ・ シフトレバーを P に入れる
- ・ “エンジン スタート ストップ” スイッチを OFF にする
- ・ シートベルトをはずす

乗車時：以下のいずれかの操作を行ったとき、ハンドルが手前に移動、運転席シートが前方に移動（オートリターン機能）

- ・ “エンジン スタート ストップ” スイッチをアクセサリーモードにする
- ・ シートベルトを装着する

 知識

■ ドアの解錠と連動させたとき

運転席ドアを開けると運転席が登録したポジションまで動くように作動しますが、乗車しやすいように登録したポジションより少し後方でいったんシートが止まります。“エンジンスタートストップ”スイッチをアクセサリモードにする、またはシートベルトを装着すると、登録したポジションまでもう一度スライドします。

■ ドアの解錠との連動を解除するには

手順 1 “エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッション ON モードにし、運転席ドアを閉める

手順 2 SET ボタンを押しながら、ドアロックスイッチの施錠側または解錠側をブザーが鳴るまで押す

■ “エンジン スタート ストップ” スイッチ OFF 後の作動

“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にしたあとも、運転席ドアを開けて 180 秒以内、およびその後再び運転席ドアを閉めて 60 秒以内ならポジションの呼び出し（ハンドルを除く）ができます。

■ ポジションの呼び出し作動を止めるには

以下のいずれかの操作をします。

- SET ボタンを押す
- 1 ～ 3 のボタンを押す
- シート調整スイッチを操作する（シートのみ作動停止）
- ハンドル調整スイッチを操作する（ハンドルのみ作動停止）

■ シート位置の正しい再生について

シート位置が、各シート調整機構の最端部にある状態で、更にその方向に操作すると、システムがシートの現在位置を誤認識し、メモリー再生位置にずれが生じることがあります。

■ 降車時の運転席シートのオートアウェイ機能について

降車時に、シートの位置が最後方に近い位置にある場合、オートアウェイ機能を行わない場合があります。

■ カスタマイズ機能

オートアウェイ機能によるシート移動量を変更できます。

シート移動量を OFF にした場合、ハンドルのオートアウェイ／オートリターン機能は“エンジン スタート ストップ” スイッチのみに連動します。

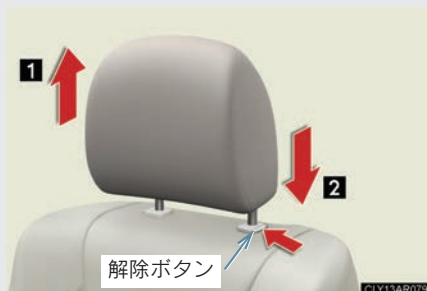
(カスタマイズ一覧 →P. 377)

警告

■ シート調整時の警告

シート調整中は、シートがリヤ席乗員に当たったり、運転手の体がハンドルに圧迫されたりしないよう注意してください。

1-3. シート、ミラー、ハンドルの調整のしかた ヘッドレスト



1 上がる

2 下がる

下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。

知識

■ヘッドレストを取りはずすときは



解除ボタンを押しながら取りはずします。

■ヘッドレストの高さについて（フロント席）



必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上のあたりになるよう調整してください。

■リヤ席について

使用するとき、常に最上段ロック位置にしてください。

 警告**■ヘッドレストについて**

以下のことをお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する
- ヘッドレストを正しい位置に調整する
- ヘッドレストを調整したあとは、固定されていることを確認する
- ヘッドレストをはずしたまま走行しない

1-3. シート、ミラー、ハンドルの調整のしかた シートベルト

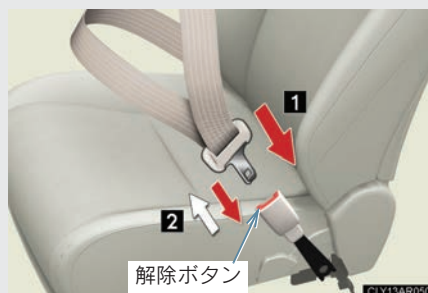
走行前にすべての乗員は必ずシートベルトを正しく着用してください。

■ 正しく着用するには



- 肩部ベルトを肩に十分かける
首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。
- 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
- 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る
- ねじれが無いようにする

■ 着け方、はずし方



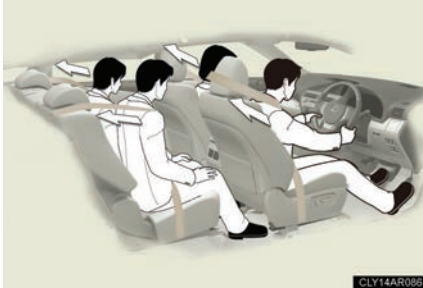
- 1 ベルトを固定するには、“カチツ”と音がするまでプレート
をバックルに差し込む
- 2 ベルトを解除するには、解除ボ
タンを押す

■ シートベルトの高さ調節（フロント席）



- 1 解除ボタンを押しながら、ア
ジャスターを下げる
- 2 アジャスターを上げる
“カチツ”と音がして固定されと
ころまで動かしてください。

シートベルトプリテンショナー（フロント席、リヤ外側席）



前方から強い衝撃を受けたとき、シートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果を確保します。

前方からの衝撃が弱いときや、横や後ろからの衝撃のときは作動しない場合があります。

プリクラッシュシートベルト（プリクラッシュセーフティシステム装着車フロント席）

衝突が避けられないと判断したとき、衝突前にシートベルトを巻き取りま
す。（→ P. 219）

知識

■ シートベルトロックの解除方法

急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。一度ベルトを巻きもどし、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

■ お子さまのシートベルトの使い方

この車のシートベルトは、シートベルトを着用するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

- シートベルトが正しい位置で着用できない小さなお子さまの場合は、お子さまの体に合ったチャイルドシートを使用してください。（→P. 119）
- シートベルトが正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用のしかたに従ってください。（→P. 72）

■ シートベルトプリテンショナーについて

シートベルトプリテンショナーは、一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

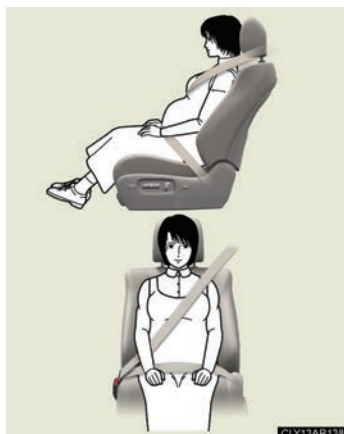
警告

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■シートベルトの着用について

- 全員がシートベルトを着用する
- シートベルトを正しく着用する
- シートベルトは一組につき一人で使用する
お子さまでも一組のベルトを複数の人で使用しない
- お子さまはリヤ席に座らせてシートベルトを着用させる
- 背もたれは必要以上に倒さない
上体を起こし、シートに深く座る
- 肩部ベルトを腕の下に通して着用しない
- 腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する

■妊娠中の女性の場合



医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。(→P. 72)

妊娠中の方も、通常の着用の仕方と同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に着用してください。また、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。

ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■疾患のある方の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。

 警告**■ お子さまをのせるときは**

お子さまをシートベルトであそばせないでください。万一ベルトが首に巻きついた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。誤ってそのような状態になってしまい、バックルも外せない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

■ プリテンショナー付きシートベルトについて

シートベルトプリテンショナーが作動すると SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合はシートベルトを再使用することができないため、必ずレクサス販売店で交換してください。

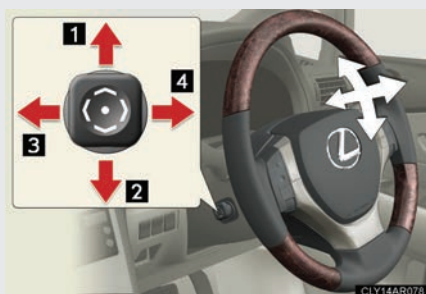
■ シートベルトの損傷・故障について

- ベルトやプレート、バックルなどは、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。
- シートベルトが損傷したときはシートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。
- プレートがバックルに確実に差し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく差し込めない場合はただちにレクサス販売店に連絡してください。
- もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート・シートベルトを交換してください。
- プリテンショナー付きシートベルトの取り付けや取りはずし・分解・廃棄などは、レクサス販売店以外でしないでください。
不適切に扱うと、正常に作動しなくなり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

1-3. シート、ミラー、ハンドルの調整のしかた ハンドル

ハンドル位置を運転しやすいように調整できます。

スイッチを操作すると、ハンドルを下記の方に動かします。



- 1 上方へ
- 2 下方へ
- 3 前方へ
- 4 手前へ

オートアウェイ&オートリターン機構



“エンジン スタート ストップ” スイッチを OFF にすると、乗降がしやすいようにハンドルが動きます。

“エンジン スタート ストップ”スイッチをアクセサリまたはイグニッション ON モードにすると、もとの位置にもどります。

 知識**■ ハンドル位置調整の作動条件**

“エンジン スタート ストップ” スイッチがアクセサリモードまたはイグニッション ON モードのとき※

※ドライビングポジションメモリー装着車は、シートベルトを装着していれば“エンジン スタート ストップ” スイッチの位置にかかわらず、ハンドルの調整ができます。

■ ハンドル位置の自動調整（ドライビングポジションメモリー装着車）

お好みのハンドル位置をドライビングポジションメモリーに登録すると、自動で調整されます。（→P. 65）

■ ドライビングポジションメモリー装着車のオートアウェイ&オートリターン機構について

“エンジン スタート ストップ” スイッチ OFF 時のアウェイ作動は、シート移動量の設定（→P. 377）が OFF 以外で、シートベルトをはずした状態でのみ作動します。また、シートベルトを装着すると、もとの位置に戻ります。（→P. 67）

 警告**■ 走行中の警告**

運転中はハンドル位置の調整をしないでください。

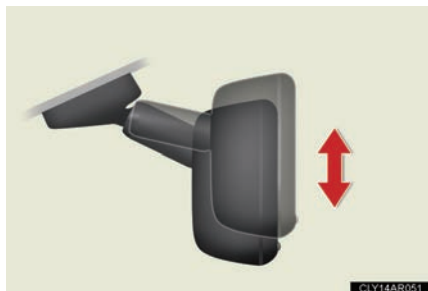
運転を誤り、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

1-3. シート、ミラー、ハンドルの調整のしかた

インナーミラー

座った姿勢に合わせて、後方を十分に確認できるようにミラーの位置を調整することができます。

上下調整のしかた

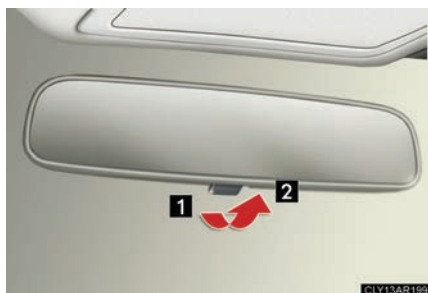


インナーミラー本体を持って、上下方向に調整する。

防眩機能

▶ 手動防眩ミラー

レバーを操作することで、後続車のヘッドランプによる反射光を減少させます。

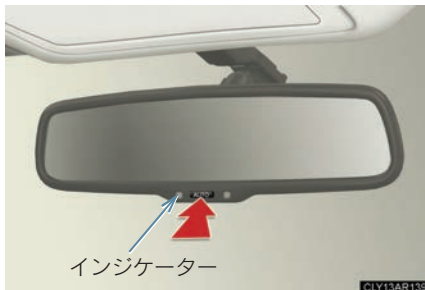


1 通常使用時

2 防眩時

▶ 自動防眩ミラー

後続車のヘッドランプのまぶしさに応じて反射光を自動的に減少させます。



自動防眩機能の切りかえ ON/OFF

ON のときはインジケーターが点灯します。

“エンジンスタートストップ” スイッチをイグニッションONモードにしたときは、ミラーは常に自動防眩機能が ON になっています。

ボタンを押すと OFF になりインジケーターが消灯します。

知識

■ センサーの誤作動防止*



センサーの誤作動を防ぐため、センサーにふれたりセンサーを覆ったりしないでください。

警告

■ 運転中の警告

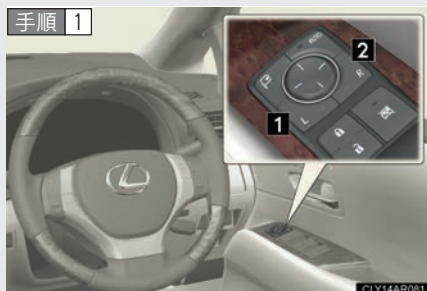
運転中はミラーの調整をしないでください。

運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

1-3. シート、ミラー、ハンドルの調整のしかた ドアミラー

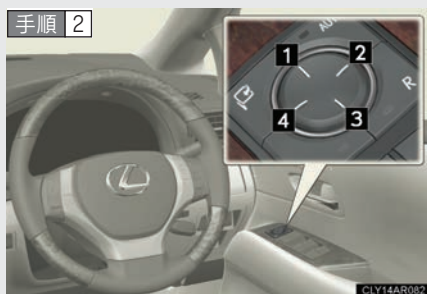
スイッチで鏡面の角度調整をします。



調整するミラーを選ぶには、スイッチを押す

- 1 左
- 2 右

もう一度押すと、選択が解除されます。

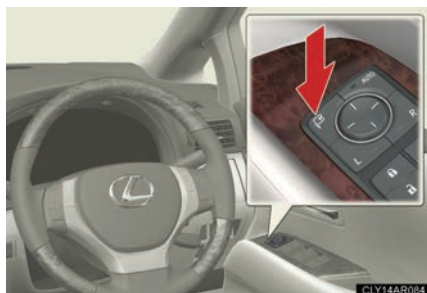


ミラーの鏡面を調整するにはスイッチを押す

- 1 上
- 2 右
- 3 下
- 4 左

ドアミラーを格納するときは

■ マニュアル作動での格納・復帰のしかた

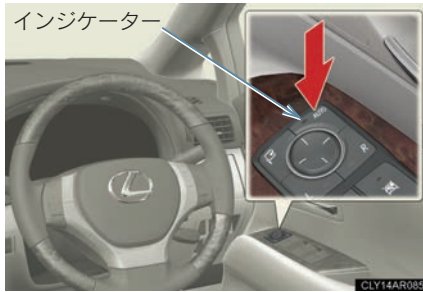


ボタンを押す

もう一度押すと、もとの位置にもどります。

■ オート作動での格納・復帰のしかた

スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンによるドアの施錠・解錠に連動して、ドアミラーを自動的に格納・復帰させることができます。



ボタンを押す

ボタンを押すと、インジケーターが点灯します。

もう一度ボタンを押すと、マニュアル作動にもどります。

サイドモニターシステム

■ 画面の出し方



サイドカメラスイッチを押すと、画面が表示されます。

詳しくは別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

□ 知識

■ 作動条件

“エンジン スタート ストップ” スイッチがアクセサリモードまたはイグニッション ON モードのとき

■ ミラーが曇ったときは

リヤウインドウデフォグガーを作動させると、ミラーヒーターが同時に作動し、曇りを取ることができます。(別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください)

■ リバース連動機能

ミラー選択スイッチが L または R の位置になっているときは、後退時にミラーの角度が下向きになり、下方が見やすくなります。この機能を使用しないときは、ミラー選択スイッチを中立の位置 (L・R の間) にしてください。

■ レインクリアリングミラー*

鏡面に付着した水滴を膜状に広げる親水効果を持つコーティングを施しており、雨天時における後方視認性を向上させます。

- 鏡面に汚れなどが付着したときや、地下や屋内駐車場などの日のあたらない場所に長時間駐車したときなどは親水効果が低下しますが、晴天時に 1・2 日間太陽光をあてることで親水効果は徐々に回復します。
- 低下した親水効果を早く回復させたいときは回復作業 (→ P. 265) を行ってください。

■ ミラー角度の自動調整 (ドライビングポジションメモリー装着車)

お好みのミラー角度をドライビングポジションメモリーに登録すると、自動で調整されます。(→P. 65)

■ 自動防眩機能*

インナーミラーを自動モードにしておくと、ドアミラーも連動して防眩機能が作動します。(→P. 78)

■ 寒冷時に「オート作動」で使用するときは

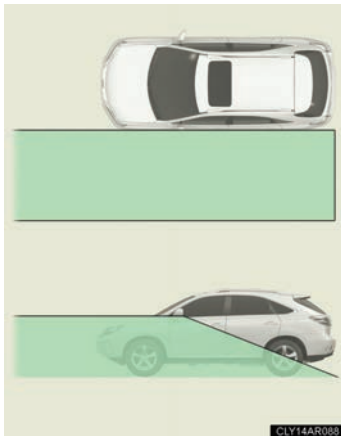
寒冷時に「オート作動」で使用していると、ドアミラーが凍結して、自動で格納・復帰ができないことがあります。この場合、ドアミラーに付着している氷や雪などを取り除いたあと、「マニュアル作動」で作動させるか、手で動かしてください。

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

■サイドモニターについて

- 発進時またはごく低速時、左側車両側面を確認するときに役立ちます。
- この車は構造上、通常の乗用車に比べ、車両の左斜め前方が確認しにくいいため、発進時やごく低速時はサイドモニターなどを使用し、必ず周囲の安全を確認してください。

■サイドモニターに映るおよその範囲



⚠ 警告

■走行しているときは

走行中は以下のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、運転を誤って重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ミラーの調整をしない
 - ミラーを格納したまま走らない
- 走行前に必ず、運転席側および助手席側のミラーをもとの位置にもどして、正しく調整する

警告

■ ミラーが動いているときは

手を触れないでください。

手を挟んでけがや、ミラーの故障などの原因になるおそれがあります。

■ ミラーヒーターが作動しているときは

鏡面が熱くなるのでふれないでください。

■ サイドモニターに関する警告

- 必ず車の前方や左右の安全を直接確認しながら運転してください。
- サイドモニターは、左側の視界を確保するために保安基準上必要な装置です。故障したときは速やかにレクサス販売店で点検を受けてください。
- ドアミラーを格納したまま走行しないでください。ドアミラーを格納した状態でサイドモニターを表示させると、ドアミラーの根元が映り込むため、車両前端付近での状況が確認できず、事故につながるおそれがあります。

注意

■ レインクリアリングミラーの取り扱いについて

親水効果には限りがあります。長持ちさせるためには次のことをお守りください。

- シリコン入りの撥水剤や油膜取り剤、ワックス、その他のカーメンテナンス商品を使用する場合は、鏡面に付着させないよう十分注意してください。
- 砂の付いた布、油膜取り剤、研磨剤など、鏡面を傷付けるものでこすらないでください。
- 鏡面が凍結したときは、温水をかけるか、ミラーヒーターを作動させるなどして解氷してください。
鏡面の凍結部分はプラスチックの板などで削り落とさないでください。
- 撥水洗車を行ったときは、鏡面を大量の水で洗い、きれいなやわらかい布などでふき取ってください。

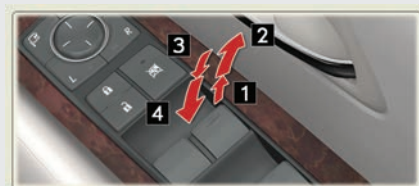
■ サイドモニター使用時の注意

車両の前後確認は直接確認するか、インナーミラー、ドアミラーなども併用して十分行ってください。

1-4. ドアガラス・ムーンルーフの開け方、閉め方 パワーウィンドウ

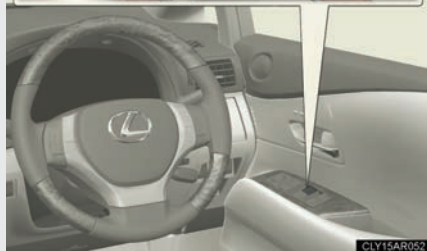
スイッチでドアガラスを開閉できます。

スイッチを操作すると、ドアガラスを下記のように動かします。



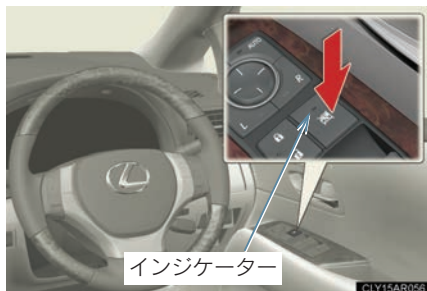
- 1 閉める
- 2 自動全閉※
- 3 開ける
- 4 自動全開※

※途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。



CLY15AR052

ウインドウロックスイッチ



インジケーター

スイッチを押すと、インジケーターが点灯し、運転席以外のドアガラスが作動不可になります。

お子さまが誤ってドアガラスを開閉することを防止できます。

 知識

■ 作動条件

“エンジン スタート ストップ” スイッチがイグニッション ON モードのとき

■ “エンジン スタート ストップ” スイッチ OFF 後の作動

“エンジン スタート ストップ” スイッチをアクセサリモードまたは OFF にしたあとでも、約 45 秒間はドアガラスを開閉できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■ 挟み込み防止機能

ドアガラスを閉めているときに、窓枠とドアガラスのあいだに異物が挟まると、作動が停止し、少し開きます。

■ パワーウィンドウを閉めることができないときは

挟み込み防止機能が異常に作動してしまい、ドアガラスを閉めることができないときは、閉めることができないドアのパワーウィンドウスイッチで、下記の操作を行ってください。

- 車を停止し、“エンジン スタート ストップ” スイッチをイグニッション ON モードの状態で、パワーウィンドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続けることでドアガラスを閉めることができます。
- 上記の操作を行ってもドアガラスが閉まらない場合、挟み込み防止機能の初期化を次の手順で実施してください。

手順 1 パワーウィンドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを閉めたあと、さらにスイッチを 6 秒間引き続ける

手順 2 パワーウィンドウスイッチを「自動全閉」の位置で押し続け、ドアガラスを全開にしたあと、さらにスイッチを 2 秒間押し続ける

手順 3 再度、パワーウィンドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを閉めたあと、さらにスイッチを 2 秒間引き続ける

ドアガラス作動途中でスイッチから手をはなすと、最初からやり直しとなります。以上の操作を行っても反転して閉じ切らない場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

■ ドアロック連動ドアガラス開閉機能

- メカニカルキーでドアガラスを開閉できます。(→P. 355)
- ワイヤレスリモコンでドアガラスを開閉できるように、レクサス販売店で設定できます。(→P. 42)

■ 窓閉め提案機能

ドアガラスを閉めずに“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にすると、マルチインフォメーションディスプレイにドアガラスを閉める提案が表示されます。(→P. 173)

■ バッテリーをはずしたときは

ウインドウロックスイッチが OFF になるため、バッテリーを接続したあと、再度ウインドウロックスイッチを ON にする必要があります。

■ カスタマイズ機能

ドアロック連動ドアガラス開閉機能などの設定を変更できます。
(カスタマイザー一覧 →P. 377)

警告

■ ドアガラスを開閉するときは

以下のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 運転者は、乗員の操作を含むすべてのドアガラス開閉操作について責任があります。特にお子さまの誤った操作による事故を防ぐため、お子さまにはドアガラスの操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。
また、お子さまが同乗するときはウインドウロックスイッチを使用することをおすすめします。(→P. 85)



- ドアガラスを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだり巻きこんだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。

- ワイヤレスリモコンやメカニカルキーを使ってドアガラスを操作するときは、ドアガラスに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、ワイヤレスリモコンやメカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。
- 車から離れるときは“エンジン スタート ストップ”スイッチをOFFにし、キーを携帯してお子さまと一緒に車から離れてください。いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

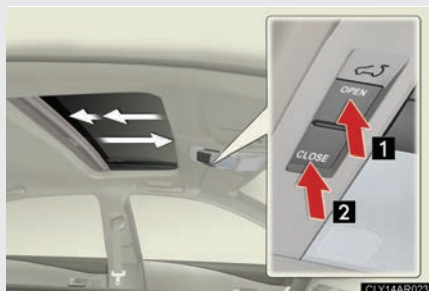
**警告****■ 挟み込み防止機能**

- 挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 挟み込み防止機能は、ドアガラスが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを引き続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあります。

ムーンルーフ*

頭上のスイッチでムーンルーフを開閉・チルトアップ/ダウンすることができます。

■ 開閉



1 ムーンルーフを開く※

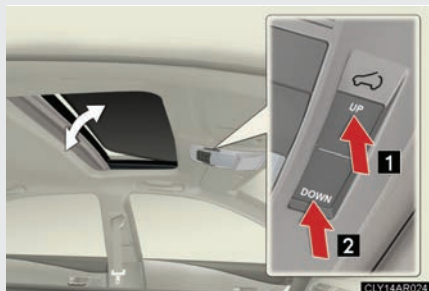
全開の手前の位置で止まります。(風切音の低減機能)

全開にしたいときはスイッチをもう一度押してください。

2 ムーンルーフを閉める※

※途中で停止するときは、ムーンルーフスイッチを軽く押します。

■ チルトアップ/ダウン



1 チルトアップ※

2 チルトダウン※

※途中で停止するときは、ムーンルーフスイッチを軽く押します。

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

 知識

■ 作動条件

“エンジン スタート ストップ” スイッチがイグニッション ON モードのとき

■ “エンジン スタート ストップ” スイッチ OFF 後の開閉作動

“エンジン スタート ストップ” スイッチをアクセサリモードまたは OFF にしたあとも、約 45 秒間は操作できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■ 挟み込み防止機能

ムーンルーフを閉めるとき、またはチルトダウンするときに、ムーンルーフが異物の挟み込みを感知すると、作動が停止し少し開きます。

■ サンシェード

手動で開閉できます。ただし、ムーンルーフが開くときは連動して開きます。

■ ドアロック連動ムーンルーフ開閉機能

- メカニカルキーでムーンルーフを開閉できます。(→P. 355)
- ワイヤレスリモコンでムーンルーフを開閉できるように、レクサス販売店で設定できます。※ (→P. 42)
 - ※ ワイヤレスリモコンでのドアガラス開閉が可能でなければ設定できません。

■ムーンルーフが正常に閉まらないときは

下記の操作を行ってください。

●閉まるときに反転し、閉じ切らない場合

手順 1 車を停止する

手順 2 スイッチの“CLOSE”側を押し続ける※¹

ムーンルーフが閉じ、再び開き、10 秒間停止します。※² その後再び閉じ、チルトアップし、1 秒間停止します。チルトダウン後、いったん開いてから閉じます。

手順 3 ムーンルーフが完全に閉まったことを確認し、スイッチから手をはなす

●チルトダウン時に反転し、閉じ切らない場合

手順 1 車を停止する

手順 2 スイッチの“UP”側を押し続け※¹、ムーンルーフをチルトアップ位置にする

手順 3 スイッチから一度手をはなし、再度“UP”側を押し続ける※¹

ムーンルーフがチルトアップの状態です。10 秒間停止し、※² 微調節後 1 秒間停止します。チルトダウン後、いったん開いてから閉じます。

手順 4 ムーンルーフが完全に閉まったことを確認し、スイッチから手をはなす

※¹ 途中でスイッチから手をはなすと、最初からやり直しとなります。

※² 10 秒間停止した後にスイッチから手をはなすと、それ以降オート作動できなくなります。その場合は、スイッチの“UP”、または、“CLOSE”側を押し続けてください。ムーンルーフがチルトアップし、1 秒間停止します。その後、チルトダウンし、いったん開いてから閉じます。ムーンルーフが完全に閉まったことを確認したら、スイッチから手を離してください。

以上の操作を行っても反転して閉じ切らない場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

■カスタマイズ機能

ドアキー連動ムーンルーフ開閉機能などの設定を変更できます。

(カスタマイズ一覧 →P. 377)

警告**■ムーンルーフを開けているときは**

以下のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中はルーフから手や顔を出さない
- 開口部に腰かけない

■ムーンルーフを開閉するときは

以下のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、骨折など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 運転者は、ムーンルーフ開閉操作について責任があります。特にお子さまの誤った操作による事故を防ぐため、お子さまにはムーンルーフの操作をさせないでください。お子さまや他の人がムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。



- ムーンルーフを開閉や、チルトダウンするときは、乗員の手・腕・頭・首を挟んだり巻きこんだりしないように注意してください。
- ワイヤレスリモコンやメカニカルキーを使ってムーンルーフを操作するときは、ムーンルーフに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、ワイヤレスリモコンやメカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

- 車から離れるときは“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にし、キーを携帯してお子さまと一緒に車から離れてください。いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。



警告

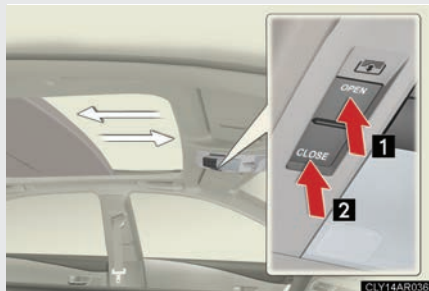
■ 挟み込み防止機能

- 挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 挟み込み防止機能は、ムーンルーフが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

電動サンシェード*

頭上のスイッチで電動サンシェードを開閉することができます。

■ 開閉



- 1 電動サンシェードを開く※
- 2 電動サンシェードを閉める※

※途中で停止するときは、スイッチを軽く押します。

□ 知識

■ 作動条件

“エンジン スタート ストップ” スイッチがイグニッション ON モードのとき

■ 挟み込み防止機能

電動サンシェードを閉めるときに、異物の挟み込みを感知すると、作動が停止し少し開きます。

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

警告

■ 電動サンシェードを開閉するときは

以下のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、骨折など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



- 電動サンシェードを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首を挟んだり巻き込んだりしないように注意してください。
- お子さまには、電動サンシェードの操作をさせないでください。
電動サンシェードに挟まれたり巻きこまれたりするおそれがあります。

■ 挟み込み防止機能

- 挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 挟み込み防止機能は、電動サンシェードが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

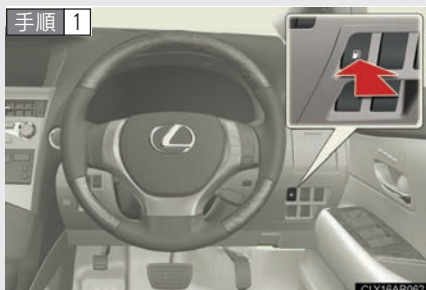
1-5. 給油のしかた 給油口の開け方

以下の手順で給油口を開けてください。

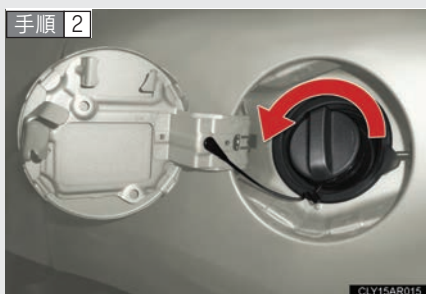
■ 給油する前に

- “エンジン スタート ストップ” スイッチを OFF にして、ドアとドアガラスを閉めてください。
- 燃料の種類を確認してください。(→P. 99)

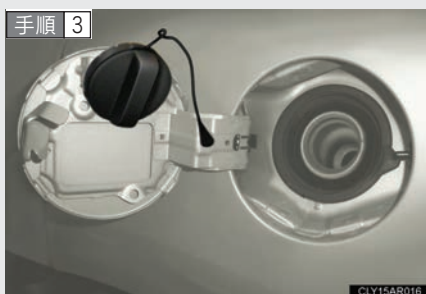
■ 給油口の開け方



オープナーを押して、給油口を開ける



キャップをゆっくりまわして開ける



キャップをハンガーにかける

給油口のキャップを開めるときは

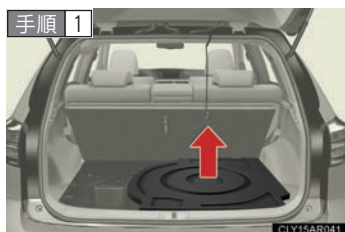


キャップを“カチッ”と音がするまでまわして閉める

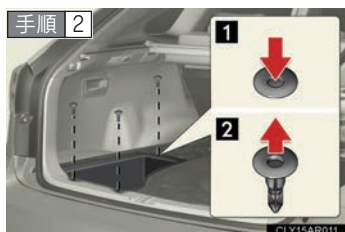
手を離すと、キャップが逆方向に少しもどります。

知識

■ 車内のスイッチで給油口が開かないときは



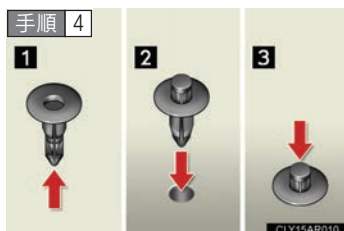
デッキボードを持ち上げ、応急用タイヤのカバーを取りはずす。



ラゲージルーム内のトレイを取りはずす。



レバーを引く。



トレイをもとの位置にもどし、クリップを使って取り付ける。

1

運転する前に

■ 燃料の種類

▶ RX270

無鉛レギュラーガソリン

▶ RX350

無鉛プレミアムガソリン（無鉛ハイオク）

■ エタノール混合燃料について

エタノール混合燃料（エタノールの混合率 3% 以下、含酸素化合物の含酸素率 1.3% 以下）も使用することができます。

⚠ 警告

■ 給油について

給油するときは以下のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 車体などの金属部分にふれて身体の静電気を除去する
除去しないと放電による火花で燃料に引火するおそれがあります。
- キャップをゆるめるときに、“シュー” という音がする場合は、その音が止まってからゆっくり開ける
キャップを開けると、キャップのツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けます。ゆっくりと開けないと、気温が高いときなどに、給油口から燃料が噴き返すおそれがあります。
- 給油口に、静電気を除去していない人を近付けない
- 気化した燃料を吸わないようにする
燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもあります。

警告

- 喫煙しない
引火して火災を引き起こすおそれがあります。
- 車内にもどったり、静電気を除去していない人や帯電しているものにふれない
再び帯電する可能性があります。

■ 給油時の注意

- ふきこぼれを防ぐため以下の点に注意してください。
 - ・ 給油口にノズルを確実に挿入する
 - ・ 継ぎ足し給油をしない
- 正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示に従ってください。

■ キャップ交換時の警告

レクサス純正品以外のキャップを使用しないでください。
純正品を使わないと火災などを引き起こし、その結果重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■ 給油するときは

指定のガソリンを使用してください。
指定以外のガソリンや他の燃料（粗悪ガソリン・軽油・灯油・高濃度アルコール含有燃料）を使用したり、燃料をこぼしたりしないでください。
次のような状態になるおそれがあります。

- エンジンの始動性が悪くなる
- エンジンからの異音や振動など（ノッキング）が発生する
- エンジン出力が低下する
- 排気制御システムが正常に機能しない
- 燃料系部品が損傷する
- 塗装が損傷する

エンジンイモビライザーシステム

キーに信号発信機が内蔵してあり、あらかじめ登録されたキー以外ではエンジンを始動できません。

車両から離れる場合は、車内にキーを残さないでください。

このシステムは車両盗難の防止に寄与する機能であり、すべての車両盗難に対する完全なセキュリティを保証するものではありません。



“エンジン スタート ストップ” スイッチを OFF にすると、システムの作動を知らせるためにインジケーターが点滅します。

登録されたキーを携帯し、“エンジンスタートストップ” スイッチをアクセサリモードまたはイグニッション ON モードにするとシステムが解除され、インジケーターが消灯します。

知識

■ メンテナンスについて

エンジンイモビライザーシステムのメンテナンスは不要です。

■ システムが正常に作動しないとき

- キーが金属製のものに接したり、覆われているとき
- キーが他の車両のセキュリティシステム用キー（信号発信機内蔵キー）と重なっているときや接近しているとき

⚠ 注意

■ エンジンイモビライザーシステムを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

オートアラーム

侵入を検知した場合、音と光で警報します。

■ オートアラームが作動するとき

オートアラームを設定すると、次のような状況でオートアラームが作動します。

- 施錠されたドアが、スマートエントリー&スタートシステム・ワイヤレスリモコン・キーを使わずに解錠されたり、開けられたとき
- ボンネットが開けられたとき
- 侵入センサーが車内で動くものを検知したとき（侵入者が車内に乗り込んだとき）

※ G-Link サービスをご利用のお客様へは、オートアラームが作動した場合 E メールや電話でお知らせすることができます。

詳しくは、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書/G-Link/G-Security」を参照してください。

■ オートアラームを設定するには



ドア・ボンネットを閉め、スマートエントリー&スタートシステム、ワイヤレスリモコンを使って施錠します。30 秒以上経過すると、自動的に設定されます。

オートアラームが設定されるとインジケーターは点灯から点滅にかわります。

■ オートアラームの設定を解除・作動を停止するには

以下のいずれかを行ってください。

- ドアを解錠する。
- “エンジンスタートストップ” スイッチをアクセサリモードまたはイグニッション ON モードにするか、エンジンを始動する。（数秒後に解除・停止します。）

侵入センサーの作動について

侵入センサーは、超音波を使って車内への侵入者や室内の動きを検知するセンサーです。

このシステムは、車両盗難を防止または抑止する機能であり、すべての侵入に対する完全なセキュリティを保証するものではありません。

■ 侵入センサーを停止するには



“エンジン スタート ストップ” スイッチを OFF にし、侵入センサー OFF スイッチを押す

メーター内のマルチインフォメーションディスプレイに、侵入センサー停止のメッセージが表示されます。

侵入センサーは“エンジン スタート ストップ” スイッチをイグニッション ON モードにするたびに、ON にもどります。

知識

■ メンテナンスについて

オートアラームシステムのメンテナンスは不要です。

■ ドアを施錠する前の確認

オートアラームの思わぬ作動および盗難を防ぐため、次のことを必ず確認してください。

- 車内に人が乗っていないか
- ドアガラスとムーンルーフ*が閉じているか
- 車内に貴重品などを放置していないか

■ オートアラームの作動について

次のような場合、オートアラームが作動することがあります。オートアラームの設定を解除・作動を停止する操作を行ってください。



- 車内に残った人が、ドア・ボンネットを開けたとき



- 施錠後、バッテリーあがりなどでバッテリーの充電や交換をしたとき

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

■ オートアラーム作動によるドアロック機能について

- オートアラームが作動したときドアが解錠されていると車内への不正な侵入を防止するため自動的に施錠されます。
- オートアラームが作動したときに車内でキーを閉じ込めないように、バッテリーあがりなどで充電・交換する場合は車内にキーがないかを確認してください。

■ 侵入センサーの作動・停止について

- 車両から離れる時は盗難を防ぐため、ドアガラスとムーンルーフを閉めてください。
- 侵入センサーの機能を停止しても、オートアラームは作動します。
- 侵入センサー機能を停止したあとに“エンジン スタート ストップ”スイッチを押すか、スマートエントリー&スタートシステム・ワイヤレスリモコン・メカニカルキーによる解錠操作を行うと、侵入センサーは機能復帰します。
- 再度オートアラームをセットすると、侵入センサーは作動可能状態(システム ON の状態)に自動復帰します。

■ G-Link (ご契約のお客様のみ)

- うっかり通知機能によって、施錠のし忘れや非常点滅灯の消し忘れ、ドアガラスの閉め忘れを、ご指定の E メールアドレスへお知らせすることができます。うっかり通知機能は車内の電子キー検知を使用しているため、スマートエントリー&スタートシステムが正しく作動しない場合は、うっかり通知機能が正しく働かないことがあります。
- リモート確認機能によって、ドアの開閉や施錠の状態、非常点滅灯の点滅状態、電子キーの車内への置き忘れなどを携帯電話で確認できます。

詳しくは、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書 /G-Link/G-Security」を参照してください。

 注意

■ 侵入センサーの検知について

次のような場合、侵入センサーの検知によりオートアラームが作動することがあります。状況に応じ、侵入センサー機能を停止してからアラームを設定してください。



- 車内に乗員やペットなどを残して車両から離れる場合



- ドアガラスやムーンルーフなどが開いている場合

以下のものを検知することがあります。

- ・ 室内に入った落ち葉・虫・風など
- ・ 他車の侵入センサーなどが発する超音波
- ・ 室外の歩行者の動き



- マスコットやアクセサリーをぶら下げた状態で取り付けたり、コートフックに衣類をかけているときなど、動きやすいものが車内にある場合



- 立体駐車場のような振動や騒音の激しい場所に駐車した場合

⚠ 注意



- 雪かきやガラスに付着した氷を削り落とすときに、連続的な衝撃や振動が車両に伝わった場合

- 高圧洗車機や自動洗車機などを使う場合

- ひょうや落雷などにより、連続的な衝撃や振動が車両に伝わった場合

■ 侵入センサーを正しく作動させるために



- センサーの穴は塞がないようにしてください。



- センサーの穴に向かって、直接消臭スプレーなどを噴霧しないでください。

■ オートアラームを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

正しい運転姿勢

以下の条件にあった正しい姿勢で運転してください。



- 1 まっすぐ座り、背もたれから背を離さない（→P. 59）
- 2 シートをペダルが十分に踏み込めるようなシート位置にする（→P. 59）
- 3 各装置が操作しやすい背もたれの角度にする（→P. 59）
- 4 SRS エアバッグが自分の胸の方へ向くようなハンドルの位置にする（→P. 76）
- 5 ヘッドレストの中央が耳のいちばん上のあたりになるようにする（→P. 70）
- 6 シートベルトが正しく着用できる（→P. 72）

警告

■ 走行中は

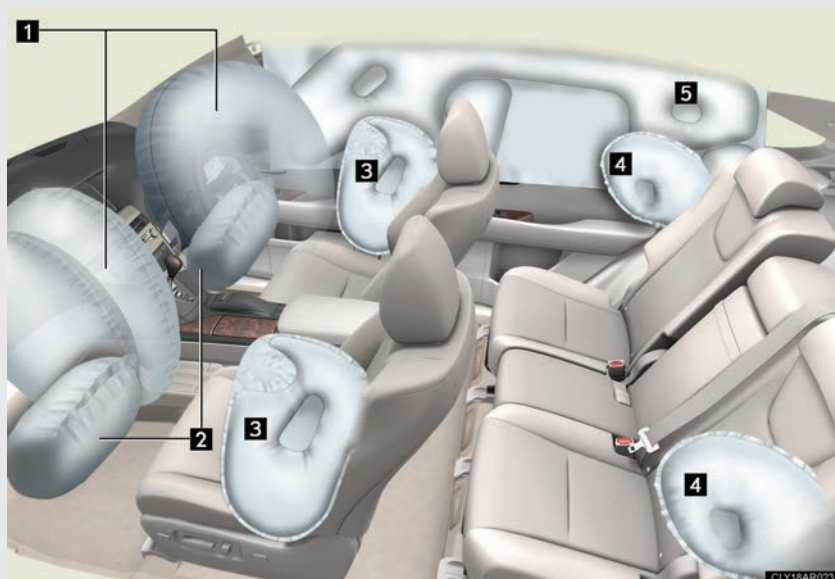
- 走行中は運転席の調整をしないでください。
運転を誤るおそれがあります。
- 背もたれと背のあいだにクッションなどを入れないでください。
正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されずに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- フロントシートの下にものを置かないでください。
ものが挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故の原因になって、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。また、調整機構の故障の原因になります。

 警告**■ シートを調整するときは**

- 同乗者がシートにあたっけがをしないように注意してください。
- シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。
指や手を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

SRS エアバッグ

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが身体を拘束する働きと併せて乗員への衝撃を緩和させます。



▶ フロント SRS エアバッグ

1 運転席 SRS エアバッグ／助手席 SRS エアバッグ
(運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃緩和を補助)

2 SRS ニーエアバッグ
(運転者と助手席乗員の衝撃緩和を補助)

▶ SRS サイドエアバッグ& SRS カーテンシールドエアバッグ

3 SRS フロントサイドエアバッグ
(フロント席乗員の胸などへの衝撃緩和を補助)

4 SRS リヤサイドエアバッグ
(リヤ外側席乗員の胸などへの衝撃緩和を補助)

5 SRS カーテンシールドエアバッグ
(フロント席とリヤ外側席乗員の主に頭部への衝撃を緩和を補助)

 知識**■ SRS エアバッグが作動すると**

- SRS エアバッグとの接触により、打撲やすり傷などを受けることがあります。
- 作動音と共に白いガスが発生します。
- フロント席・リヤ席・フロントピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールの一部などだけでなくエアバッグ構成部品（ハンドルのハブ・エアバッグカバー・インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。
- フロントウインドウガラスが破損することがあります。
- G-Linkの契約期間内は、SRSエアバッグが作動すると自動的に緊急通報がヘルプネットセンターに送信されます。オペレーターからの呼びかけに応答がない場合は、緊急車両を手配します。詳しくは「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

■ SRS エアバッグが作動するとき（フロント SRS エアバッグ）

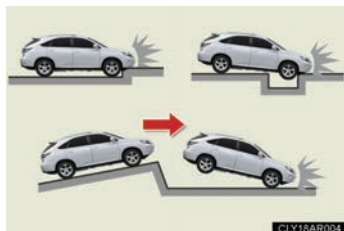
- フロント SRS エアバッグは、衝撃の強さが設定値（移動も変形もしない固定された壁に、約 20 ～ 30 km/h の速度で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
ただし、次のような場合はエアバッグが作動する車速は設定値より高くなります。
 - ・ 駐車している車や標識のような衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合
 - ・ もぐり込むような衝撃の場合（例えば、車両前部がもぐり込む、下に入り込む、トラックの下敷きになるなど）
- 衝突条件によってはシートベルトプリテンショナーのみ作動する場合があります。

■ SRS エアバッグが作動するとき (SRS サイドエアバッグ & SRS カーテンシールドエアバッグ)

SRS サイドエアバッグと SRS カーテンシールドエアバッグは、衝撃の強さが設定値（約 1.5t の車両が、約 20 ～ 30 km/h の速度で客室へ直角に衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。

■ 衝突以外で作動するとき

以下のような状況で、車両下部に強い衝撃を受けたときも、作動する場合があります。



- 縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき
- 深い穴や溝に落ちたり、乗りこえたとき
- ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき

■ SRS エアバッグが作動しないとき（フロント SRS エアバッグ）

フロント SRS エアバッグは、側面や後方からの衝撃・横転・または低速での前方からの衝撃で作動するようには設計されていません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、フロント SRS エアバッグが作動することがあります。



- 側面からの衝突
- 後方からの衝突
- 横転

■ SRS エアバッグが作動しないとき

(SRS サイドエアバッグ & SRS カーテンシールドエアバッグ)

斜めから衝撃を受けた場合や、客室部分以外の側面に衝撃を受けたときには、SRS サイドエアバッグとSRSカーテンシールドエアバッグが作動しない場合があります。



● 客室部分以外の側面への衝撃

● 斜めからの衝撃

SRS サイドエアバッグと SRS カーテンシールドエアバッグは、前方や後方からの衝撃・横転・または低速での側面からの衝撃で作動するようには設計されていません。



● 前方からの衝突

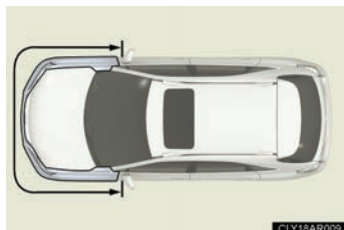
● 後方からの衝突

● 横転

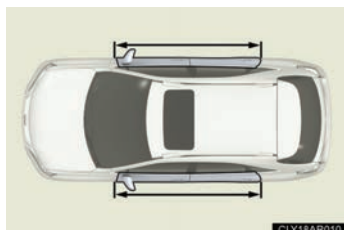
■ レクサス販売店に連絡が必要な場合

次のような場合には、点検・修理が必要になります。できるだけ早くレクサス販売店へご連絡ください。

● いずれかの SRS エアバッグがふくらんだとき



- フロント SRS エアバッグはふくらまなかったが、事故で車両の前部が衝突したとき、または破損・変形などがあるとき



- SRS サイドエアバッグと SRS カーテンシールドエアバッグはふくらまなかったが、事故でドア部分が衝突したとき、または破損・変形などがあるとき



- ハンドルのパッド部分・助手席SRSエアバッグのカバー部・インストルメントパネル下部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



- SRS サイドエアバッグが内蔵されているシート表面が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



- SRS カーテンシールドエアバッグが内蔵されているフロント・リヤピラー部・ルーフサイド部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

警告

■ SRS エアバッグについて

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 運転手と乗員すべてがシートベルトを正しく着用してください。

SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。

- 助手席SRSエアバッグは強い力でふくらむため、特に乗員がエアバッグに近付きすぎると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。乗員が SRS エアバッグのふくらむ場所に近い場合は特に危険です。シートの背もたれを調整して、シートをできるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。

- お子さまがシートにしっかり座っていないと、SRSエアバッグのふくらむ衝撃で重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。お子さまが小さくてシートベルトが使用できないときは、チャイルドシートでしっかり固定してください。

お子さまはリヤ席に乘坐、チャイルドシートまたはシートベルトを着用させることをおすすめします。(→P. 129)



- シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない

警告

■SRS エアバッグについて



- お子さまを助手席 SRS エアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない
- 運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない



- ドアやフロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールへ寄りかからない



- 助手席やリヤ外側シートでは、ドアに向かってひざをついたり、窓から顔や手を出したりしない



- ダッシュボード・ハンドルのパッド部分・インストルメントパネル下部などには何も取り付けたり、置いたりしない

警告

■ SRS エアバッグについて



- ドア・フロントウインドウガラス・ドアガラス・フロントピラーおよびリヤピラー・ルーフサイドレール・アシストグリップなどには何も取り付けない

- コートフックにハンガーなどの硬いものをかけないでください。
SRS カーテンシールドエアバッグが作動したときに投げ出されて重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- SRS ニーエアバッグがふくらむ場所にビニールカバーが付いている場合は取り除いてください。
- SRS サイドエアバッグがふくらむ場所を覆うようなシートアクセサリーを使用しないでください。
- SRSエアバッグシステム構成部品の周辺は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため、ふれないでください。
- SRS エアバッグがふくらんだあとに、もし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。皮膚の炎症を防ぐため、残留物はできるだけ早く洗い流してください。
- SRS エアバッグが収納されているパッド部およびフロントピラーガーニッシュ部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときはそのまま使用せず、レクサス販売店で交換してください。

 警告

■ **改造・廃棄について**

レクサス販売店への相談なしに、以下の改造・廃棄をしないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- SRS エアバッグの取りはずし・取り付け・分解・修理
- ハンドル・インストルメントパネル・ダッシュボード・シート・シート表皮・フロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール周辺の修理・取りはずし・改造
- フロントフェンダー・フロントバンパー・車両客室側面部の修理、改造
- グリルガード(ブルバー・カンガルーバーなど)・除雪装置・ウィンチなどの取り付け
- サスペンションの改造
- CD プレーヤー・無線機などの電化製品の取り付け

子供専用シート

子供専用シートの固定機構を使用して、子供専用シートを固定することができます。

知っておいていただきたいこと

- 車の仕様やお子さまの年齢、体格に合わせて、適切な子供専用シートをお選びください。
- 子供専用シートの取り付け方法および取りはずし方は、それぞれの子供専用シートに付属の取り扱い説明書をお読みください。
- この車は2006年10月1日施行の保安基準に適合したISOFIX対応チャイルドシート固定専用バーを標準装備しています。

子供専用シートの適合性一覧表について

■ 質量グループについて

ECE R44 ※の基準に適合する子供専用シートはお子さまの体重により次の5種類に分類されます。

グループ 0	: 10kg まで
グループ 0+	: 13kg まで
グループ I	: 9 ~ 18kg
グループ II	: 15 ~ 25kg
グループ III	: 22 ~ 36kg

この本では代表的な次の3種類の子供専用シートをシートベルトで固定する方法を紹介します。

※ ECE R44 は、子供専用シートに関する国際法規です。

■ サイズ等級、固定具について

子供専用シートに表示される分類記号と、それにもなう取り付け器具の記号になります。

▶ ベビーシート



ECE R44 基準のグループ 0、0⁺ に相当

▶ チャイルドシート



ECE R44 基準のグループ 0⁺、I に相当

▶ ジュニアシート



ECE R44 基準のグループ、II、III に相当

シート位置別子供専用シートの適合性一覧表（シートベルトでの取り付け）

質量グループ	着席位置（または他の場所）			
	フロントシート	リヤシート		
	助手席	右席	左席	中央席
0（10kg まで）	×	U	U	L
0+（13kg まで）	×	U	U	L
I（9～18kg）	うしろ向き ×	U ※ 2	U ※ 2	L ※ 2
	前向き UF ※ 1, 2			
II（15～25kg）	UF ※ 1, 2	U ※ 2	U ※ 2	L ※ 2
III（22～36kg）	UF ※ 1, 2	U ※ 2	U ※ 2	L ※ 2

● 上表に記入する文字の説明

U：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリの子供専用シートに適しています。

UF：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリの前向きの子供専用シートに適しています。

L：子供専用シートのリストに示す特定の子供専用シートに適しています。

×：子供専用シートを取り付けることはできません。

※¹ 背もたれを直立状態にしてください。シートの高さ調整ができる場合は、いちばん高い位置に調整してください。

※² ヘッドレストと子供専用シートが干渉して子供専用シートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。

子供専用シートの装着については、子供専用シートの取り扱い説明書をご確認ください。
表に記載されていない子供専用シートを使用する場合は、子供専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。

● 子供専用シートのリスト

質量グループ	子供専用シート	カテゴリー
0 (10kg まで)	レクサス純正ベビーシート	汎用
	レクサス純正 NEO G-Child baby	汎用
	レクサス純正チャイルドシート	汎用
0+ (13kg まで)	レクサス純正ベビーシート	汎用
	レクサス純正 NEO G-Child baby	汎用
	レクサス純正チャイルドシート	汎用
I (9 ~ 18kg)	レクサス純正 NEO G-Child baby	汎用
	レクサス純正チャイルドシート	汎用
II (15 ~ 25kg)	レクサス純正ジュニアシート	汎用
III (25 ~ 36kg)	レクサス純正ジュニアシート	汎用

シート位置別子供専用シートの適合性一覧表(ISOFIX対応トップテザーアンカーでの取り付け)

質量グループ	サイズ 等級	固定具	車両 ISOFIX 位置	
			リヤシート	
			右席	左席
キャリコット	F	ISO/L1	×	×
	G	ISO/L2	×	×
0 (10kg まで)	E	ISO/R1	IL	IL
0+ (13kg まで)	E	ISO/R1	IL	IL
	D	ISO/R2	IL	IL
	C	ISO/R3	IL	IL
I (9 ~ 18kg)	D	ISO/R2	×	×
	C	ISO/R3	×	×
	B	ISO/F2	IUF ※, IL ※	IUF ※, IL ※
	B1	ISO/F2X	IUF ※, IL ※	IUF ※, IL ※
	A	ISO/F3	IUF ※, IL ※	IUF ※, IL ※

● 上表に記入する文字の説明

IUF：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの ISOFIX 対応の前向き子供専用シートに適しています。

IL：ISOFIX 子供専用シートのリストに示す準汎用（セミユニバーサル）カテゴリーの子供専用シートに適しています。

×：ISOFIX 子供専用シートを取りつけることはできません。

※ ヘッドレストと子供専用シートが干渉して子供専用シートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。

子供専用シートの装着については、子供専用シートの取り扱い説明書もご確認ください。
表に記載されていない子供専用シートを使用する場合は、子供専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。

● ISOFIX 子供専用シートのリスト

質量グループ	サイズ等級	固定具	ISOFIX 子供専用シート	カテゴリー
0 (10kg まで)	E	ISO/R1	レクサス純正ベビーシート	準汎用
	E	ISO/R1	レクサス純正 NEO G-Child ISO leg	準汎用
0+ (13kg まで)	E	ISO/R1	レクサス純正ベビーシート	準汎用
	E	ISO/R1	レクサス純正 NEO G-Child ISO leg	準汎用
	D	ISO/R2		準汎用
	C	ISO/R3		準汎用
I (9 ~ 18kg)	B	ISO/F2	レクサス純正 NEO G-Child ISO leg	準汎用
	B1	ISO/F2X		準汎用
	A	ISO/F3		準汎用

 知識**■ ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーについて**

この車に標準装備されている ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーは、ECE R44 に適合している子供専用シートの取り付け専用です。それ以外のものを使用することはできません。

■ 子供専用シートの選択、使用について

- お子さまに最適な子供専用シートについては、子供専用シート製造業者、または販売業者にご相談ください。
- お子さまが成長し、適切にシートベルトが着用できるようになるまでは、お子さまに合った子供専用シートを使用ください。
- 体が十分大きく、子供専用シートが不必要なお子さまは、リヤシートに乗せて車のシートベルトを使用してください。

■ シートベルト（→P. 129）で取り付けるタイプの子供専用シートの選択について

「シート位置別子供専用シートの適合性一覧表」（→P. 121）を参照し、子供専用シートを取り付け可能な位置と、対応する子供専用シートの種類（記号）をご確認の上、適したものを選択してください。

■ ECE R44 適合の ISOFIX 対応子供専用シートの選択について

「シート位置別子供専用シートの適合性一覧表」(→P. 123)を確認して、適切なシートを選択してください。

手順 1 お子さまの体重から、該当する「質量グループ」を確認する

(例 1) : 体重が 12 kg の場合、質量グループは「O⁺」になります。

(例 2) : 体重が 15 kg の場合、質量グループは「I」になります。

手順 2 サイズ等級を選択する

手順 1 で確認した「質量グループ」から該当するサイズ等級を確認します。※

(例 1) : 質量グループが「O⁺」の場合、サイズ等級は「C」・「D」・「E」が該当します。

(例 2) : 質量グループが「I」の場合、サイズ等級は「A」・「B」・「B1」・「C」・「D」が該当します。

※ただし、該当のサイズ等級でも適合性一覧表の「車両 ISOFIX 位置」に「×」と記載されているものは選択できません。また、「IL」と記載されている場合は、「ISOFIX 子供専用シートのリスト」(→P. 124)で指定されている製品を使用してください。



子供専用シートに表示されているマーク／ラベルを確認して、基準に適合したシートであることを確認する

汎用（ユニバーサル）子供専用シートには、次に示すマーク・ラベル類が表示されています。※

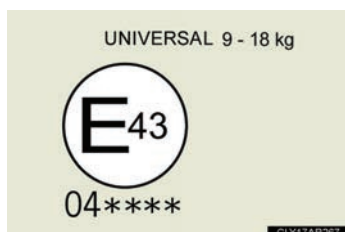
※表示されている位置・記号などは、商品により異なります。



- 1** ISOFIX 対応子供専用シートであることを示す表示

サイズ等級が示されています。(表示される文字は、製品により異なります)

手順 2 で確認したサイズ等級に適合しているものを選択してください。



- 2** 汎用（ユニバーサル）子供専用シートの認可マーク

UNIVERSAL は汎用品の認可であることをあらわし、併せて、対象となるお子さまの体重の範囲が記載されています。



- 3** トップテザー（→P. 129）を示すマーク

商品の取り付け装置の位置により、意匠は異なります。

■ ISOFIX 対応子供専用シートの種類（サイズ等級別）

A-ISO/F3	全高前向き幼児用チャイルドシート
B-ISO/F2	低型前向き幼児用チャイルドシート
B1-ISO/F2X	低型前向き幼児用チャイルドシート (B-ISO/F2 と別形状のもの)
C-ISO/R3	大型後向き幼児用チャイルドシート
D-ISO/R2	小型後向き幼児用チャイルドシート
E-ISO/R1	後向き乳児用チャイルドシート
F-ISO/L1	左向き位置用チャイルドシート（キャリコット）
G-ISO/L2	右向き位置用チャイルドシート（キャリコット）

■ 助手席に子供専用シートを取りつけるとき

やむを得ず助手席に子供専用シートを取りつける場合には、助手席シートを以下のように調整し、子供専用シートを前向きに取りつけてください。



- 背もたれを直立状態にする
- シートをいちばんうしろに下げる
- シートの高さをいちばん高い位置まで上げる

■ キャリコットについて

キャリコットは横向きに取りつけることのできるベビーシートのことです。詳しくは子供専用シート製造業者または販売業者にお尋ねください。

警告

■ 子供専用シートを使用しない場合

- 子供専用シートを使用しないときであっても、シートに適切にしっかりと取りつけた状態にしてください。ゆるめた状態で客室内に置くことは避けてください。
- 子供専用シートの取りはずしが必要な場合は、車両からはずして保管するか、ラゲージルーム内に容易に動かないように収納してください。

1-7. 安全にお使いいただくために チャイルドシートの取り付け

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。

取り付け方法は、商品に付属の取扱説明書に必ず従ってください。

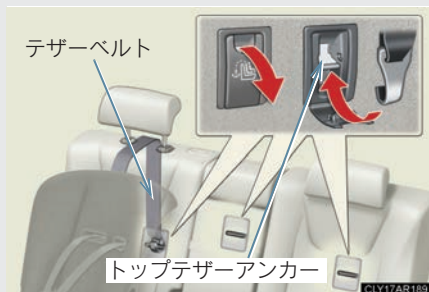


シートベルトによる取り付け
(→P. 130)



ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー (→P. 130)

リヤ外側シートに装備されています。(固定専用バーが装備されていることを示すボタンがシートに付いています。)



トップテザーアンカー
(→P. 130)

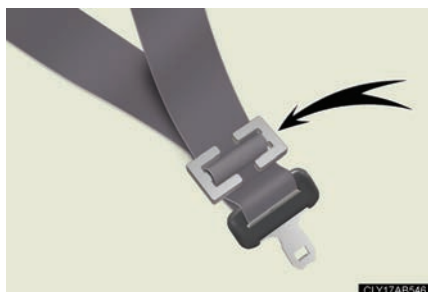
テザーベルトを固定するとき 사용합니다。トップテザーアンカーはリヤシートのそれぞれの座席に装備されています。

シートベルトで固定する



チャイルドシートにシートベルトを取り付け、プレートをバックルに“カチッ”と音がするまで差し込む。ベルトがねじれていないようにする。

チャイルドシートに付属の取扱書にしたがい、シートベルトをチャイルドシートにしっかりと固定させてください。

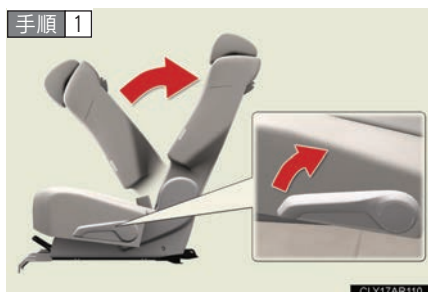


チャイルドシートにシートベルトのロック機構が備わっていない場合は、ロッキングクリップ（別売）を使用して固定する。

ロッキングクリップの購入にあたっては、レクサス販売店にご相談ください。
(ロッキングクリップ 品番：73119-22010)

取り付け後はチャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかりと固定されていることを確認してください。

ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー&トップテザーアンカーで固定する



背もたれの角度を調整する

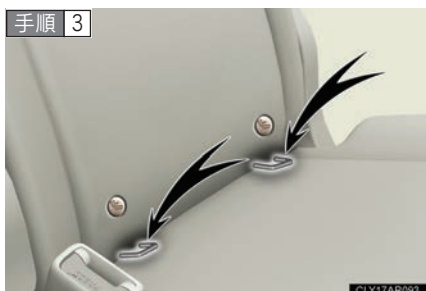
レバーを引ながらいったん背もたれを前に倒し、初段目の固定位置まで起こします。(→P. 62)

手順 2



ヘッドレストをはずす (→P. 70)

手順 3



固定専用バーの位置を確認する

固定専用バーは、シートクッションの奥にあります。

手順 4

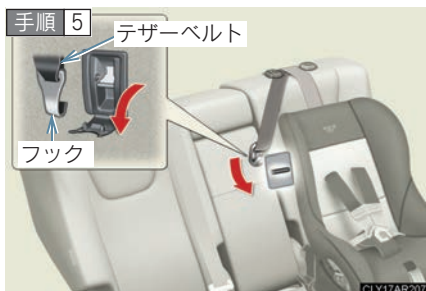


チャイルドシートをシートに取り付ける

チャイルドシートの取り付け金具をチャイルドシート固定専用バーに取り付けます。

取り付け方法は、それぞれの商品に付属の取扱説明書にしたがってください。

手順 5



フタを開けて、トップテザーアンカーにフックを固定し、テザーベルトを締める

テザーベルトは必ず背もたれの上を通し、ピンと張ってフックがしっかり固定されていることを確認します。

手順 6



ヘッドレストを取り付ける
(→P. 70)

ヘッドレストは、最上段ロック位置に固定してください。

手順 7



取り付けしたチャイルドシートを前後左右にゆすり、確実に固定されていることを確認する

 警告

■チャイルドシートについて

- 事故や急停止の際、効果的に保護するために、必ずお子さまの年齢や体の大きさに合ったシートベルトまたはチャイルドシートを使用してください。お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートのかわりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントウィンドウガラスや乗員、車内の装備にぶつかり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- お子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用してリヤシートに取り付けてください。
- チャイルドシートに座らせている場合でも、ドア・シート・フロントピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール付近にお子さまの頭や体のどの部分ももたれかけさせないようにしてください。SRS エアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

■チャイルドシートについて

- チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難場合があります。必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。使用方法を誤ったり、確実に固定されていないと、急ブレーキや衝突時などに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■チャイルドシートを取り付けるときは

- お子さまをシートベルトであそばせないでください。万一ベルトが首に巻きついた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。誤ってそのような状態になってしまい、バックルも外せない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。
- シートベルトとバックルが固定されていて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- チャイルドシートを前後左右にゆすって、しっかり固定されているか確認してください。



- 運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、助手席側のリヤ席に取り付けてください。
- 助手席シートとチャイルドシートが干渉しないように、助手席シートを調整してください。

警告

■チャイルドシートを取り付けるときは



- 助手席にはチャイルドシートをうしろ向きに取りつけないでください。
うしろ向きに取りつけていると、事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
助手席側のサンバイザー両面に同内容のラベルが貼られています。あわせてご覧ください。

警告

■チャイルドシートを取り付けるときは



- やむを得ず助手席に前向きにチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートをいちばんうしろに下げて取り付けてください。

助手席 SRS エアバッグはかなりの速度と力でふくらむので、お守りいただかないと、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にできるようにしてください。ベルトを首から離すとともに肩から落ちないようにしてください。お守りいただかないと事故や急ブレーキの際に重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーを使用するときは、周辺に障害物がなにか、シートベルトが挟まっていないかなどを確認してください。

■チャイルドシートを使用しないときは

- 車両にチャイルドシートを搭載するときは、適切な方法で確実にシートに取り付けてください (→P. 130)。チャイルドシートを使用しない場合でも、シートにしっかりと固定されていない状態で、客室内に置くことは避けてください。
- チャイルドシートの取りはずしが必要な場合は、車両から降ろして保管するか、ラゲージルーム内に収納し、しっかりと固定しておいてください。

2-1. 運転のしかた

運転にあたって	138
エンジン（イグニッション）	
スイッチ	148
オートマチックトランス	
ミッション	153
方向指示レバー	160
パーキングブレーキ	161
ホーン（警音器）.....	162

2-2. メーターの見方

計器類.....	163
表示灯／警告灯	165
マルチインフォメーション	
ディスプレイ	169
ヘッドアップ	
ディスプレイ	177

2-3. ライトのつけ方・

ワイパーの使い方

ランプスイッチ	182
フォグラмпスイッチ	185
ワイパー＆ウォッシャー	
（フロント）	187
ワイパー＆ウォッシャー	
（リヤ）	191
ヘッドランプクリーナー	193

2-4. その他の走行装置の使い方

クルーズコントロール.....	194
レーダークルーズ	
コントロール	198
運転を補助する装置.....	210
AWD ロックモード	
スイッチ	216
ヒルスタートアシスト	
コントロール	217
プリクラッシュセーフティ	
システム	219

2-5. 様々な状況での運転

荷物を積むときの注意.....	226
寒冷時の運転	228

2-1. 運転のしかた

運転にあたって

安全運転を心がけて、以下の手順で走行してください。

■ エンジンをかける

→P. 148

■ 発進する

手順 1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーを D にする
(→P. 153)

手順 2 パーキングブレーキを解除する (→P. 161)

手順 3 ブレーキペダルから徐々に足をはなし、アクセルペダルをゆっくり踏み発進する

■ 停車する

手順 1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む

手順 2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける

長時間停車する場合は、シフトレバーを P または N にします。(→P. 153)

■ 駐車する

手順 1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む

手順 2 パーキングブレーキをかける (→P. 161)

手順 3 シフトレバーを P にする (→P. 153)

坂道の途中で駐車をする場合は、必要に応じて輪止め※を使用してください。

※輪止めはレクサス販売店で購入することができます。

手順 4 “エンジン スタート ストップ” スイッチを押してエンジンを止める

手順 5 電子キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する

上り坂の発進のしかた

手順 1 パーキングブレーキをしっかりかけ、シフトレバーを D にする

手順 2 アクセルペダルをゆっくり踏む

手順 3 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキを解除し発進する

 知識**■ 上り坂発進について**

ヒルスタートアシストコントロールを使用することができます。(→ P. 217)

■ 雨の日の運転について

- 雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなったりするので、慎重に走行してください。
- 雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。
- 雨の日の高速走行などでは、タイヤと路面の間に水膜が発生し、ハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。

■ 走行中のエンジン回転数について

以下の場合、走行中にエンジン回転数が高くなる場合があります。これは走行状況にあわせてシフトアップの制限、またはシフトダウンの実施を自動的に行うため、急加速を示すものではありません。

- 車両が上り坂、または下り坂を走行していると判断したとき
- アクセルペダルを離したとき

■ 運転標識の取り付け

磁石式の初心者運転標識や高齢者運転標識などをアルミボデー部に取り付けることはできません。

■ 環境に配慮した運転



環境に配慮した運転をしているとき、エコドライブインジケータランプが点灯します。

必要以上にアクセルペダルを踏んだときや停車中は消灯します。

次の場合、エコドライブインジケータランプは作動しません。

- シフトレバーが D 以外するとき
- パドルシフトスイッチを操作したとき (パドルシフトスイッチ装着車)
- 走行モードがスノーモードのとき
(→P. 155)
- 車速が約 100 km/h 以上のとき

■ カスタマイズ機能

エコドライブインジケータランプの ON/OFF を変更できます。

(カスタマイズ一覧 →P. 377)

**警告****■ シフトレバーを操作するときは**

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。

シフトレバーが P または N 以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ 発進するときは

エンジンがかかったまま停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでいてください。クリープ現象で車が動き出すのを防ぎます。

■ 運転するときは

● 踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を把握しない状態で運転しないでください。

- ・ アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ・ 後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。
- ・ 車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。
- ・ ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

● 燃えやすい物の上を走行したり、可燃物付近に車を止めたりしないでください。排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災になるおそれがあり危険です。

● シフトレバーを前進側のシフトポジションにいれたまま惰性で後退したり、R にいれたまま惰性で前進することは絶対にやめてください。
エンジンが停止し、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなったりして、思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。

 警告

- 車内で排気ガス臭に気付いたら、ドアガラスを開け、バックドアが閉まっていることを確認してください。多量の排気ガスが眠気を招き事故の原因となる他、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡に至るおそれがあります。すみやかにレックス販売店で点検整備を受けてください。
- 車両が動いているあいだは、シフトレバーを P に入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が前進しているあいだは、シフトレバーを R に入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が後退しているあいだは、シフトレバーを D に入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 走行中にシフトレバーを N にすると、トランスミッションとエンジンの動力伝達が解除され、エンジンブレーキが効かなくなります。
- 通常走行時は、走行中にエンジンを停止しないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなり、ハンドルとブレーキの操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。なお、通常の方法で車両を停止することができないような緊急時は、P. 367 を参照してください。
- 急な下り坂では、エンジンブレーキを使用してスピードを下げてください。フットブレーキを連続して使いすぎると、ブレーキがオーバーヒートして正常に機能しなくなります。(→P. 153)
- 坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながるのを防ぐため、ブレーキペダルやパーキングブレーキを使用してください。
- 走行中はハンドル、シート、ドアミラー、インナーミラーの調整をしないでください。
運転を誤り、思わぬ事故の原因となって重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- すべての乗員は頭や手、その他の体の一部を車から出さないようにしてください。
重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 警告

- AWD 車：オフロード走行をしないでください。

本格的なオフロード走行を目的とした AWD 車ではありません。やむをえずオフロードを走行するときは、慎重に運転してください。

- 渡河などの水中走行はしないでください。

電装品のショートやエンジンの破損など、重大な車両故障の原因になるおそれがあります。

- やむをえず浅瀬などを走行する場合は、まず水深と川底の硬さを確認してください。

■ すべりやすい路面を運転するときは

- 急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 急激なアクセル操作、シフトチェンジによるエンジンブレーキやエンジン回転数の変化は、車が横すべりするなどして、思わぬ事故につながる恐れがあり危険です。

- 水たまり走行後はブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効が悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルを取られ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ シフトレバーを操作するときは

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。シフトレバーが P または N 以外にあると、車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ 継続的にブレーキ付近から警告音（キーキー音）が発生したときは

できるだけ早くレクサス販売店で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。必要なときにパッドの交換が行われないと、ローターの損傷につながる場合があります。ブレーキパッドやディスクローターなどの部品は、役割を果たすと共に摩耗していきます。摩耗の限界を超えて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあります。

 警告

■ **停車するときは**

- 空ぶかしをしないでください。
シフトレバーが P または N 以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 長時間エンジンをかけたままにしないでください。
どうしても必要な場合は、開かれた場所に車を止め、排気ガスが車内に入っていないことを確認してください。
- 車が動き出すことによる事故を防ぐため、エンジン回転中は常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- 坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながるのを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- 停車中に空ぶかしをしないでください。
排気管が過熱し、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。

■ **駐車するときは**

- 炎天下では、メガネ・ライター・スプレー缶・炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。
放置したまましていると、以下のようなことが起こるおそれがあり危険です。
 - ・ライターやスプレー缶からガスがもれたり、出火する
 - ・プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす
 - ・炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートする原因になる
- ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターをグローブボックスなどに入れておいたり、車内に落としたままにしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。
- フロントウインドウガラスなどには吸盤を取り付けしないでください。また、インストールメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。
吸盤や容器がレンズの働きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。

 警告

- シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウィンドウを開けたまま放置しないでください。直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあります。
- 必ずパーキングブレーキをかけ、シフトレバーをPにしてエンジンを停止し、施錠してください。
エンジンがかかっているあいだは、車から離れないでください。
- エンジン回転中または停止直後は排気管に触れないでください。
やけどをするおそれがあります。
- 降雪時や雪が積もった場所では、エンジンをかけたままにしないでください。まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して車内に入り、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 排気ガスについて

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、排気ガスを吸い込むと、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 換気が悪い場所ではエンジンを停止してください。
特に車庫内など囲まれた場所では排気ガスが充満し、重大な健康障害や死亡に至るおそれがあります。
- 排気管はときどき点検してください。排気管の腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気付いた場合は必ずレクサス販売店で点検整備を受けてください。そのまま使用すると排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 仮眠するときは

必ずエンジンを停止してください。

エンジンをかけたまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故やエンジンの異常過熱による火災が発生するおそれがあります。さらに、風通しの悪い場所に止めると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

■ ブレーキをかけるときは

- ブレーキが濡れているときは、普段よりも注意して走行してください。
ブレーキが濡れていると、制動距離が長くなり、ブレーキのかかりに、左右の違いが出るおそれがあります。また、パーキングブレーキがしっかりとかからないおそれもあります。
- ブレーキ倍力装置が機能しないときは、他の車に近付いたりしないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。
この場合ブレーキは作動しますが、通常よりも強く踏む必要があります。また制動距離も長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。
- 万一エンジンが停止したときは、ブレーキペダルを繰り返し踏まないでください。ペダルを踏むたびに、ブレーキのアシスト力の蓄えを使い切ってしまいます。
- ブレーキシステムは二つの独立したシステムで構成されており、一方の油圧システムが故障しても、もう一方は作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があり、制動距離が長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

■ 万一脱輪したときは（AWD 車）

いずれかのタイヤが宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。駆動系部品の損傷や、車両の飛び出しによる思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■ 運転中は

- 運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏むと、駆動力を抑制する場合があります。
- 坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

■ 駐車するときは

必ずシフトレバーを P にしてください。P にしておかないと、車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進するおそれがあります。

 注意

■ 部品の損傷を防ぐために

- パワーステアリングモーターの損傷を防ぐため、ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けないでください。
- ディスクホイールなどの損傷を防ぐため、段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

■ 走行中にタイヤがパンクしたら

以下のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかり持って徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。

- ハンドルがとられる
- 異常な振動がある
- 車両が異常に傾く

タイヤがパンクした場合の対処法は P. 342 をご覧ください。

■ 冠水路走行に関する注意

大雨などで冠水した道路では、以下のような重大な損傷を与えるおそれがあるため、走行しないでください。

- エンストする
- 電装品がショートする
- 水を吸い込んでのエンジン破損

万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまったときは必ずレクサス販売店で以下の点検をしてください。

- ブレーキの効き具合
- エンジン・オートマチックトランスミッション・トランスファー (AWD 車)・ディファレンシャルなどのオイルやフルードの量および質の変化
- プロペラシャフト (AWD 車)、各ベアリング、各ジョイント部などの潤滑不良

エンジン（イグニッション）スイッチ

電子キーを携帯して以下の操作を行うことで、エンジンの始動または“エンジン スタート ストップ”スイッチのモードを切りかえることができます。

■ エンジンのかけ方

手順 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

手順 2 シフトレバーがPの位置にあることを確認する

手順 3 ブレーキペダルをしっかりと踏む

スイッチ上のインジケーターが緑に点灯します。

緑色に点灯していないとエンジンは始動しません。

手順 4



“エンジン スタート ストップ”スイッチを押す。

エンジンが始動するまで最大 30 秒間スターターが回転します。

完全にエンジンが始動するまでブレーキペダルを踏みつけてください。

“エンジン スタート ストップ”スイッチのどのモードからでもエンジンを始動できます。

■ エンジン停止のしかた

手順 1 車両を停止させる

手順 2 シフトレバーをPの位置にする

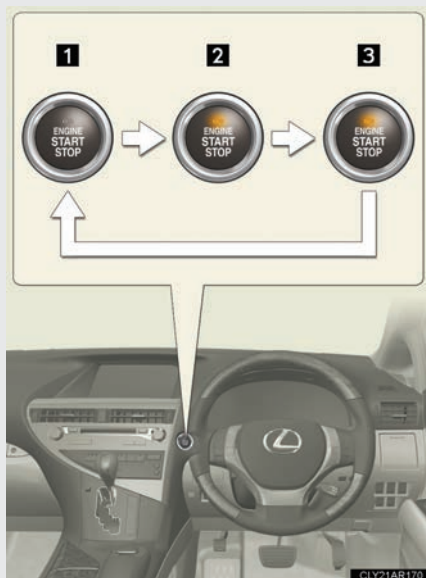
手順 3 パーキングブレーキをかける（→P. 161）

手順 4 “エンジン スタート ストップ”スイッチを押す

手順 5 ブレーキペダルから足を離した状態にして“エンジン スタート ストップ”スイッチのインジケーターが消灯していることを確認する

■ “エンジン スタート ストップ” スイッチのモード切りかえ

ブレーキペダルを踏まずに“エンジン スタート ストップ”スイッチを押すと、モードを切りかえることができます。(スイッチを押すごとにモードが切りかわります。)



1 OFF *

非常点滅灯が使用できます。

2 アクセサリーモード

オーディオなどの電装品が使用できます。

スイッチ上のインジケーターが橙色に点灯します。

3 イグニッション ON モード

すべての電装品が使用できます。

スイッチ上のインジケーターが橙色に点灯します。

* : シフトレバーがP以外のときはアクセサリーモードになり、OFF になりません。

シフトレバーがP以外でエンジンを停止したときは

シフトレバーがP以外でエンジンを停止させた場合、エンジンは停止しますが、“エンジン スタート ストップ”スイッチのモードはOFF になりません。以下の手順でOFF にしてください。

手順 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する。

手順 2 シフトレバーをPの位置にする。

手順 3 “エンジン スタート ストップ”スイッチのインジケーターが橙色に点灯していることを確認し、“エンジン スタート ストップ”スイッチを1回押す。

手順 4 “エンジン スタート ストップ”スイッチのインジケーターが消灯していることを確認する。

 知識

■ 自動電源 OFF 機能

シフトレバーが P にあるとき 20 分以上アクセサリモードか 1 時間以上イグニッション ON モード（エンジン始動していない状態）にしたままにしておくと、“エンジン スタート ストップ” スイッチが自動で OFF になります。

ただし、自動電源 OFF 機能は、バッテリーあがりを完全に防ぐものではありません。エンジンがかかっていないときは、“エンジン スタート ストップ” スイッチをアクセサリモードまたはイグニッション ON モードにしたまま長時間放置しないでください。

■ “エンジン スタート ストップ” スイッチの操作について

“エンジン スタート ストップ” スイッチを操作する際は、短く確実に押してください。確実に押せてない場合は、モードの切り替えやエンジン始動ができない場合があります。また、確実に操作すれば押し続ける必要はありません。

■ 電子キーの電池の消耗について

→P. 40

■ スマートエントリー&スタートシステムが正常に働かないおそれのある状況

→P. 37

■ ご留意いただきたいこと

→P. 38

■ エンジンが始動しないときは

エンジンイモビライザーシステムが解除されていない可能性があります。

(→P. 101)

レクサス販売店へ連絡してください。

■ ステアリングロックについて

“エンジン スタート ストップ” スイッチを OFF にしたあとにドアを開閉すると、ステアリングロック機能によりハンドルが固定されます。“エンジン スタート ストップ” スイッチを操作すると、ステアリングロックは自動で解除されます。

■ステアリングロックが解除できないときは



マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、“エンジン スタート ストップ”スイッチ上のインジケーターが緑色に点滅します。ハンドルを左右にまわしながら再操作してください。

■ステアリングロックモーターのオーバーヒート防止について

短時間にエンジン始動・停止を繰り返すと、モーターのオーバーヒート防止のために作動制限することがあります。その場合は操作を控えてください。2 秒程度でもとの状態にもどります。

■“エンジン スタート ストップ”スイッチ上のインジケーターが橙色に点滅したときは

システムに異常があるおそれがあります。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■電子キーの電池がきれたときは

→P. 303

⚠ 警告

■エンジンを始動するときは

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行中の警告

エンストなどで車両滑走状態になったときは、車両が安全な状態で停止するまでドアを開けたり、ロック操作をしったりしないでください。ステアリングロック機能が作動し、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

■ 緊急時のエンジン停止方法

走行中にエンジンを緊急停止したい場合には、“エンジン スタート ストップ” スイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してください。(→P. 367)
ただし、緊急時以外は走行中に“エンジン スタート ストップ” スイッチにふれないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなり、ハンドルとブレーキの操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。

注意

■ バッテリーあがりを防止するために

- エンジンがかかっていないときは、“エンジン スタート ストップ” スイッチをアクセサリーまたはイグニッションONモードにしたまま長時間放置しないでください。
- “エンジン スタート ストップ” スイッチのインジケーターが消灯していない場合、“エンジン スタート ストップ” スイッチが OFF になっていません。“エンジン スタート ストップ” スイッチを OFF にしてから車両を離れてください。
- シフトレバーがP以外でエンジンを停止させないでください。シフトレバーがP以外でエンジンを停止させた場合、“エンジン スタート ストップ” スイッチがアクセサリーモードとなるため、そのまま放置するとバッテリーあがりの原因となります。

■ エンジンを始動するとき

- エンジンが冷えた状態で空ぶかししないでください。
- もしエンジンが始動しにくかったり、ひんぱんにエンストする場合は、ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■ “エンジン スタート ストップ” スイッチの操作について

“エンジン スタート ストップ” スイッチ操作時に引っ掛かりなどの違和感があるときは、故障のおそれがあります。すみやかにレクサス販売店にご連絡ください。

オートマチックトランスミッション

状況に応じてシフトポジションを選択してください。

■ シフトレバーの動かし方



“エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッションONモードの状態、ブレーキペダルを踏んだまま操作します。

PとDのあいだの操作は、ブレーキペダルを踏み、車を完全に止めてから行ってください。

■ シフトポジションの使用目的

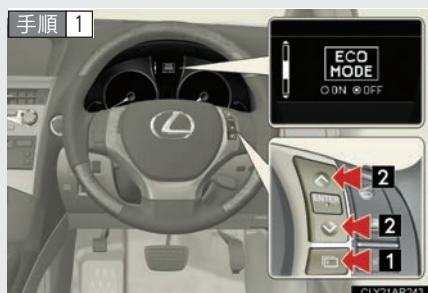
シフトポジション	目的
P	駐車またはエンジン始動・停止
R	後退
N	動力が伝わらない状態
D	通常走行※ ¹
S	Sモード走行※ ² (→P. 156)

※¹ Dポジションは走行状況に応じたギヤ段を選択します。通常はDポジションを使用してください。

※² Sモードはシフトレンジを選択することで、使用するギヤ段の上限を制限し、エンジンブレーキ力を切りかえたり、高速ギヤ段へのシフトアップを抑えた走行ができます。

■ エコドライブモードの選択

エコドライブモードは車両駆動力とエアコン（暖房／冷房）の作動を抑え、燃費を向上させる走行に適しています。



1 メニュースイッチを押す

マルチインフォメーションディスプレイがスイッチモードに移行します。

2 〽またはVスイッチを押してECO MODEを表示させる。



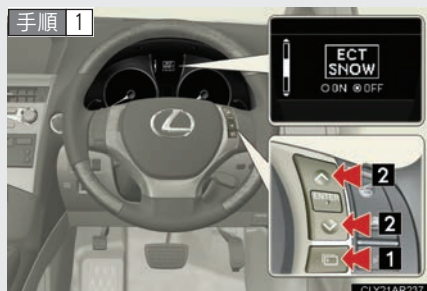
ENTER スイッチを押して、ON に切りかえると ECO MODE 表示灯が表示されます。

ENTER スイッチを押すごとに ON/OFF は切りかわります。

メニュースイッチを押すと、もとの画面にもどります。

■ スノーモードの選択

スノーモードは雪道やすべりやすい路面での走行に適しています。



1 メニュースイッチを押す

マルチインフォメーションディスプレイがスイッチモードに移行します。

2 へまたはVスイッチを押して ECT SNOW を表示させる。



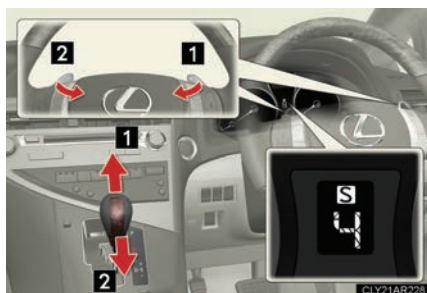
ENTER スイッチを押して、ON に切りかえると ECT SNOW 表示灯が表示されます。

ENTER スイッチを押すごとに ON/OFF は切りかわります。

メニュースイッチを押すと、もとの画面にもどります。

S モードでのレンジ選択

シフトレバーを S ポジションにすると、S モードに切り替わります。レンジを選択することで、使用するギヤ段の上限を制限し、高速ギヤ段への不要なシフトアップを抑えたり、エンジンブレーキ力を切り替えることができます。パドルシフトスイッチ*とシフトレバーの“-”側または“+”側の操作でシフトレンジを選択することができます。



- 1 シフトレンジアップ
- 2 シフトレンジダウン

S ポジションへ操作したときの初期シフトレンジは車速に応じて 4 レンジもしくは 5 レンジに設定されます。

ただし、D ポジションにて AI-SHIFT 中は 3 レンジになる場合があります。(→P. 158)

■ シフトレンジ機能

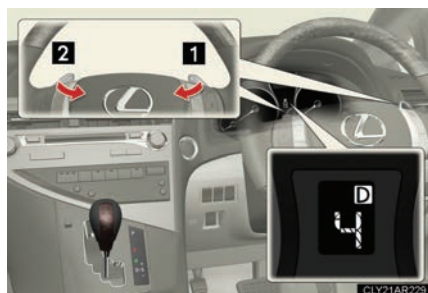
車速と走行状況によって、1 ～ 6 速を自動的に選択します。しかし、選択したシフトレンジによってギヤは制限されます。

- エンジンブレーキ力は、6 段階から選択が可能です。
- シフトレンジの数字が小さい方がエンジンブレーキ力は大きくなり、エンジン回転数も高くなります。

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

D ポジションでのレンジ選択（パドルシフトスイッチ装着車）

パドルシフトスイッチ*の“-”側を操作すると、一時的にレンジを選択する走行へ切り替わります。レンジを選択することで、使用するギヤ段の上限を制限し、高速ギヤ段への不要なシフトアップを抑えたり、エンジンプレーキ力を切り替えることができます。パドルシフトスイッチ*の“-”側または“+”側の操作でシフトレンジを選択することができます。



■ 1 シフトレンジアップ

■ 2 シフトレンジダウン

通常走行にもどすときは、パドルシフトスイッチ*の“+”側を一定時間以上保持します。

■ シフトレンジ機能

→P. 156

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備



知識

■D ポジションでパドルシフトスイッチの“－”側を操作したとき（パドルシフトスイッチ装着車）

D ポジションでパドルシフトスイッチの“－”側を操作したときの初期のレンジは、通常走行中のギヤ段より1段シフトダウンするレンジになります。

■D ポジションでのレンジ選択の自動解除（パドルシフトスイッチ装着車）

以下のとき、自動的にD ポジションでのレンジ選択が解除されます。

- 停車したとき
- シフトレンジが6 レンジの状態でアクセルペダルを踏んだとき
- アクセルペダルを一定時間以上踏み続けたとき

■スノーモードの自動解除

スノーモードを選択して走行後、エンジンを切ると、自動的に通常走行モードに切りかわります。

■S モード

- 5 レンジ以下のとき、シフトレバーを“+”側へ保持すると6 レンジに設定されます。
- エンジン過回転前に自動的にシフトアップします。
- トランスミッションフルードの温度が高くなると、オートマチックトランスミッション保護のため、自動的にシフトレンジアップします。

■AI-SHIFT について

AI-SHIFT は、運転者の運転操作と走行状況により、自動的に適切なギヤ段に切りかえます。

AI-SHIFT は、シフトレバーをD にしているときに自動的に作動します。（シフトレバーをS にすると、機能が解除されます。）

NAVI・AI-SHIFT：

ナビゲーションシステムの機能を利用した、高度な自動変速制御の機能です。詳しくは別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」をご覧ください。

■ クルーズコントロールまたはレーダークルーズコントロールを使って走行しているとき

エンジンブレーキを目的に S モード走行中に 5 または 4 にシフトダウンしても、クルーズコントロールまたはレーダークルーズコントロールが解除されないためエンジンブレーキは効きません。(→P. 194, 198)

■ シフトレバーを P からシフトできないときは

→P. 353

■ シフトレバーを S にしても S が点灯しないときは、または D が点灯したときはシステム異常のおそれがあります。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

この場合、シフトレバーを D にしているときと同じ制御になります。

■ シフトダウン制限警告ブザー

安全や走行性能を確保するため、シフトダウン操作には制限があり、シフトレバーやパドルシフトスイッチを操作してもシフトダウンできない場合があります。(このときブザーが2回鳴ります。)

■ リバース警告ブザー

シフトレバーを R に入れるとブザーが鳴り、R にあることを運転者に知らせます。

 警告

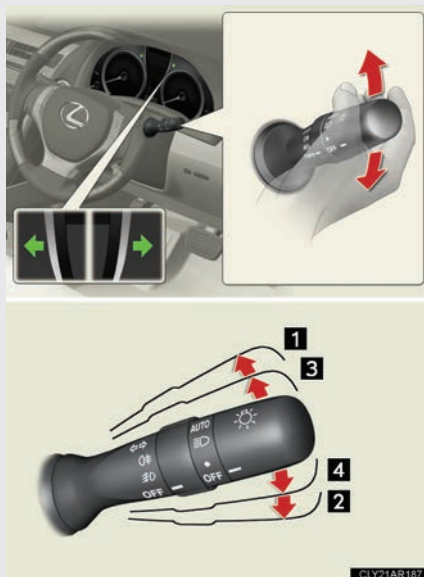
■ すべりやすい路面では

急なアクセル操作や、エンジンブレーキ力の急激な変化が、横すべりやスピンの原因となりますので注意してください。

2-1. 運転のしかた

方向指示レバー

レバー操作により、以下のように運転者の意思を表示することができます。



- 1 左折
- 2 右折
- 3 左側へ車線変更
(レバーを途中で保持)

レバーを放すまで左側方向指示灯が点滅します。

- 4 右側へ車線変更
(レバーを途中で保持)

レバーを放すまで右側方向指示灯が点滅します。

知識

■ 作動条件

“エンジン スタート ストップ” スイッチがイグニッション ON モードのとき

■ 表示灯の点滅が異常に速くなったときは

方向指示灯の電球が切れていないか確認してください。

2-1. 運転のしかた

パーキングブレーキ



パーキングブレーキをかけるには、右足でブレーキペダルを踏みながら、左足でパーキングペダルをいっぱいまで踏み込む（再度踏み込むと解除される）

知識

■ 冬季のパーキングブレーキの使用について

→P. 228

注意

■ 走行前の注意

パーキングブレーキを完全に解除してください。

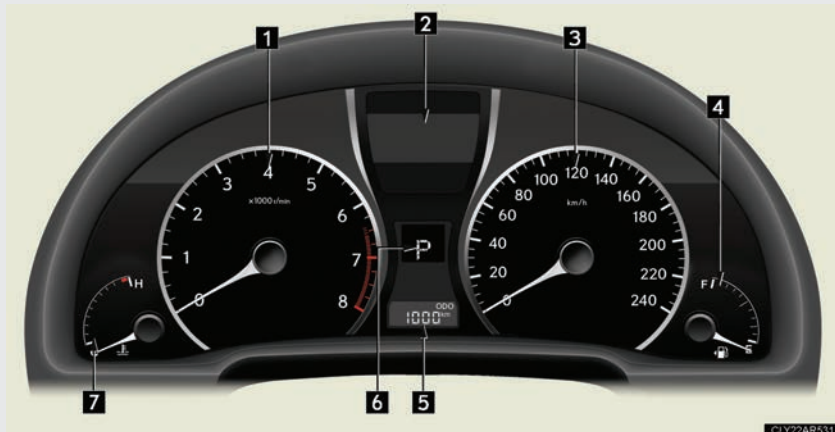
パーキングブレーキをかけたまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効きが悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。

2-1. 運転のしかた

ホーン（警音器）



ハンドルの  周辺部を押すとホーンが鳴ります。



1 タコメーター

毎分のエンジン回転数を示します。

2 マルチインフォメーションディスプレイ

走行に関する様々な情報を表示します。(→P. 169)

3 スピードメーター

車両の走行速度を示します。

4 燃料計

燃料残量を示します。

5 オドメーター・トリップメーターディスプレイ

オドメーター：走行した総距離を km の単位で表示します。

トリップメーター：リセットしてからの走行距離を km の単位で表示します。区間距離は、トリップ A・トリップ B の 2 種類で使い分けることができます。

6 シフトポジション・シフトレンジ

選択されているシフトポジションまたはシフトレンジを表示します。

(→P. 153)

7 水温計

エンジン冷却水の温度を示します。

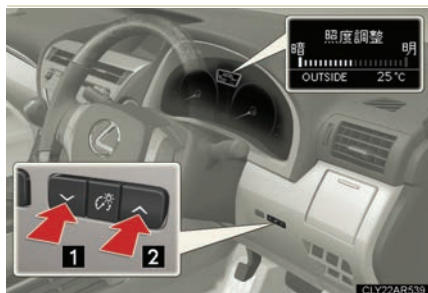
表示の切りかえ



スイッチを押すごとに表示が切りかわります。また、トリップメーター表示中に押し続けると、走行距離を0にもどします。

インストルメントパネル照明調整

スイッチを押して、インストルメントパネル照明の明るさを調整できます。



- 1 暗くなる
- 2 明るくなる

知識

■メーター・ディスプレイの作動条件

“エンジン スタート ストップ” スイッチがイグニッション ON モードのとき

⚠ 注意

■エンジンや構成部品への損傷を防ぐために

- タコメーターの針がレッドゾーン（エンジンの許容回転数をこえている範囲）に入らないようにしてください。
- 水温計の針がHのレッドゾーンに入ったときは、オーバーヒートのおそれがあるので、ただちに安全な場所に停車してください。（→P. 362）

2-2. メーターの見方 表示灯／警告灯

次のイラストは、説明のためすべての表示灯／警告灯を示しています。

■ メーター



■ センターパネル



■ 表示灯

システムの作動状況を表示します。



方向指示表示灯
(→P. 160)



ハイビーム表示灯
(→P. 182)



尾灯表示灯 (→P. 182)



フロントフォグランプ
表示灯 (→P. 185)



リヤフォグランプ
表示灯* (→P. 185)



ECO MODE 表示灯
(→P. 154)



クリアランスソナー表示灯*
(→ 別冊「ナビゲーション
システム取扱説明書」参
照)



※ 1

AFS OFF 表示灯
(→P. 183)



※ 1, 2

スリップ表示灯
(→P. 211, 217)



※ 1

VSC OFF 表示灯
(→P. 212)



※ 1

エコドライブインジケー
ターランプ (→P. 140)



ECT SNOW 表示灯
(→P. 155)

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備



クルーズコントロール
表示灯 (→P. 194, 198)



(AWD 車)

※ 1
AWD ロック表示灯*
(→P. 216)



レーダークルーズコン
ロール表示灯*
(→P. 198)



(点灯または
早い点滅)

※ 1
PCS 警告灯* (→P. 219)

※¹ 作動確認のために“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッション ON モードにすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

※² 点滅した場合はシステムが作動していることを示します。

警告灯

万一のシステム異常などを警告します。(→P. 322)



※¹ 作動確認のために“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッション ON モードにすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

※² 点滅した場合はシステム異常のおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備



■ **安全装置の警告灯が点灯しないときは**

ABS や SRS エアバッグなどの安全装置の警告灯が、“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッション ON モード にしても点灯しない場合や点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

マルチインフォメーションディスプレイ

マルチインフォメーションディスプレイは、外気温や走行に関する様々な情報を表示します。

■ マルチインフォメーションスイッチ



1 ▲ ▼スイッチ

表示中の項目を切り替えることができます。

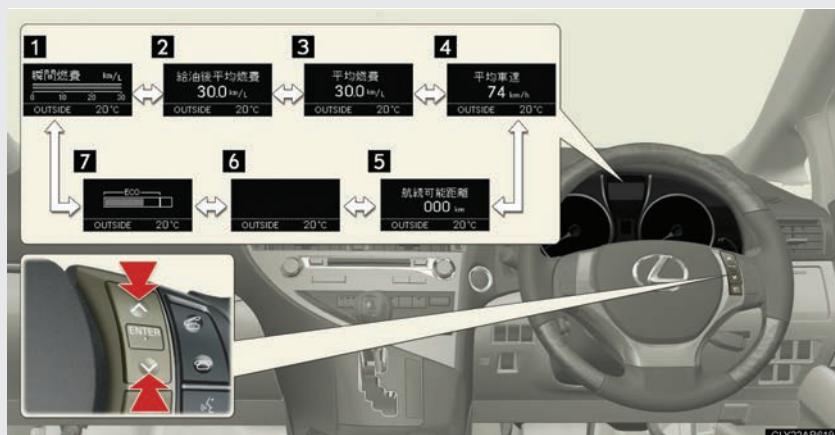
2 ENTER スイッチ

スイッチモードやカスタマイズモードの設定を切り替えることができます。

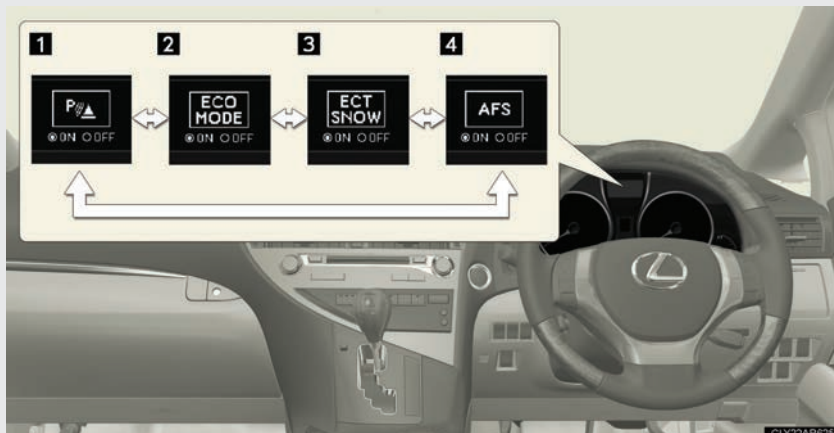
3 メニュースイッチ

スイッチモードやカスタマイズモードを表示したり、各モードから通常画面に戻したりすることができます。

■ 表示する情報



トリップインフォメーション	表示の切りかえ
1 瞬間燃費	△ ∇スイッチを押す。
2 給油後平均燃費	
3 平均燃費	
4 平均車速	
5 航続可能距離	
6 表示 OFF	
7 エコドライブインジケーターゾーン表示	



スイッチモード	機能と内容
1 クリアランスソナー*	別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」をご覧ください。
2 エコドライブモード	→P. 154
3 スノーモード	→P. 155
4 AFS	→P. 183

表示順はお車の状態により異なる場合があります。

その他の機能	機能と内容
外気温	外気温を表示します。
レーダークルーズコントロール表示* →P. 198	レーダークルーズコントロール使用時に自動で表示されます。
窓閉め提案モード →P. 173	降車時にドアガラスを閉める提案を表示します。
カスタマイズモード →P. 377	窓閉め提案モードやエコドライブインジケータランプの ON/OFF を変更することができます。
警告メッセージ →P. 326	各システムに異常が発生すると自動で表示されます。

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

トリップインフォメーション

■ 瞬間燃費

現在の瞬間燃費を表示します。

■ 給油後平均燃費

給油をしてからの平均燃費を表示します。

表示される平均燃費は、参考として利用してください。

■ 平均燃費

リセットしてからの平均燃費を表示します。

- ・ リセットするには、平均燃費表示中に ENTER スイッチを 1 秒以上押します。
- ・ 表示される平均燃費は、参考として利用してください。

■ 平均車速

リセットしてからの平均車速を表示します。

リセットするには、平均車速表示中に ENTER スイッチを 1 秒以上押します。

■ 航続可能距離

現在の燃料残量で走行できるおよその距離を表示します。

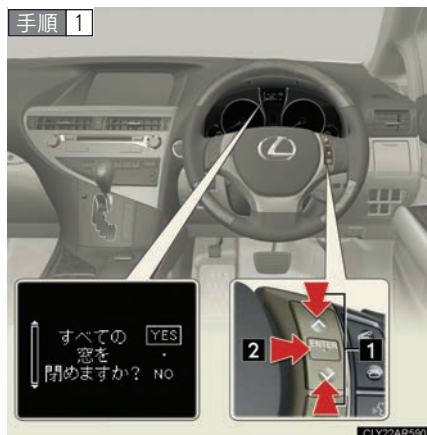
- ・ 表示される距離は過去の平均燃費をもとに算出されるため、表示される距離を実際に走行できるとは限りません。
- ・ 燃料給油量が少量の場合、表示が更新されないことがあります。
給油の際は“エンジン スタート ストップ” スイッチを OFF にしてください。万一、“エンジン スタート ストップ” スイッチを OFF にせず給油した場合、表示が更新されないことがあります。

■ エコドライブインジケーターゾーン表示

→P. 175

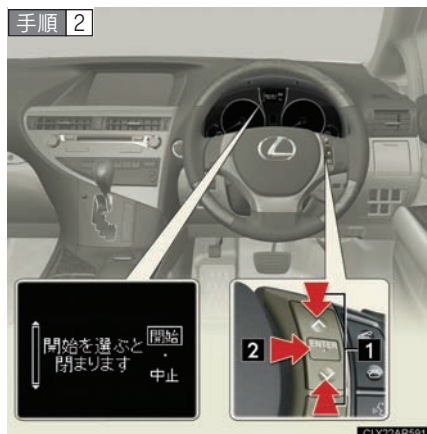
窓閉め提案モード

降車時にいずれかのドアガラスが開いているときに、“エンジン スタート ストップ” スイッチを OFF にすると、ドアガラスを閉めるかどうかの確認画面が表示されます。以下の操作を行うと、全てのドアガラスを一括して閉めることができます。



1 ^ v スイッチを押して YES を選択

2 ENTER スイッチを押す
NO を選択すると窓閉め提案モードは終了します。



1 ^ v スイッチを押して開始を選択

2 ENTER スイッチを押す
全てのドアガラスが一括して閉まります。

中止を選択すると窓閉め提案モードは停止されます。

 知識

■ スイッチモードの作動条件

“エンジン スタート ストップ” スイッチがイグニッション ON モードのとき

■ スイッチモードの終了条件

操作条件によって以下のようなときスイッチモードは終了します。

- メニュースイッチを押したとき
- レーダークルーズコントロールの操作を行ったとき
- クリアランスソナーが作動したとき
- スイッチモード画面表示後、しばらくのあいだ操作を行わなかったとき
- スイッチモード画面表示後に警告メッセージが表示されたとき

■ 窓閉め提案モードについて

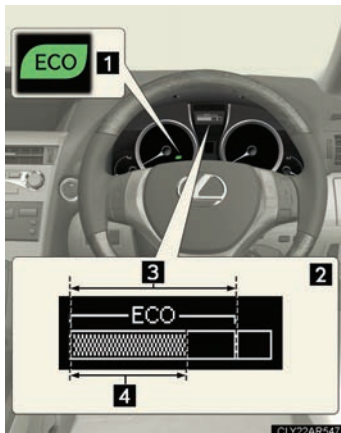
- 以下の場合、窓閉め提案モードは作動しません。
 - ・ マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたとき
 - ・ ウィンドウロックスイッチを ON にしているとき
 - ・ すべてのドアガラスが閉まっているとき
 - ・ カスタマイズ設定で降車時窓全閉提案が“しない”になっているとき
 - ・ 運転席のドアを開閉したとき
- 以下の場合、窓閉め提案モードは終了します。
 - ・ “エンジン スタート ストップ” スイッチを ON にしたとき
 - ・ “エンジン スタート ストップ” スイッチを OFF にしてから約 20 秒が経過したとき
 - ・ マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたとき
 - ・ すべてのドアガラスを閉めたとき
 - ・ ウィンドウロックスイッチを ON にしたとき
 - ・ メニューボタンを押したとき
 - ・ 運転席のドアを開閉したとき
 - ・ ワイヤレスリモコンで、ドアガラスの開閉操作を行ったとき

● 以下の場合、全閉作動は途中で停止します。

- ・ “エンジン スタート ストップ” スイッチを ON にしたとき
- ・ ENTER スイッチを押したとき
- ・ ウィンドウロックスイッチを ON にしたとき
- ・ 挟み込み防止機能が作動したとき
- ・ ワイヤレスリモコンで、ドアガラスの開閉操作を行ったとき

窓閉め提案モードによる全閉作動中にいずれかのパワーウィンドウスイッチを操作すると、そのドアガラスは途中で停止します。

■ エコドライブインジケーターについて



- 1 エコドライブインジケーターランプ**
環境に配慮したアクセル操作（エコ運転）中は、エコドライブインジケーターランプが点灯します。
- 2 エコドライブインジケーターゾーン表示**
エコ運転の範囲と現状のアクセル開度を表示します。
- 3 エコ運転の範囲**
- 4 現状のアクセル開度**
現状のアクセル開度がエコ運転の範囲を超えたとき、エコドライブインジケーターゾーン表示の右側が点滅します。
このとき、エコドライブインジケーターランプは消灯します。

次の場合、エコドライブインジケーターは作動しません。

- シフトレバーが D 以外するとき
- パドルシフトスイッチを操作したとき（パドルシフトスイッチ装着車）
- 走行モードがスノーモードのとき（→P. 155）
- 車速が約 100 km/h 以上のとき

■ 外気温表示について

以下の場合、正しい外気温度が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。

- 停車しているときや、低速走行（約 25 km/h 以下）のとき
- 外気温度が急激に変化したとき（車庫、トンネルの出入り口付近など）

■ 低温時の画面表示について

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切りかえが遅れる場合がありますので、車内を暖めてください。

■ カスタマイズ機能

窓閉め提案モードの ON/OFF などを変更できます。（カスタマイズ一覧 →P. 377）

警告

■ 窓閉め提案モードに関する注意点

- 全閉作動を開始するときは、ドアガラスに挟み込むものがないか周囲の安全に十分注意してください。
- 窓閉め提案モードが作動しない場合もあります。
降車時には全てのドアガラスが閉まっていることを確認してください。

■ スイッチモードについて

走行中にスイッチモードを操作する場合は、周囲の安全に十分注意してください。

ヘッドアップディスプレイ*

ヘッドアップディスプレイは、フロントウインドウガラスに車速などを表示することができます。



1 ヘッドアップディスプレイ

表示輝度は、周囲の明るさに応じて自動で調整されます。

2 表示位置調整スイッチ

3 表示輝度調整スイッチ

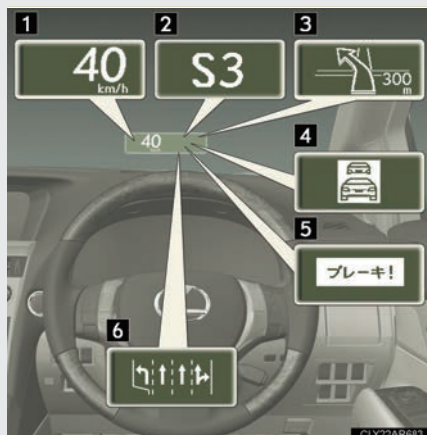
表示輝度はお好みの明るさに調整できます。

4 HUD（ヘッドアップディスプレイ）メインスイッチ

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

■ ヘッドアップディスプレイの表示内容

車速表示以外に以下の表示機能を備えています。



1 車速

2 シフトポジション・シフトレンジ

選択されているシフトポジションまたはシフトレンジを表示します。
(→P. 153)

3 簡易矢印ナビ※

ナビゲーションシステムがルート案内中、交差点にさしかかると、交差点案内表示を表示します。

4 レーダークルーズコントロール*

接近警報を表示します。(→P. 332)

5 PCS *

ブレーキ警報を表示します。
(→P. 332)

6 レーン案内

交差点の手前で、走行中のレーン情報を表示します。初期設定では非表示になっています。(→P. 180)

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

※ : 別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

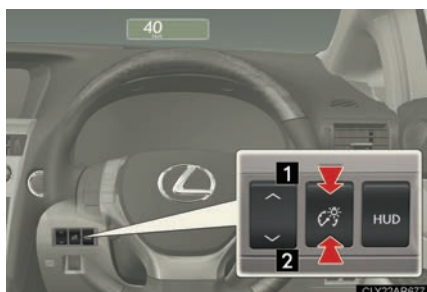
HUD メインスイッチ



ヘッドアップディスプレイの ON/OFF を切りかえる

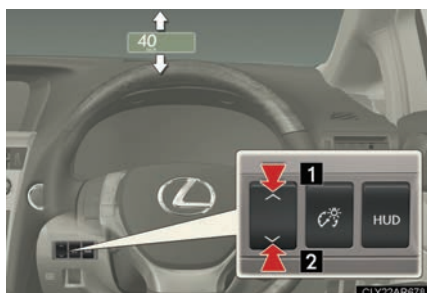
調整のしかた

表示輝度の調整



- 1 明るくなる
- 2 暗くなる

表示位置の調整



- 1 高くなる
- 2 低くなる

表示のカスタマイズ

レーン案内またはシフトポジション・シフトレンジの表示 / 非表示を切りかえることが出来ます。



HUD メインスイッチを長押しすると、各表示の ON/OFF 切り換え画面に移行します。

HUD メインスイッチを押して、切りかえたい項目を選択します。

HUD メインスイッチを長押しすると ON/OFF は切りかわります。

ヘッドアップディスプレイがONで車速が 8 km/h 以下のときに操作ができません。

知識

■ 表示輝度について

ヘッドアップディスプレイの表示輝度は、周囲の明るさをライトセンサーで感知して、自動調整されています。(→P. 184)

■ ヘッドアップディスプレイについて

サングラス（特に偏光サングラス）をかけていると、ヘッドアップディスプレイが見えづらい場合があります。表示輝度を調整するか、サングラスをはずしてください。

警告

■ 安全にお使いいただくために

映像の明るさ、および表示位置は安全運転に支障がないように適切な状態に調整してください。調整した映像の明るさや表示位置によっては、運転者の視界のさまたげから思わぬ事故につながり、重大な傷害または死亡におよぶおそれがあります。

 注意

■ 部品の損傷を防ぐために

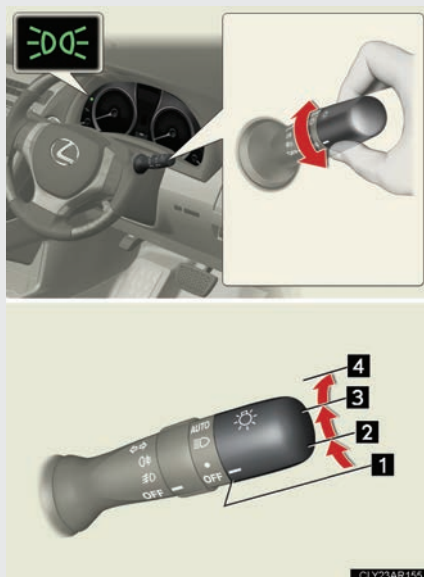
- ヘッドアップディスプレイの開口部にものを置かないでください。



- ヘッドアップディスプレイ開口部にものが落ち込んでしまったときは、すみやかに取り除いてください。また、水などの液体をこぼさないでください。機械の故障の原因となります。

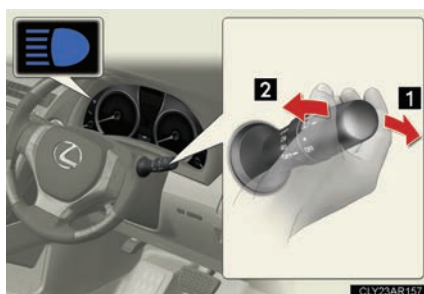
2-3. ライトのつけ方・ワイパーの使い方 ランプスイッチ

自動または手動でヘッドランプなどを点灯できます。



- 1 **OFF** 消灯
- 2 **●** 車幅灯・尾灯・番号灯・インストルメントパネルランプを点灯
- 3 **≡D** 上記ランプとヘッドランプを点灯
- 4 **AUTO** ヘッドランプ、LED デイライト、車幅灯などを自動点灯・消灯（“エンジン スタートストップ” スイッチがイグニッション ON モードのとき）

ハイビームにする



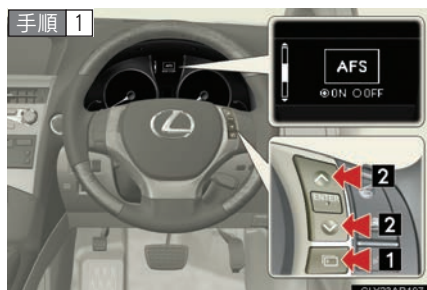
- 1 ランプ点灯時ハイビームに切りかえ
レバーを元の位置へもどすとロービームにもどります。
- 2 レバーを引いている間、ハイビームを点灯
ランプが消灯していても、ハイビームが点灯します。レバーをはなすと、ロービームにもどる、または消灯します。

AFS（アダプティブフロントライティングシステム）

AFS は交差点やカーブでの視認性を向上させるため、ハンドル操作によって変化するタイヤの角度や車速に応じてヘッドランプの光軸を自動で調整します。

車速が 10 km/h 以上のときに作動します。

■ AFS を OFF にするには



1 メニュースイッチを押す

マルチインフォメーションディスプレイがスイッチモードに移行します。

2 入またはVスイッチを押して AFS を表示させる。



ENTER スイッチを押して、OFF に切りかえると AFS OFF 表示灯が表示されます。

ENTER スイッチを押すごとに ON/OFF は切りかわります。

メニュースイッチを押すと、元の画面にもどります。

知識

■ LED デイライト

日中走行時にお車が他の車両の運転手から見えやすくするために、エンジンを始動し、ランプスイッチ **AUTO** 時にパーキングブレーキを解除すると LED デイライトが自動で点灯します。(車幅灯より明るく点灯します。)

LED デイライトは夜間の使用を意図したものではありません。

■ ライトセンサー



センサーの上にものを置いたり、センサーをふさぐようなものをウインドウガラスに貼らないでください。周囲からの光がさえぎられると、自動点灯・消灯機能が正常に働かなくなります。

■ ランプ消し忘れ防止機能

“エンジン スタート ストップ” スイッチをアクセサリモードまたは OFF にして運転席ドアを開けるとヘッドランプと尾灯が消灯します。

再びランプを点灯する場合は、“エンジン スタート ストップ” スイッチをイグニッション ON モードにするか、一度ランプスイッチを **OFF** にもどし、再度  の位置にします。

■ オートレベリングシステム

通行人や対向車がまぶしくないように、乗車人数・荷物の量などによる車の姿勢の変化にあわせて、ヘッドランプの光軸を自動で調整します。

■ AFS OFF 表示灯が点滅するときは

システムに異常があるおそれがあります。レクサス販売店に連絡してください。

■ カスタマイズ機能

ライトセンサーの感度の設定などを変更できます。(カスタマイズ一覧 →P. 377)

注意

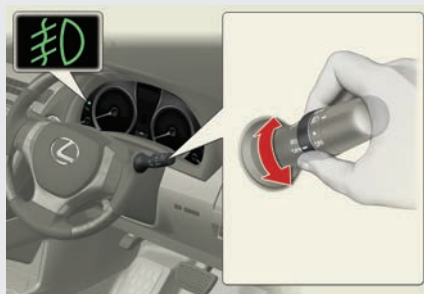
■ バッテリーあがりを防止するために

エンジンを停止した状態でランプを長時間点灯しないでください。

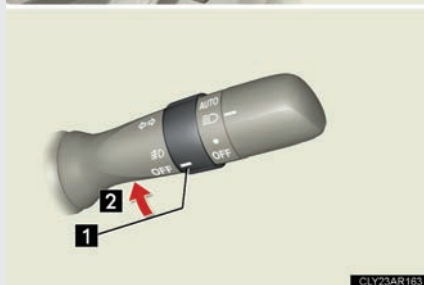
2-3. ライトのつけ方・ワイパーの使い方 フォグランプスイッチ

雨や霧などの悪天候下で視界を確保します。

フロントフォグランプスイッチ*



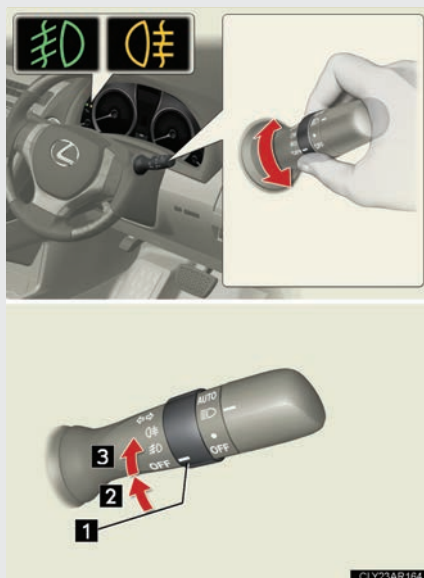
- | | | |
|---|-----|------|
| 1 | OFF | 消灯する |
| 2 | 霧灯 | 点灯する |



CLY23AR163

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

フロント&リアフォグランプスイッチ*



- 1 **OFF** 消灯する
- 2 **F** フロントフォグランプを点灯させる
- 3 **R** フロント&リアフォグランプを点灯させる

手を離すと **F** の位置までもどります。

再度操作すると、リアフォグランプのみ消灯します。

知識

■点灯条件

フロントフォグランプ:ヘッドランプまたは車幅灯が点灯しているときに使用できません。

リアフォグランプ:リアフォグランプは、フロントフォグランプが点灯しているときのみ使用できます。

■リアフォグランプについて

- リアフォグランプが点灯しているときは、メーター内の表示灯が橙色に点灯します。
- 雨や霧などで視界が悪いときに後続車に自分の車の存在を知らせるために使用します。
視界が悪いとき以外に使用すると後続車の迷惑になる場合があります。
必要なとき以外は使用しないでください。

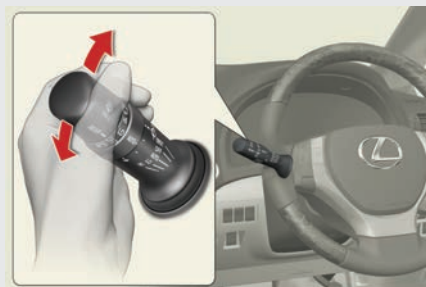
*: グレードなどで異なる装備やオプション装備

2-3. ライトのつけ方・ワイパーの使い方

ワイパー & ウォッシャー（フロント）

AUTO を選択しているとき、雨滴量と車速に応じてワイパーが作動します。

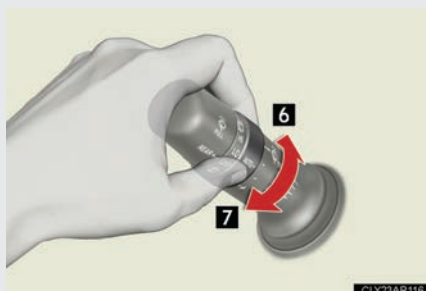
AUTO が選択されているときは、次のようにつまみをまわして、雨滴センサーの感度を調整できます。



- | | | |
|---|------|-----------|
| 1 | OFF | 停止 |
| 2 | AUTO | 雨滴感知オート作動 |
| 3 | LO | 低速作動 |
| 4 | HI | 高速作動 |
| 5 | MIST | 一時作動 |

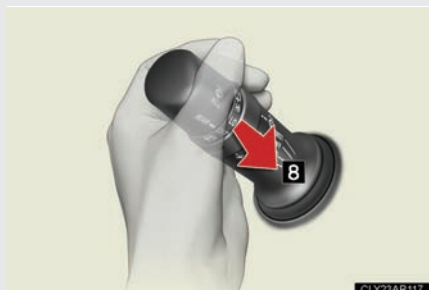


CLY23AR204



CLY23AR116

- | | |
|---|----------------|
| 6 | 雨滴センサーの感度調整（低） |
| 7 | 雨滴センサーの感度調整（高） |



8 ウォッシャー液を出す

ワイパーが連動して作動します。(数回作動したあと、液だれ防止としてさらに1回作動します)

知識

■ 作動条件

“エンジン スタート ストップ” スイッチがイグニッション ON モードのとき

■ 車速による作動への影響

AUTO 選択時以外でも、車速によってウォッシャー連動時のワイパー作動（液だれ防止作動が働くまでの時間）が変わります。

LO 選択時は停車時のみ間欠作動へ切りかわります。
(雨滴センサーの感度調整が最高に調整されているときは、低速作動を続けます。)

■AUTO 作動について



- 雨滴感知センサーが雨滴量を判定します。
光学センサーを使用しているため、フロントガラスに朝日や夕日が断続的にあたるときや、虫などで汚れたときに、正しく作動しないことがあります。

- “エンジン スタート ストップ” スイッチがイグニッション ON モードのときにワイパースイッチを **AUTO** にすると、動作確認のためワイパーが1回作動します。
- ワイパースイッチが “AUTO” モードのときに雨滴センサーの感度調整を高側へ調整すると、動作確認のためワイパーが1回作動します。
- 雨滴感知センサーの温度が90℃以上または-15℃以下のときは、AUTO作動しないことがあります。その場合は、AUTO モード以外でワイパーを使用してください。

■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

 警告

■ **AUTO モード時のワイパー作動に関する警告**

AUTO モードでは、センサーにふれたり、フロントウインドウガラスに振動があるなどの要因で不意にワイパーが働くおそれがあります。ワイパーで指などを挟まないように注意してください。

■ **ウォッシャー使用時の警告**

寒冷時はフロントウインドウガラスが暖まるまでウォッシャー液を使用しないでください。ウォッシャー液がフロントウインドウガラスに凍りつき、視界不良を起こして思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 注意

■ **フロントウインドウガラスが乾いているときは**

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

■ **ウォッシャー液が出ないときは**

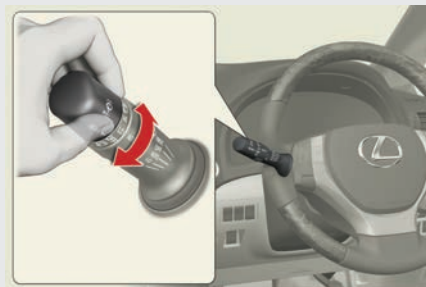
ウォッシャースイッチを操作しつづけないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■ **ノズルがつまったときは**

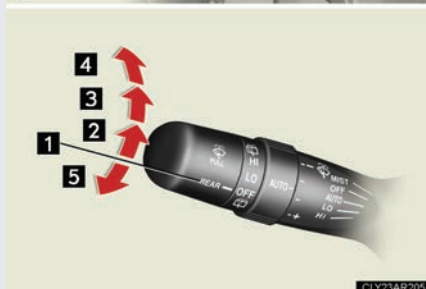
ノズルがつまったときはレクサス販売店へご連絡ください。
ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

2-3. ライトのつけ方・ワイパーの使い方 ワイパー&ウォッシャー（リヤ）

ワイパーを以下のように操作して作動を選択します。



- | | | |
|---|-----|-------------------------------|
| 1 | OFF | 停止 |
| 2 | LO | 間欠作動 |
| 3 | HI | 通常作動 |
| 4 | | ウォッシャー液を出す
ワイパーが連動して作動します。 |
| 5 | | ウォッシャー液を出す
ワイパーが連動して作動します。 |



知識

■ 作動条件

“エンジン スタート ストップ” スイッチがイグニッション ON モードのとき

■ ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

 注意

■ リヤウインドウガラスが乾いているときは

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

■ ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャースイッチを操作し続けしないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■ ノズルがつまったときは

ノズルがつまったときはレクサス販売店へご連絡ください。
ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

ヘッドランプクリーナー

ヘッドランプウォッシャー液を噴射します。



スイッチを押してヘッドランプを洗淨する

知識

■ 作動条件

“エンジン スタート ストップ” スイッチがイグニッション ON モードでヘッドランプが点灯しているとき

⚠ 注意

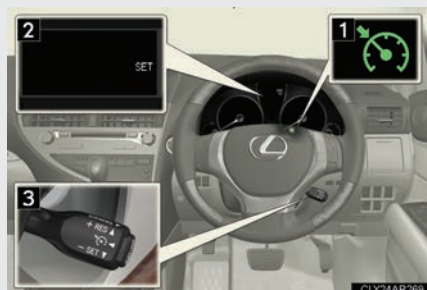
■ ウォッシャー液が出ないときは

ヘッドランプクリーナースイッチを操作しつづけないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

2-4. その他の走行装置の使い方

クルーズコントロール*

アクセルペダルを踏まなくても一定の速度で走行できます。



- 1 クルーズコントロール表示灯
- 2 ディスプレイ
- 3 クルーズコントロールスイッチ

■ 速度を設定する



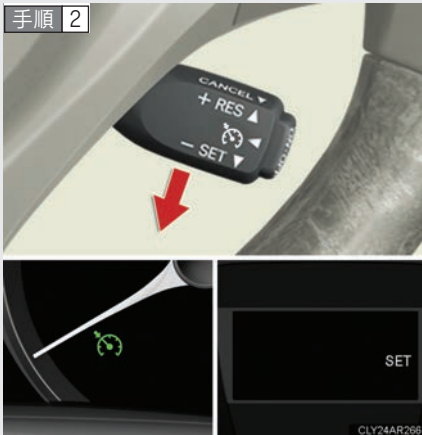
ON-OFF スイッチを押して、システムを ON にする

メーター内のクルーズコントロール表示灯が点灯します。

OFF にはするには、再度スイッチを押します。

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

手順 2



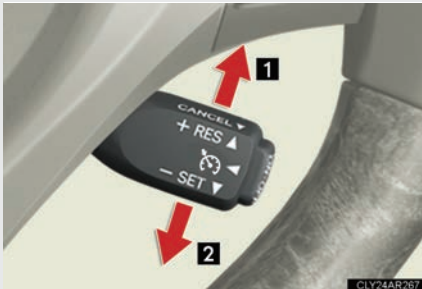
希望の速度まで加速／減速し、レバーを下げて設定する

ディスプレイ内に“SET”と表示されます。

レバーを離れたときの速度で定速走行できます。

■ 設定速度を変える

設定速度を変えるには、希望の速度になるまでレバーを操作します。



1 速度を上げる

2 速度を落とす

微調整：レバーを上または下に軽く操作して手を離す

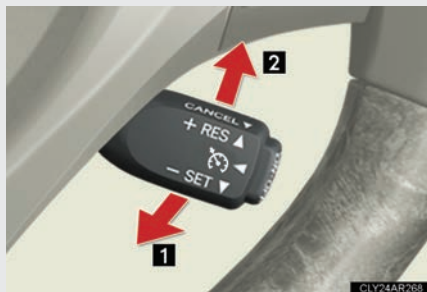
調整：希望の車速になるまでレバーを保持する

設定速度は、次の通りに増減されます：

微調整：レバー操作するごとに約 1.6 km/h

調整：レバーを保持する間

■ 定速走行を解除する・復帰させる



- 1** 解除するには、レバーを手前に引く

ブレーキを踏んだときも解除されます。

- 2** 定速走行にもどすには、レバーを上げる

レバーを上げると、もとの定速走行にもどります。ただし、実際の速度が約 40 km/h 以下になると設定速度が消去されるため、復帰しません。

□ 知識

■ 設定条件について

- シフトレバーが D または S の 4 レンジ以上のとき設定できます。
- パドルシフトで 4 レンジ以上を選択したとき設定できます。
(パドルシフト装着車)
- 車速は約 40 km/h ～約 100 km/h の範囲で設定できます。

■ 車速設定後の加速について

- 通常走行と同様にアクセルで加速できます。加速後、設定車速にもどります。
- クルーズコントロールを解除しなくても、希望の速度まで加速して、レバーを上げるにより設定車速を変更することができます。

■ 定速走行の自動解除

以下のとき、自動的に定速走行が解除されます。

- 設定速度より実際の速度が約 16 km/h 以上低下した
- 速度が約 40 km/h 以下になった
- VSC が作動した *
- S-VSC が作動した *

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

■ 定速走行中に警告メッセージが表示されたときは

ON-OFF スイッチでシステムを一度 OFF にし、再度設定してください。

設定できないとき、またはすぐに解除されるときは、システム異常のおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

⚠ 警告**■ 誤操作を防ぐために**

クルーズコントロールを使わないときは、ON-OFF スイッチでシステムを OFF にしてください。

■ クルーズコントロールを使用してはいけない状況

以下の状況では、クルーズコントロールを使用しないでください。

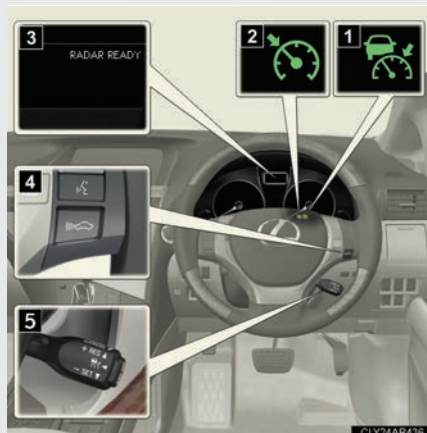
車のコントロールを失い、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 交通量の多い道
- 急カーブのある道
- 曲がりくねった道
- 雨天時や、凍結路、積雪路などのすべりやすい路面
- 急な下り坂
急な下り坂では設定車速以上になることがあります。
- トレーラー、または車両けん引時

レーダークルーズコントロール*

アクセルペダルを踏まなくても、車間制御モードで先行車の車速変化に合わせた追従走行を行ったり、定速制御モードにより一定の速度で走行できます。

先行車との車間距離が確保しやすい高速道路や自動車専用道路などで使用してください。



- 1 表示灯（車間制御モード）
- 2 表示灯（定速制御モード）
- 3 ディスプレイ
- 4 車間距離切りかえスイッチ
- 5 レーダークルーズコントロールスイッチ

■ 車速を設定する（車間制御モード）



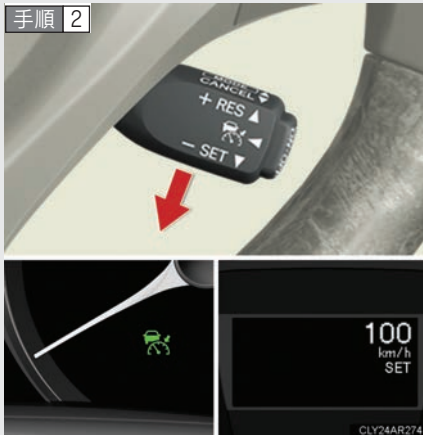
ON-OFF スイッチを押してシステムを ON にする

メーター内のレーダークルーズコントロール表示灯が点灯します。

OFFにするには再度ON-OFFスイッチを押します。

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

手順 2



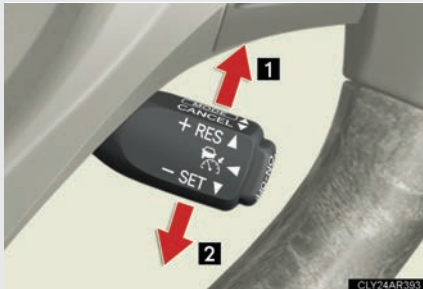
希望の速度まで加速 / 減速し、レバーを下げて速度を設定する

ディスプレイ内に“SET”と表示されます。

レバーを離れたときの速度で定速走行できます。

■ 設定速度を変えるには

設定速度を変えるには、希望の速度が表示されるまでレバーを操作します。



1 速度を上げる

2 速度を落とす

微調整：レバーを上または下に軽く操作して手を離す

調整：希望の車速になるまでレバーを保持する

車間制御モードでは、設定速度は、次の通りに増減されます：

微調整：レバー操作をするごとに約 1 km/h

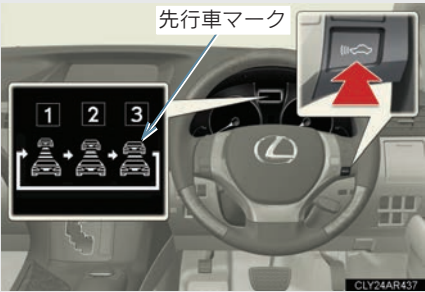
調整：レバーを保持する間、0.75 秒ごとに約 5 km/h

定速制御モード（→P. 204）では、設定速度は、次の通りに増減されます：

微調整：レバー操作をするごとに約 1.6 km/h

調整：レバーを保持する間

■ 車間距離を変更するには（車間制御モード）



スイッチを押すごとに以下のように車間距離を切りかえます。

- 1 長い
- 2 中間
- 3 短い

“エンジン スタート ストップ” スイッチがイグニッション ON モードになるたびに **1** に設定されます。

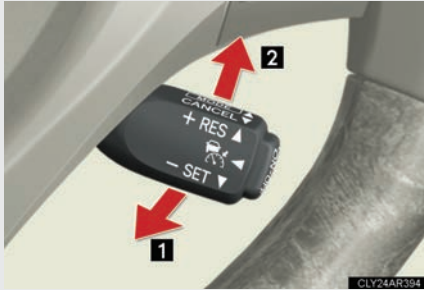
先行車がいる場合、先行車マークも表示されます。

■ 車間距離選択の目安

以下の目安を参考に車間距離を選択してください。
(時速 80 km/h で走行している場合)
なお、車速に応じて車間距離は増減します。

車間距離選択	車間距離
長い	約 50 m
中間	約 40 m
短い	約 25 m

■ 制御を解除する・復帰させるには



- 1** 解除するには、レバーを手前に引く

ブレーキを踏んだときも解除されます。

- 2** もとの制御状態にもどすには、レバーを上げる

レバーを上げると、もとの定速走行にもどります。

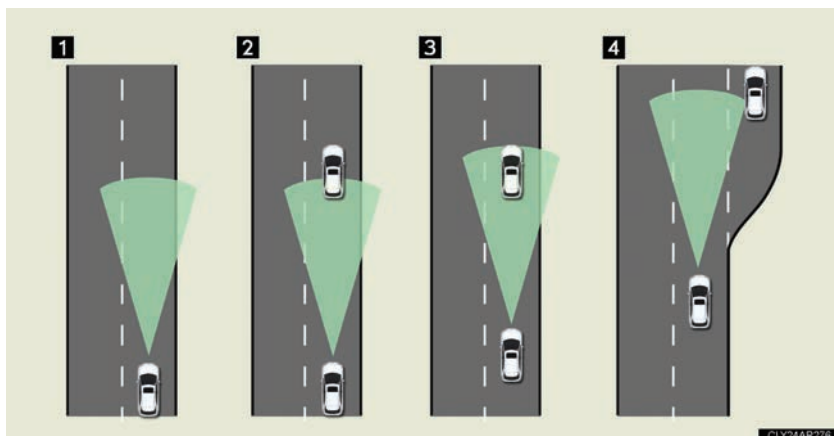
ただし、実際の速度が約 40 km/h 以下のときは復帰しません。

また、定速制御モードで使用しているときは、約 40 km/h 以下になると設定速度が消去されるため、復帰しません。

車間制御モードでの走行

このモードではレーダーセンサーにより、車両前方約 100 m 以内の先行車を検知して、先行車の有無・先行車との車間距離を判定します。

長い下り坂を走行しているときは、車間距離が短めになります。



1 定速走行：

先行車がないとき

運転者が設定した車速で定速走行します。また、車間距離切りかえスイッチを操作して、希望の車間距離に設定することもできます。

2 減速走行：

設定した車速より遅い先行車が現れたとき

自車線に先行車を検知すると自動で減速し、より大きな減速が必要な場合はブレーキがかかります。十分に減速できない状態で先行車に接近した場合は、接近警報を鳴らします。

3 追従走行：

設定した車速より遅い先行車に追従するとき

先行車の車速変化に合わせて、運転者の設定した車間距離になるよう追従します。

4 加速走行：

設定した車速より遅い先行車がいなくなったとき

設定車速まで加速し、定速走行にもどります。

接近警報

追従走行中の他車の割り込みなど、十分な減速ができない状態で先行車に接近したときは、表示の点滅とブザーで運転者に注意をうながします。その場合は、ブレーキを踏むなど適切な車間距離を確保してください。

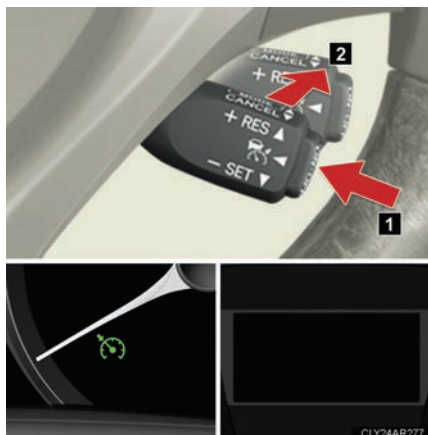
■ 警報されないとき

車間距離が短くても、次のような場合は警報されないことがあります。

- 先行車と自車の車速が同じか先行車の方が速いとき
- 先行車が極端な低速走行をしているとき
- 速度を設定した直後
- アクセルペダルが踏まれたとき

定速制御モードを選択する

定速制御モードを選択したときは、車間制御モードと異なり、先行車の有無に関わらず一定の速度で走行します。



- 1 ON-OFF スイッチを押して、システムを ON にする

OFF するには再度 ON-OFF スイッチを押します。

- 2 定速制御モードに切りかえ
(約 1 秒間レバーを前方に押し続ける)

定速制御モードに切りかえると、定速制御モード表示灯が点灯します。

定速制御モードから車間制御モードに戻すには、再度レバーを前方に約 1 秒間押し続けます。

希望の速度を設定したあとは車間制御モードに切りかえることはできません。

“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にし、再度 “エンジン スタート ストップ” スイッチをイグニッション ON モードにした場合は、自動で車間制御モードに戻ります。

設定速度を変えるには

→P. 199

制御を解除する・復帰させるには

→P. 201

 知識

■ 設定条件について

- シフトレバーが D または S の 4 レンジ以上のとき設定できます。
- パドルシフトで 4 レンジ以上を選択したとき設定できます。
(パドルシフト装着車)
- 車速は約 50 km/h ～約 100 km/h の範囲で設定できます。

■ 車速設定後の加速について

通常走行と同様にアクセル操作で加速できます。加速後、設定車速にもどります。ただし、車間制御モード時は先行車との距離を保持するため設定車速以下になることもあります。

■ 車間制御走行の自動解除

次のとき、自動的に車間制御による走行が解除されます。

- 実際の車速が約 40 km/h 以下になった
- VSC が作動した *
- S-VSC が作動した *
- センサーが何かでふさがれて適切に働かない
- ワイパーが高速で作動した (ワイパースイッチを“AUTO”モードまたは高速作動の位置にしたとき)
- 走行モードをスノーモードにセットした

その他の理由で車間制御走行が自動解除されるときは、システムが故障している可能性があります。レクサス販売店にご相談ください。

■ 定速制御走行の自動解除

以下の場合、自動的に定速制御が解除されます。

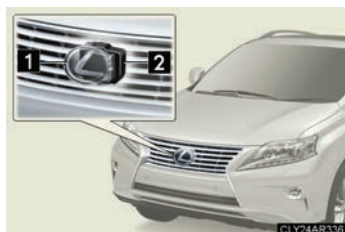
- 設定速度より実際の速度が約 16 km/h 以上低下した
- 実際の速度が約 40 km/h 以下になった
- VSC が作動した *
- S-VSC が作動した *

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

■ レーダーセンサーとグリルカバーについて

車間制御を正しく作動させるためにセンサーとグリルカバーは常にきれいにしておいてください。(ビニールやつらら・雪など、汚れ検知機能で検知できないものもあります)

汚れを検知したときは、レーダークルーズコントロールは解除されます。



1 グリルカバー

2 レーダーセンサー

■ レーダークルーズコントロールの表示灯・警告メッセージ・警告ブザー

走行操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、表示灯や警告メッセージ・警告表示・警告ブザーで注意をうながします。(→P. 332)

**警告****■安全にお使いいただくために**

安全運転を行う責任は運転者にあります。装置を過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

レーダークルーズコントロールは運転者の操作の一部を支援し、操作負担を軽減するためのシステムで、支援の範囲には限りがあります。

システムが正常に機能していても、運転者が認識している先行車の状況とシステムが検知している状況が異なる場合があります。従って注意義務・危険性の判断・安全の確保は運転者が行う必要があります。なお、誤った使い方をしたり、操作慣れなどで注意を怠ったりすると、思わぬ危険を招くことがあります。

■システムの支援内容に関する注意点

システムの支援には限界があるため、次の点に注意してください。

システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●運転者が見る過程での支援内容

レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離を検知するのみであり、わき見やぼんやり運転を許容する装置でも、視界不良を補助する装置でもありません。

運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。

●運転者が判断する過程での支援内容

レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離が適正かどうかを判断しており、それ以外の判断はしません。このため、危険性があるかどうかなど運転者は自ら安全の判断をする必要があります。

●運転者が操作する過程での支援内容

レーダークルーズコントロールは、先行車への追突を防止する機能はありません。このため、危険性があれば運転者自らが安全を確保する必要があります。

■誤操作を防ぐために

レーダークルーズコントロールを使わないときは ON-OFF スイッチでシステムを OFF にしてください。



警告

■レーダークルーズコントロールを使用してはいけない状況

次の状況では、レーダークルーズコントロールを使用しないでください。
適切な制御が行われず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 交通量の多い道
- 急カーブのある道
- 曲がりくねった道
- 雨天時や、凍結路・積雪路などの滑りやすい路面
- 急な下り坂や急で勾配の変化が激しい坂
- 高速道路の出入り口
- レーダーセンサーが正しく働かないような悪天候時（霧・雪・砂嵐・激しい雨など）
- 接近警報がひんぱんに鳴るとき
- トレーラーまたは車両けん引時

■センサーが正しく検知しないおそれのある先行車

次のような場合は、必要に応じてブレーキで減速してください。
センサーが正しく車両を検知できず、接近警報（→P. 203）も作動しないため、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 先行車が急に割り込んできたとき
- 先行車が低速で走行中のとき
- 停車中の車がいるとき
- 先行車の後部が小さすぎるとき（荷物を積んでいないトレーラーなど）
- 同じ車線を二輪車が走行中のとき

 警告**■ 車間制御が正しく働かないおそれのある状況**

次の状況では、必要に応じてブレーキで減速してください。

レーダーセンサーが正常に車両を検知せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 周囲の車より水や雪がまき散らされ、レーダーセンサーの作動のさまたげになる場合
- 自車の車両姿勢が上向きになる場合（重い荷物を積んだときなど）
- カーブ路や車線幅が狭い道路などを走行する場合
- ハンドル操作が不安定な場合や、車線内の自車の位置が一定でない場合
- 先行車が急ブレーキをかけた場合

■ レーダーセンサーの取り扱い

レーダークルーズコントロールが効果を発揮できるように次のことをお守りください。お守りいただかないと、センサーが正しく作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- センサーとグリルカバーは常にきれいにしておく
お手入れをする際は、センサーやグリルカバーを傷つけないよう、やわらかい布を使ってください。
- センサー周辺への強い衝撃を避ける
センサーの位置がずれると、システムに異常が起こるおそれがあります。センサー、または周辺に強い衝撃を受けた際は、必ずレックス販売店にて点検を受け、調整してください。
- センサーを分解しない
- センサーやグリルカバー周辺にアクセサリーをつけたり、ステッカーを貼ったりしない
- センサーやグリルカバーを改造したり塗装したりしない
- 純正品以外の部品に交換しない
- センサーは電波法の基準に適合しています。センサーに貼り付けられているラベルはその証明ですのではがさないでください。また、センサーを分解・改造すると罰せられることがあります。

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を高めるため、走行状況に応じて以下の装置が自動で作動します。ただし、これらの装置は補助的なものなので、過信せず
に運転には十分に注意してください。

■ ABS（アンチロックブレーキシステム）

急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロックを防ぎ、スリップを抑制します。

■ ブレーキアシスト

急ブレーキ時などに、より大きなブレーキ力を発生させます。

■ ナビ・ブレーキアシスト

ナビゲーションシステムからの情報を利用したブレーキアシストです。
別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

■ VSC（ビークルスタビリティコントロール）

急なハンドル操作や、すべりやすい路面で旋回するときに横すべりを抑え、車両の姿勢維持に寄与します。

■ TRC（トラクションコントロール）

すべりやすい路面での発進時や加速時にタイヤの空転を抑え、駆動力を確保します。

■ ヒルスタートアシストコントロール

→P. 217

■ EPS（エレクトリックパワーステアリング）

電気式モーターを利用して、ハンドル操作を補助します。

■ アクティブトルクコントロール 4WD *

通常走行からコーナリング時、登坂時、発進時、加速時や雪や雨などですべりやすい路面など様々な走行状態に応じて、FF（前輪駆動）走行状態から AWD（4 輪駆動）走行状態まで自動的に制御し、安定した操縦性・安定性の確保に貢献します。

■ S-VSC（ステアリングアシステッドビークルスタビリティコントロール）*

ABS・TRC・VSC・EPS を協調して制御します。

すべりやすい路面などの走行で急なハンドル操作をした際に、ハンドル操作力を制御することで、車両の方向安定性確保に貢献します。

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

■ VDIM（ビークルダイナミクスインテグレイテッドマネージメント）*

ABS・ブレーキアシスト・TRC・VSC・EPSを総合的に制御します。
すべりやすい路面の走行などで急なハンドル操作をする際に、ブレーキ・エンジン出力を制御することで、車両の安定性確保に貢献します。

■ PCS（プリクラッシュセーフティシステム）*

→P. 219

■ 緊急ブレーキシグナル

急ブレーキ時に制動灯を自動的に点滅させることにより、後続車に注意をうながし、追突される可能性を低減させます。

VSC・TRC が作動しているとき



車が横すべりしそうになったとき、タイヤが空転したときは、VSC・TRCの作動を表示するために、スリップ表示灯が点滅します。

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

TRC や VSC を停止するには

ぬかるみや新雪などから脱出するときに、TRC や VSC が作動していると、アクセルペダルを踏み込んでもエンジンの出力が上がらず、脱出が困難な場合があります。このようなときに VSC OFF スイッチを押すことにより、脱出しやすくなります。

■ TRC を停止するには



TRCを停止するにはスイッチを押す

マルチインフォメーションディスプレイ上にメッセージが表示されます。

もう一度スイッチを押すと、システム作動状態にもどります。

■ TRC と VSC を停止するには



TRC と VSC を停止するには停車時にスイッチを押し 3 秒以上保持してください。

マルチインフォメーションディスプレイ上にメッセージが表示され、VSC OFF 表示灯が点灯します。

もう一度スイッチを押すと、システム作動状態にもどります。

 知識**■ VSC OFF スイッチを押さなくてもマルチインフォメーションディスプレイに TRC OFF 表示がされたとき**

TRC・ヒルスタートアシストコントロールが作動できない状態になっています。レクサス販売店にご相談ください。

■ ABS・ブレーキアシスト・VSC・TRC・ヒルスタートアシストコントロールの作動音と振動

- エンジン始動時や発進直後、ブレーキを繰り返し踏んだときに、エンジンルームから作動音が聞こえることがあります。異常ではありません。
- 上記のシステムが作動すると、以下のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。
 - ・ 車体やハンドルに振動を感じる
 - ・ 車両停止後もモーター音が聞こえる
 - ・ ABS の作動時に、ブレーキペダルが小刻みに動く
 - ・ ABS の作動終了後、ブレーキペダルが少し奥に入る

■ EPS モーターの作動音

ハンドル操作を行ったとき、モーターの音（“ウィーン” という音）が聞こえることがあります。異常ではありません。

■ TRC や VSC の自動復帰について

TRC や VSC を作動停止にしたあと、エンジンを停止すると自動的に TRC と VSC は作動可能状態にもどります。

■ TRC OFF の作動制限

TRC のみ作動を停止している場合は、車速が高くなると TRC は作動を再開します。

■ EPS の効果が下がる時

停車中か極低速走行中に長時間ハンドルをまわし続けると、EPS システムのオーバーヒートを避けるため、EPS の効果が下がりハンドルが重く感じられるようになります。その場合は、ハンドル操作を控えるか、停車し、エンジンを停止してください。10 分程度でもとの状態にもどります。

■緊急ブレーキシグナルの作動条件

以下のときシステムが作動します。

- 車速約 55 km/h 以上
- ブレーキペダルが踏み込まれ、車両の減速度から急ブレーキだと判断された

■緊急ブレーキシグナルの解除条件

以下のいずれかのときシステムが解除されます。

- 非常点滅灯を点滅させた
- ブレーキペダルを離した
- 車両の減速度から急ブレーキではないと判断された

警告

■ABS の効果を発揮できないとき

- タイヤのグリップ性能の限界をこえたとき
- 雨でぬれた路面やすべりやすい路面での高速走行時に、ハイドロプレーニング現象が発生したとき

■ABS が作動することで、制動距離が通常よりも長くなる可能性があるとき

ABS は制動距離を短くする装置ではありません。特に次の状況では、常に速度を控えめにし、前車と安全な車間距離をとってください。

- 泥、砂利の道路や積雪路を走行しているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 道路のつなぎ目など、段差をこえたとき
- 凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

■TRC の効果を発揮できないとき

すべりやすい路面では、TRC が作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の方向安定性や駆動力を失うような状況では、特に慎重に運転してください。

■スリップ表示灯が点滅しているときは

VSC が作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無理な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅したら特に慎重に運転してください。

**警告****■ TRC や VSC を OFF にするときは**

TRC や VSC は駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。そのため、必要なとき以外は TRC・VSC を作動停止状態にしないでください。TRC や VSC を作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で、特に慎重な運転を心がけてください。

■ タイヤまたはホイールを交換するときは

4 輪とも指定されたサイズで、同じメーカー・ブランド・トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、推奨された空気圧にしてください。（→P. 374）

異なったタイヤを装着すると、ABS・VSC が正常に作動しません。

タイヤ、またはホイールを交換するときは、レクサス販売店に相談してください。

■ タイヤとサスペンションの取り扱い

問題があるタイヤを使用したり、サスペンションを改造したりすると、運転を補助するシステムに悪影響をおよぼし、システムの故障につながるおそれがあります。

AWD ロックモードスイッチ*

AWD ロックモードは、沼地でスタックした状態から脱出したいときに、4 輪すべてに大きな駆動力を与えることができます。



スイッチを押す

後輪へのトルク配分を最大にします。

もう一度スイッチを押すと、AWD ロックモードは解除され、通常のアクティブトルクコントロール 4WD モードになります。(→P. 210)

知識

■AWD ロックモードについて

- ブレーキを踏むと、ABS と VSC の効果を高めるために自動的に解除されます。
- 車速が約 40km をこえると、自動的に解除されます。

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

ヒルスタートアシストコントロール

急な上り坂やすべりやすい丘面を発進するときに、車両の後退を防止し発進を容易に行うことができます。



車両が完全に停止している状態で、更にブレーキペダルを踏み込むとヒルスタートアシストコントロールは作動します。

“ピッ”とブザーが鳴り、スリップ表示灯が点滅します。

知識

■ ヒルスタートアシストコントロールの作動条件について

- シフトレバーがP以外の位置のとき
- パーキングブレーキがかかっていないとき
- アクセルペダルを踏んでいないとき

■ ヒルスタートアシストコントロールについて

- ヒルスタートアシストコントロールが作動しているときは、ブレーキペダルを踏んでいなくても制動灯が点灯します。
- ヒルスタートアシストコントロールの作動時間は、ブレーキペダルから足を離して約2秒間です。
- ブレーキペダルを踏み込んでもスリップ表示灯が点滅せず、ブザーが鳴らないときは、一度ブレーキペダルを踏む力を弱めてください。(車両が後退しない程度) その後もう一度ブレーキペダルを踏み込んでください。
それでも作動しないときは上記の作動条件を確認してください。

■ヒルスタートアシストコントロール制御ブザーについて

- ヒルスタートアシストコントロールが制御可能状態になると、“ピッ”とブザーが1回鳴ります。
- ヒルスタートアシストコントロールが作動中に以下の状態になると、制御終了状態になり“ピッピッ”とブザーが2回鳴ります。
 - ・ブレーキペダルから足を離して、約2秒間運転操作を行わなかったとき
 - ・シフトレバーをPの位置にしたとき
 - ・パーキングブレーキをかけたとき
 - ・ブレーキペダルを再度踏み込んだとき
 - ・ブレーキペダルから足を離さずに約3分以上経過したとき
- ヒルスタートアシストコントロール以外の警告やお知らせによるブザーが鳴っているとき、制御可能状態と制御終了状態を知らせるブザーは鳴らないときがあります。

■スリップ表示灯が点灯したときは

システムに異常があるおそれがあります。レクサス販売店に連絡してください。

警告

■ヒルスタートアシストコントロールについて

- ヒルスタートアシストコントロールを過信しないでください。急勾配の坂や、凍った路面ではヒルスタートアシストコントロールが効かないことがあります。
- ヒルスタートアシストコントロールはパーキングブレーキのように車を長時間駐車するための機能ではありませんので、同機能を坂道での長時間の駐停車のために使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

プリクラッシュセーフティシステム*

レーダーセンサーにより、前方の車両や障害物との衝突が予測されたときに、警報により運転者に対して回避操作をうながし、衝突の防止に役立ちます。前方の障害物と衝突の可能性が高い、または前方の障害物と衝突が避けられないと検知したとき、自動的にシートベルトやブレーキなどに働きかけ、乗員や車両への衝撃の軽減に寄与します。

■ 衝突警告表示



衝突の可能性が高い場合には、“ピピピ…”とブザー音が鳴り、PCS 警告灯が点滅、衝突警告表示を出し、回避操作をうながします。

■ プリクラッシュシートベルト（フロント席）

プリクラッシュセンサーにより衝突物が検知され、衝突が避けられないと判断したとき、衝突前にシートベルトを巻き取ります。

また、急ブレーキをかけたときや、車がコントロールを失ったときも同様に作動します。（→P. 73）

ただし、VSC システムが作動していないときに、横すべりした場合は作動しません。

■ プリクラッシュブレーキアシスト

衝突の可能性が高いときには、ブレーキペダルが踏まれる強さに反応してブレーキ力を増強します。

ドライバーのブレーキ操作をシステムが判断し、警告灯・警告表示・ブザー音での警報を作動させない場合があります。

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

■ プリクラッシュブレーキ

衝突の可能性が高いときに警告灯、衝突警告表示、ブザー音で警報を行い、さらに衝突が避けられないと判断したときは、ブレーキが自動でかかり、衝突速度を低減します。スイッチを使って、プリクラッシュブレーキの ON/OFF 切りかえができます。

プリクラッシュブレーキの切りかえ



1 プリクラッシュブレーキ OFF

2 プリクラッシュブレーキ ON

OFFにするとPCS警告灯が点灯します。

レーダーセンサー



走行中に路上またはその付近に車や障害物があるかどうかを検知し、その位置や速度、進路から衝突するおそれがあるかどうか判断します。

 知識

■ システムの作動条件

● プリクラッシュシートベルトの作動条件（タイプ A）

- ・ 車速が約 30 km/h 以上
- ・ 緊急ブレーキや車両の横すべりを判断したとき
- ・ フロント席の乗員がシートベルトを着用している

● プリクラッシュシートベルトの作動条件（タイプ B）

- ・ フロント席の乗員がシートベルトを着用している
- ・ 車速が約 5 km/h 以上
- ・ 自車から見た前方の車両や障害物の接近速度が約 30 km/h 以上

● プリクラッシュブレーキアシストの作動条件

- ・ 車速が約 30 km/h 以上
- ・ 自車から見た前方の車両や障害物の接近速度が約 30 km/h 以上
- ・ ブレーキペダルが踏まれているとき

● プリクラッシュブレーキの作動条件

- ・ プリクラッシュブレーキ OFF スイッチが押されていないとき
- ・ 自車速度が約 15 km/h 以上
- ・ 自車から見た前方の車両や障害物との接近速度が約 15 km/h 以上

■衝突の可能性がなくてもシステムが作動するとき

センサーの前方がさえぎられる次のような場合、システムが衝突の可能性があると判断し、作動することがあります。

- カーブまたは右左折時に対向車とすれ違ったとき
- 車両前方の障害物（前方車両・ETC ゲートなど）に急速に接近したとき
- 上り坂を走行中など進行方向の道路上方に構造物（看板・低い天井・蛍光灯など）があるとき
- 幅が狭い、または天井の低い場所（橋・トンネル・高架下など）を通過するとき
- 凹凸のある路面を走行するとき
- 路面上に金属物、段差または突起物があるとき
- 車高が極端に変化しているとき
- センサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの向きがずれているとき
- カーブの入り口の道路脇に障害物（ガードレールなど）があるとき

また、このとき、シートベルトがすばやく引きもどされたり、ブレーキをかけたときに通常よりブレーキが強くかかったりすることがあります。シートベルトが巻き取られた状態でロックした場合は車を安全な場所に停止してシートベルトをはずし、再度装着してください。

■センサーが検知しない場合

パイロンなどのプラスチック類は検知できません。人や動物、二輪車、木、雪の吹きだまりなどは検知しない場合があります。

■ システムの作動しない環境

プリクラッシュセーフティシステムは、想定されていない状況では有効に作動しないこともあります。

- きついカーブや起伏がある場所
- 交差点などで、自車の進行方向に急な飛び出しがある状況
- 自車の進行方向に車の急な割り込みがある状況
- 雨、霧、雪、砂嵐などの悪天候の状況
- VSC が作動していないときに車が横すべりしている状態
- 車両姿勢が極端に変化している状態
- レーダーの軸がずれているとき

■ システムの自動解除

システムの異常が検知された場合やセンサーが障害物を検知できない状況（センサーの汚れなど）では、システムの動作が自動的に解除されます。このような場合には衝突の可能性があってもシステムは有効に作動しません。

■ システムに異常があるときは

警告灯や警告表示が点灯または点滅します。（→P. 322, 326）

**警告****■安全にお使いいただくために**

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

プリクラッシュセーフティシステムを日常のブレーキ操作のかわりには絶対に使用しないでください。本システムはあらゆる状況で衝突を回避または軽減するものではありません。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をするとおもわぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

本システムは衝突の回避を支援、あるいは衝突の被害を軽減することを目的として設計していますが、その効果はさまざまな条件（→ P. 221, 222, 223）によりかわります。そのため、常に同じ性能が発揮できるものではありません。また、プリクラッシュブレーキは運転者の操作状態によっては作動しません。運転者がブレーキペダルを踏んでいた、ハンドルの操作をしていたりすると、その操作状態によっては運転者の回避操作と判断され、自動ブレーキが作動しない場合があります。

■レーダーセンサーの取り扱い

プリクラッシュセーフティシステムが効果を発揮できるように以下のことをお守りください。

- センサーとグリルは常にきれいにしておく。
お手入れをする際は、センサーやグリルを傷付けないよう、やわらかい布を使ってください。
- センサー周辺への強い衝撃を避ける。
センサーの位置がずれると、システムに誤作動または異常が起こるおそれがあります。強い衝撃を受けた際は、必ずレクサス販売店にて点検を受け、調整してもらってください。
- センサーを分解しない。
- センサーやグリル周辺にアクセサリを付けたり、ステッカーを貼ったりしない。
- センサーやグリルを改造したり塗装したりしない。
- センサーは電波法の基準に適合しています。センサーに貼り付けられているラベルはその証明ですのではがさないでください。また、センサーを分解・改造すると罰せられることがあります。

**警告****■ システムの支援内容に関する注意点**

プリクラッシュセーフティシステムは、警報やブレーキ制御により衝突回避支援を行うために、運転者が「見る」、「判断する」、「操作する」過程で、支援を行います。システムの支援には限界があるため、以下の点に注意してください。

● 運転者が見る過程での支援内容

プリクラッシュセーフティシステムは、前方の障害物を可能な範囲で検知するのみであり、わき見やぼんやり運転を許容するシステムでも、視界不良時の運転を補助するシステムでもありません。運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。

● 運転者が判断する過程での支援内容

プリクラッシュセーフティシステムは、検知しうる前方の障害物の情報のみから衝突の可能性を判断するものです。安全の確保の判断は運転者自らが行う必要があります。

● 運転者が操作する過程での支援内容

被害軽減制動制御は、衝突が避けられないと判断した段階で作動するもので、単独で衝突を回避したり、安全に停止させるものではありません。このため、危険性があれば自らが安全を確保する必要があります。

荷物を積むときの注意

安全で快適なドライブをするために、荷物を積むときは以下のことをお守りください。

- できるだけ荷物はラゲージルームに積む。
- 荷物が安全な位置に置かれているか確認する。
- 走行中のバランスを維持するために重さが偏らないように積む。
- 燃費が悪化しないようにするために、不要な荷物は積まないようにする。

警告

■ 積んではいけないもの

次のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

- 燃料が入った容器
- スプレー缶

■ 荷物を積むときは

- 以下の場所には荷物を積まないでください。

お守りいただかないと、ブレーキペダル・アクセルペダルを正しく操作できなかったり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- ・ 運転席足元
- ・ 助手席やリヤ席（荷物を積み重ねる場合）
- ・ トノカバー
- ・ インストルメントパネル
- ・ ダッシュボード

- 車内に積んだ荷物はすべてしっかりと安定させてください。

安定していないと、急ブレーキや事故の際に投げ出され、乗員を傷つけるおそれがあります。

**警告****■ 荷物の重量・荷重のかけ方について**

- 荷物を積み過ぎないでください。
- 荷重を不均等にかけないようにしてください。

これはタイヤに負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

寒冷時の運転

寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいた上で適切に運転してください。

■ 冬の前の準備

- 以下のものはそれぞれ外気温に適したものをお使いください。
 - ・ エンジンオイル
 - ・ 冷却水
 - ・ ウォッシャー液
- バッテリーの点検を受けてください。
- 冬用タイヤ（4 輪）やタイヤチェーン（前部タイヤ用）を使用してください。

タイヤは 4 輪とも同一サイズで同一銘柄のものを、タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを使用してください。
(タイヤについて →P. 271)

■ 運転する前に

状況に応じて以下のことを行ってください。

- ドアやワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かしたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を溶かし、すぐに水分を十分に拭き取ってください。
- フロントウインドウガラス前の外気取り入れ口に雪が積もっているときは、エアコンのファンを正常に作動させるために、雪を取り除いてください。
- 外装ランプ、車両の屋根、タイヤの周辺やブレーキ装置に雪や氷が付いているときは、取り除いてください。
- 乗車する前に靴底についた雪をよく落としてください。

■ 運転するときは

ゆっくりスタートし、車間距離を十分にとって控えめな速度で走行してください。

■ 駐車するときは

パーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。パーキングブレーキはかけずに、シフトレバーをPにイれて駐車し、輪止め※をしてください。

※輪止めは、レクサス販売店で購入することができます。



知識

■ タイヤチェーンについて

取り付け・取りはずし・取り扱い方法については次の指示に従ってください。

- 安全に作業できる場所で行う
- 前2輪に取り付ける
- タイヤチェーンに付属の取扱書に従う
- 取り付け後0.5～1.0 km 走行したら締め直しを行う

■ 寒冷地用ワイパーブレードについて

- 降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムで覆ってあります。レクサス販売店で各車指定のブレードをお求めください。
- 高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスが拭き取りにくくなる場合があります。その場合には速度を落としてください。



警告

■ 冬用タイヤ装着時の警告

以下のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 指定サイズのタイヤを使用する
- 空気圧を推奨値に調整する
- 装着する冬用タイヤの最高許容速度や制限速度をこえる速度で走行しない

警告

■ タイヤチェーン装着時の警告

以下のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、安全に車を運転することができずに、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 50 km/h（一般路）または 30 km/h（氷雪路）をこえる速度で走行しない
- 路面の凹凸や穴を避ける
- 急加速、急ハンドル、急ブレーキやシフト操作による急激なエンジンブレーキの使用は避ける。
- カーブの入り口手前で十分減速して、車のコントロールを失うのを防ぐ

■ 駐車時の警告

パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、必ず輪止めをしてください。輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■ タイヤチェーンの使用について

レクサス純正タイヤチェーンのご使用をおすすめします。

レクサス純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると、車体にあたり、走行のさまたげとなるおそれがあるものもあります。

詳しくはレクサス販売店にご相談ください。

■ フロントウインドウガラスに付いた氷を除去するときは

たたいて割らないでください。

ウインドウガラスの内側（車内側）が割れるおそれがあります。

3-1. 室内灯のつけ方

室内灯一覧	232
・ インテリアランプ	233
・ パーソナルランプ	233

3-2. 収納装備の使い方

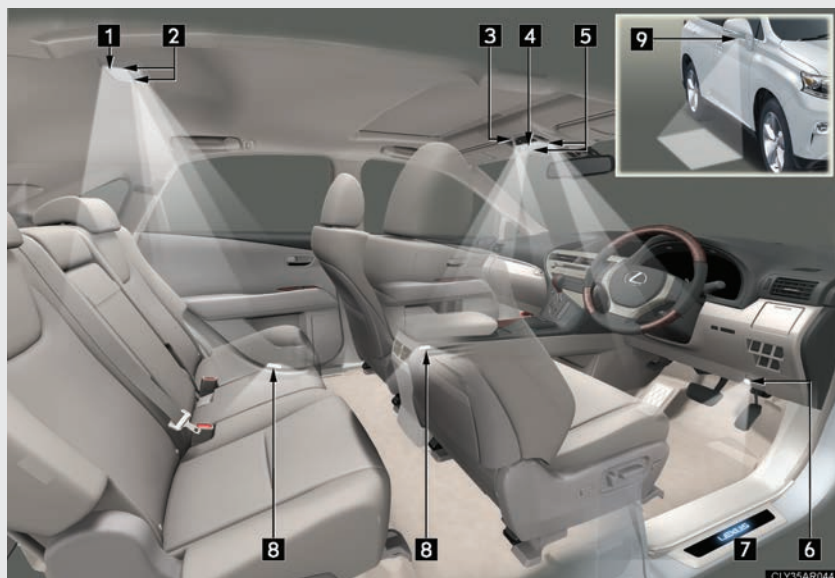
収納装備一覧	235
・ グローブボックス	236
・ ボトルホルダー／ ドアポケット	237
・ カップホルダー	238
・ コンソールボックス	240
・ コインホルダー	242
・ 小物入れ	242
・ アンダートレイ	243

3-3. その他の室内装備の使い方

サンバイザー	244
バニティミラー	245
アクセサリソケット／ アクセサリ コンセント	246
ステアリングヒーター	249
シートヒーター& ベンチレーター	250
アームレスト	252
コートフック	253
アシストグリップ	254
フロアマット	255
ラゲージルーム内装備	257

3-1. 室内灯のつけ方

室内灯一覧

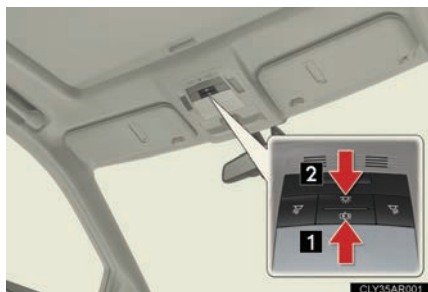


- ❶ リヤインテリアランプ
- ❷ リヤパーソナルランプ (→P. 233)
- ❸ シフト照明 (“エンジン スタート ストップ” スイッチがアクセサリーまたはイグニッション ON モード)
- ❹ フロントインテリアランプ (→P. 233)
- ❺ フロントパーソナルランプ (→P. 233)
- ❻ 足元照明
- ❼ スカッフプレート照明*
- ❽ ドアカーテシランプ
- ❾ ドアミラー照明

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

インテリアランプ、パーソナルランプ

インテリアランプ



- 1 ドアの開閉作動に連動してランプの点灯・消灯を切りかえる
- 2 ランプの点灯・消灯を切りかえる

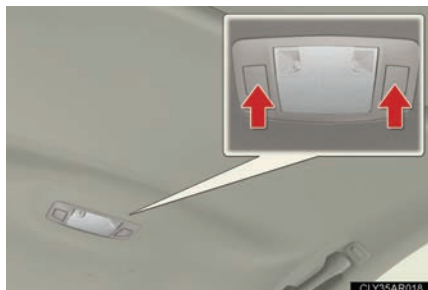
パーソナルランプ

▶ フロント



ランプを点灯・消灯する

▶ リヤ



ランプを点灯・消灯する

 知識

■イルミネーテッドエントリーシステム

電子キーの検知・ドアの施錠／解錠・ドアの開閉・“エンジン スタート ストップ” スイッチのモードにより、各部の照明が自動的に点灯・消灯します。

■バッテリーあがりを防ぐために

“エンジン スタート ストップ” スイッチを OFF にしたときに、以下の室内灯が点灯したままの場合、約 20 分後に自動消灯します。

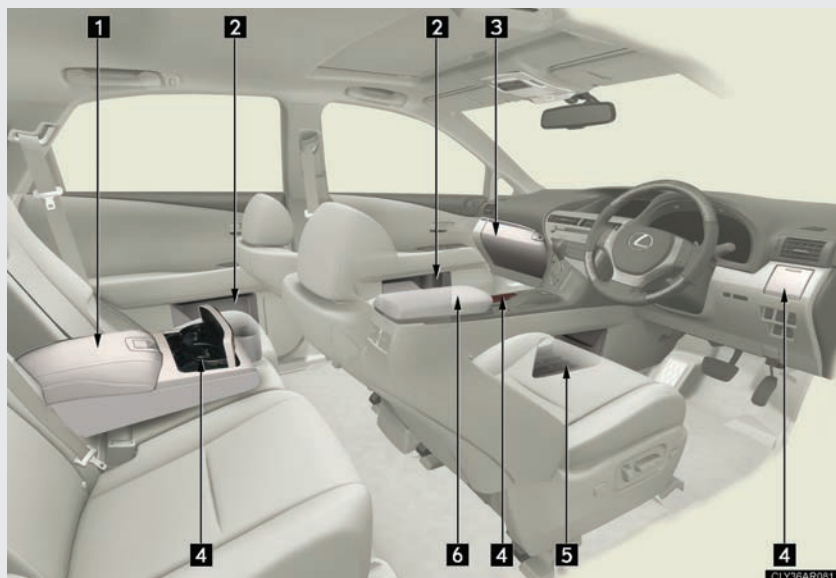
- パーソナルランプ
- インテリアランプ
- ドアカーテシランプ
- スカッフプレート照明*
- 足元照明

■設定可能な機能

室内灯の消灯までの時間などの設定を変更できます。(カスタマイズ一覧 →P. 377)

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

収納装備一覧



- 1 小物入れ*
- 2 ボトルホルダー／ドアポケット
- 3 グローブボックス
- 4 カップホルダー
- 5 アンダートレイ
- 6 コンソールボックス／コインホルダー

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

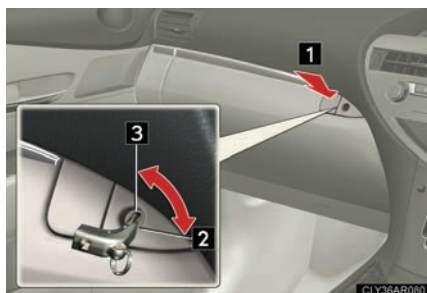
！ 警告**■ 収納装備に放置してはいけないもの**

メガネ、ライターやスプレー缶を収納装備内に放置したままにしないでください。
放置したままにしていると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

- 室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れを起こす
- 室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして火災につながる

グローブボックス

グローブボックスはロック解除ボタンを押して、開けたり、メカニカルキーを使って施錠・解錠できます。



- 1 開ける（ボタンを押す）
- 2 施錠
- 3 解錠

知識**■ パワーバックドアメインスイッチ**

グローブボックス内に、パワーバックドアメインスイッチがあります。（→P. 51）

！ 警告**■ 走行中の警告**

グローブボックスを必ず閉じてください。
急ブレーキや急旋回時などに、開いたふたが体に当たったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

ボトルホルダー／ドアポケット

ボトルホルダー／ドアポケット

▶ フロント



フロントドアのドアポケットは開閉することができます。

▶ リヤ

 知識

■ ボトルホルダーについて

- ペットボトルのフタを必ず閉めてから収納してください。
- ペットボトルの大きさ・形によっては収納できないことがあります。

ボトルホルダー／ドアポケット、カップホルダー

警告

■ 走行中の警告（フロントドアポケット）

ドアポケットを必ず閉じてください。

急ブレーキ時などに、開いたドアポケットに体があたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■ 収納してはいけないもの

ボトルホルダーには、ジュースなどが入っている紙コップ・ガラス製のコップなどを収納しないでください。ジュースなどがこぼれたり、ガラス製品が割れたりするおそれがあります。

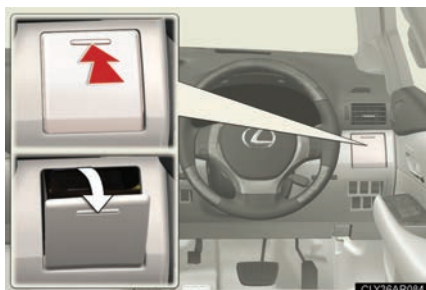
カップホルダー

▶ フロント（センターコンソール）



カップホルダーのふたの左側を押し
て開ける

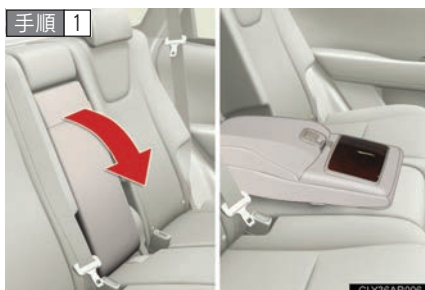
▶ フロント（インストルメントパネル）



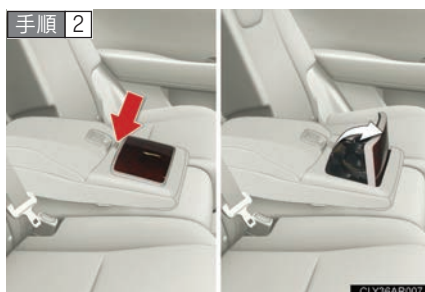
カップホルダーのふたの上側を押し
て開ける

カップホルダー

▶ リヤ



アームレストを手前に倒す



リヤアームレストのボタンを押して開ける

知識

■ フロントカップホルダー（センターコンソール）の仕切り部について



カップホルダー内を清掃するために、仕切り部を取りはずすことができます。

警告**■ 収納してはいけない物**

カップホルダーにはカップや缶以外のものを置かないでください。また、フタを閉じているときでも、ものを収納しないでください。

急ブレーキや事故により収納していたものが飛び出し、けがをするおそれがあります。

■ やけどを防ぐために

温かい飲み物にはフタを閉めておいてください。

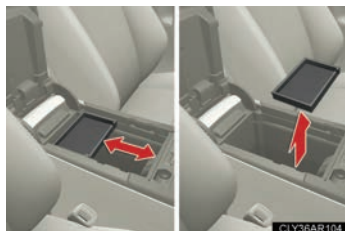
■ 使わないときは

フタを必ず閉じてください。

走行中の思わぬ事故や急停止により、けがをするおそれがあります。

コンソールボックス

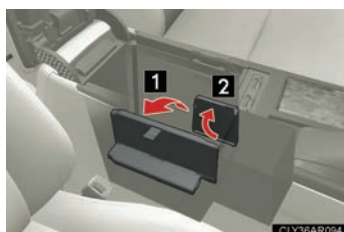
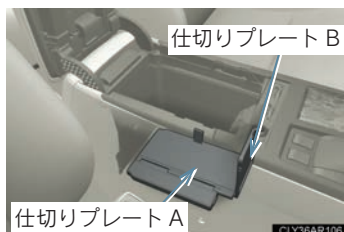
ノブを握ってロックを解除し、アームレストを持ち上げて開く

知識**■ コンソールボックス内のトレイについて**

トレイは前後ヘスライド、または取りはずすことができます。

コンソールボックス

■ コンソールボックス内の収納スペースについて



コンソールボックスには仕切りプレートがついています。

仕切りプレート A は取りはずすことができます。

仕切りプレートを開いて、収納スペースを広げることができます。

- 1 仕切りプレート A のつまみを上に引く
- 2 仕切りプレート B をイラストのように開く

⚠ 警告

■ 走行中の警告

コンソールボックスを必ず閉じてください。
急ブレーキ時などに、開いたふたが体に当たったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■ トレイについて

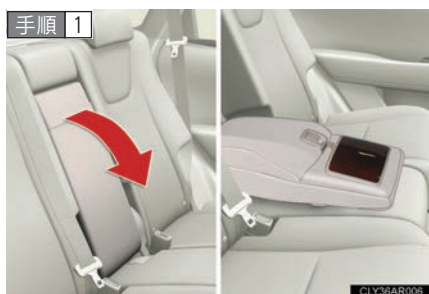
トレイの高さ以上に物を入れないでください。ふたの開閉の妨げになるおそれがあります。

コインホルダー

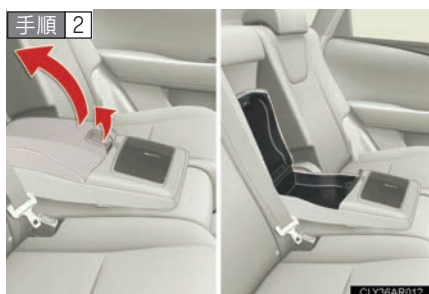


ノブを握ってロックを解除し、スライドさせる

小物入れ*



アームレストを手前に倒す



レバーを引き上げてロックを解除し、ふたを持ち上げて開く

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

小物入れ、アンダートレイ

警告**■ 走行中の警告**

小物入れを必ず閉じてください。

急ブレーキ時などに、開いたふたが体に当たったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

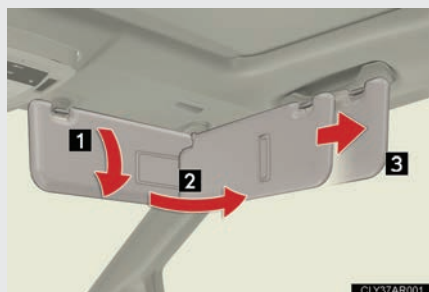
アンダートレイ**警告****■ 走行中の警告**

以下のことをお守りください。お守りいただかないと、急ブレーキ時や急旋回時などに、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 転がりやすいものを収納しないでください
- トレイの側面よりも高く積み上げて収納しないでください
- トレイの幅よりも大きなものを収納しないでください

3-3. その他の室内装備の使い方

サンバイザー



- 1 前方をさえぎるには、バイザーを下ろす
- 2 側方をさえぎるには、バイザーを下ろした状態でフックからはずし、横へまわす
- 3 エクステンダーを使用するには、バイザーを横にした状態からうしろへ引く

3-3. その他の室内装備の使い方

バニティミラー



カバーをスライドして開ける

カバーを開けるとランプが点灯します。

知識

■ バッテリーあがりを防ぐために

“エンジン スタート ストップ” スイッチを OFF にしたときに、ランプが点灯したままの場合、約 20 分後に自動消灯します。

注意

■ 使用しないときは

バニティミラーを必ず閉じてください。

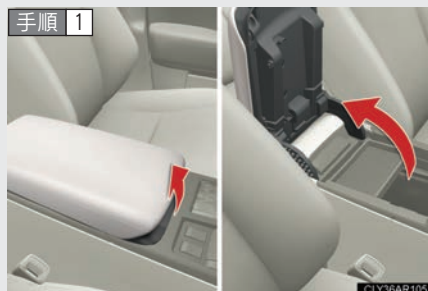
3-3. その他の室内装備の使い方

アクセサリースOCKET/アクセサリーコンセント

次の電気製品を使うときの電源としてお使いください。

12 V: DC12 Vで最大電流 10 A(最大消費電力120 W)以下の電気製品
AC100 V: AC100 Vで最大消費電力 100 W 以下の電気製品

▶ アクセサリースOCKET (コンソールボックス)



コンソールボックスのフタを開く



アクセサリースOCKETのカバーを開ける

▶ アクセサリースOCKET (アンダートレイ)



アクセサリースOCKETのカバーを開ける

▶ アクセサリーソケット（ラゲージルーム）



アクセサリーソケットのカバーを開ける

▶ アクセサリーコンセント*



アクセサリーコンセントのカバーを開ける

□ 知識

■ 使用条件

アクセサリーソケット：“エンジン スタート ストップ” スイッチがアクセサリーまたはイグニッション ON モードのとき

アクセサリーコンセント：“エンジン スタート ストップ” スイッチがイグニッション ON モードのとき

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

 注意

■ ショートや故障を防ぐために

ソケットに異物が入ったり、飲料水などがこぼれたりしないように、使用しないときは、ふたを閉めておいてください。

■ ヒューズが切れるのを防ぐために

アクセサリースOCKET：DC12 V で最大電流 10 A（最大消費電力 120 W）以上の電気製品を使用しないでください。

アクセサリーコンセント：AC100 V で最大消費電力 100 W 以上の電気製品を使用しないでください。消費電力が 100 W をこえる電気製品を使用すると、保護回路が作動して電源を遮断します。

■ バッテリーあがりを防止するために

エンジンを停止した状態でアクセサリースOCKET／アクセサリーコンセントを長時間使用しないでください。

■ 正しく作動しないおそれがある電気製品（アクセサリーコンセント）

次のような AC100 V の電気製品は、消費電力が 100 W 以下の場合でも正常に作動しないおそれがあります。

- 起動時のピーク電力が高い電気製品
- 精密なデータを処理する計測機器
- 電源周波数の切りかえ（50/60 Hz）のある機器
- 極めて安定した電力供給を必要とするその他の電気製品

3-3. その他の室内装備の使い方

ステアリングヒーター*

ハンドル左右の本革部分をあたためることができます。



システムの ON/OFF を切りかえる

作動中はインジケータが点灯します。

知識

■ 作動条件

“エンジン スタート ストップ” スイッチがイグニッション ON モードのとき

■ バッテリーあがりを防止するために

約 30 分後に自動で OFF になります。

■ インジケータが点灯しない場合

スイッチを押してもインジケータが点灯しない場合はシステムの異常が考えられます。レクサス販売店で点検を受けてください。

警告

■ やけどについて

低温やけどを負うおそれがあるため、以下の方が触れないようにご注意ください。

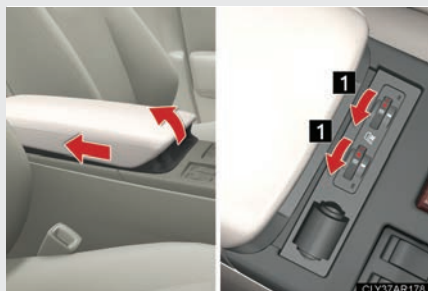
- 乳幼児、お子さま、お年寄り、病人、体の不自由な方
- 皮膚の弱い方
- 疲労の激しい方
- 深酒や眠気をさそう薬（睡眠薬、風邪薬など）を服用された方

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

シートヒーター & ベンチレーター*

シートを暖めたり、シートから風を出して通気を良くできます。

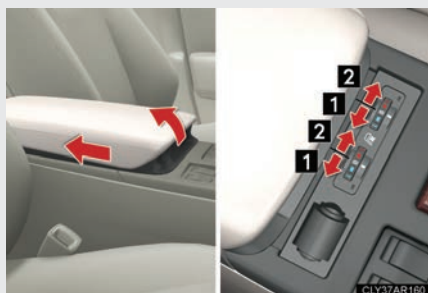
■ シートヒーター



1 シートを暖める

インジケーターが点灯します。
大きい数字に合わせるほど高温になります。

■ シートヒーター & ベンチレーター



1 シートを暖める

インジケーターが点灯します。
大きい数字に合わせるほど高温になります。

2 シートから風を出す

インジケーターが点灯します。
大きい数字に合わせるほど風量が強くなります。



知識

■ 作動条件

“エンジン スタート ストップ” スイッチがイグニッション ON モードのとき

■ 使用しないときは

ダイヤルを 0 に合わせてください。インジケーターが消灯します。

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

 警告**■ やけどについて**

- 低温やけどを負うおそれがあるため、次の方は特に注意してください。
 - ・ 乳幼児・お子さま・年寄り・病人・体の不自由な方
 - ・ 皮膚の弱い方
 - ・ 疲労の激しい方
 - ・ 深酒や眠気をさそう薬（睡眠薬・風邪薬など）を服用された方
- シートに毛布・クッション等を使用しないでください。
シートヒーターの使用により保温性が高まり、異常過熱の原因になります。

 注意**■ シートヒーター＆ベンチレーターの損傷を防ぐために**

凹凸のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針などの鋭利なものを突き刺したりしないでください。

■ バッテリーあがりを防止するために

エンジンが停止しているときは、スイッチを切ってください。

3-3. その他の室内装備の使い方

アームレスト



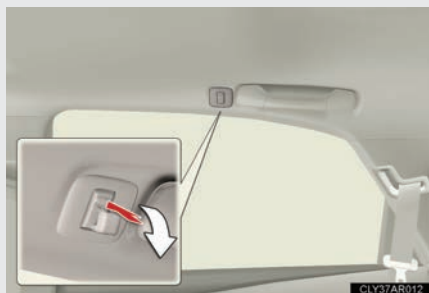
手前に倒して使用します。

注意

- アームレストの破損を防ぐために
過度の負荷をかけないでください。

3-3. その他の室内装備の使い方

コートフック



使用するときには、コートフックを
押します。

警告

■ コートフックへかけてはいけないもの

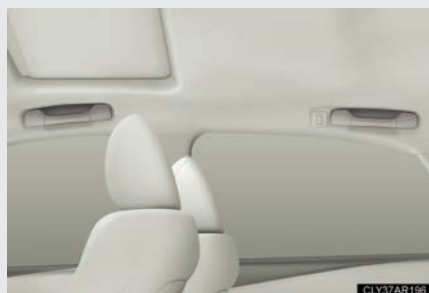
ハンガーや他の硬いもの、鋭利なものをかけないでください。

SRS カーテンシールドエアバッグがふくらんだときにそれらのものが飛び、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

3-3. その他の室内装備の使い方

アシストグリップ

天井に取り付けられているアシストグリップは、走行中にシートに座っている状態で体を支えるときにお使いください。



警告

■ アシストグリップについて

アシストグリップは、乗降時やシートから立ち上がるときなどに使用しないでください。

注意

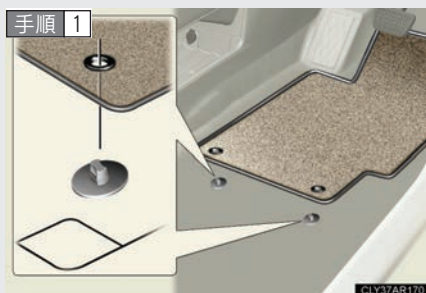
■ 破損を防ぐために

アシストグリップに重いものをかけたり、過度の負荷をかけないでください。

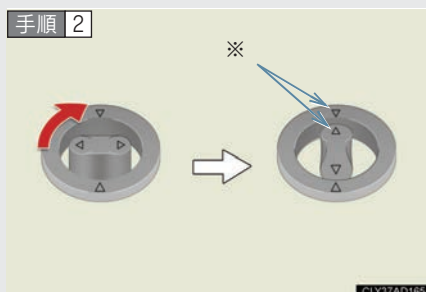
3-3. その他の室内装備の使い方

フロアマット

お車（年式）専用のフロアマットを、フロアカーペットの上にしっかりと固定してお使いください。



固定フック（クリップ）にフロアマット取り付け穴をはめ込む



固定フック（クリップ）上部のレバーをまわして、フロアマットを固定する

※△マークを必ず合わせてください。

固定フック（クリップ）の形状はイラストと異なる場合があります。

警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、重大な事故につながるおそれがあります。

■運転席にフロアマットを敷くときは

- レクサス純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない
- 運転席専用のフロアマットを使用する
- 固定のフック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定する
- 他のフロアマット類と重ねて使用しない
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない

■運転する前に



- フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的に確認し、特に洗車後は必ず確認を行う
- エンジン停止およびシフトレバーが P の状態で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認する

3-3. その他の室内装備の使い方 ラゲージルーム内装備

■ デッキフック

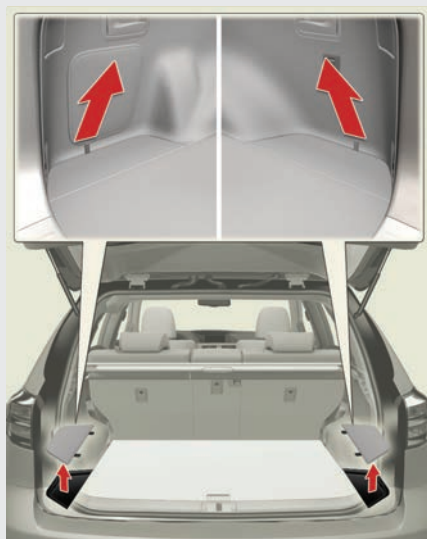


フックをを起こして使用してください。

フックを使って荷物を固定することができます。

■ デッキアンダートレイ

▶ デッキサイド



ストラップを上へ引き上げ、カバーをはずします。

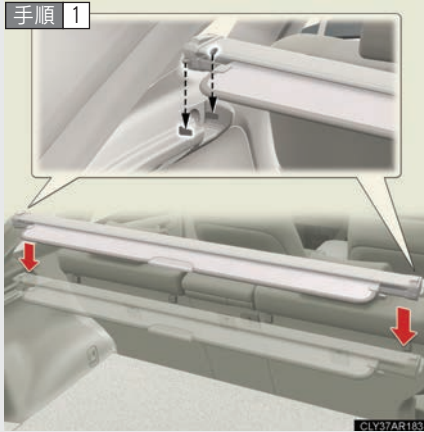
▶ フロア



レバーを上へ引き上げ、デッキ
ボードを持ち上げます。

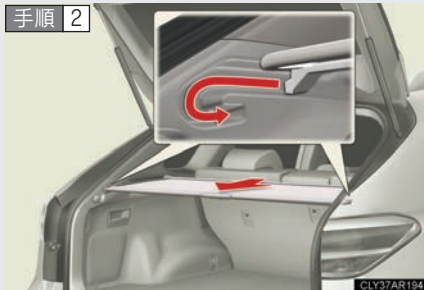
■ トノカバー

手順 1



両側のツメがしっかりとかかるまで上から押し込む。

手順 2

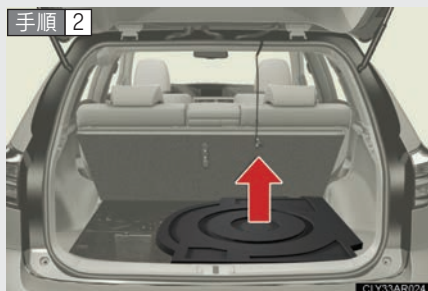


カバー部を手前に引き、左右のホルダーに取り付ける。

■ 三角表示板収納スペース

手順 1 デッキボードを持ち上げる。(→P. 343)

手順 2



応急用タイヤカバーを取りはずす。

手順 3

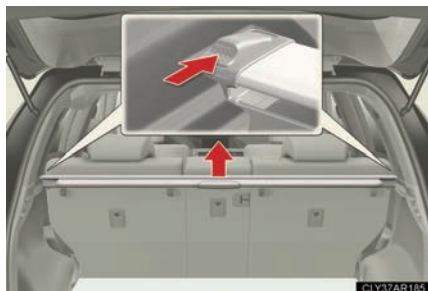


三角表示板を収納することができます。

(大きさ、形によっては収納できないことがあります。)

トノカバーを取りはずす

▶ フロントトノカバー



ボタンを押しながらトノカバーを持ち上げます。

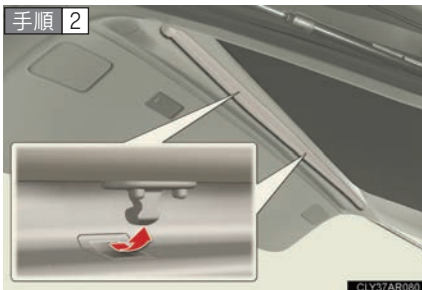
▶ リヤトノカバー

手順 1



リヤトノカバー外側の取り付け部をはずします。

手順 2



リヤトノカバー内側の取り付け部をはずします。

 知識

■ リヤトノカバーを取りつけるときは

- 取り付け位置を確認しながら、奥までしっかり押しこんでください。
- 取り付け後は、リヤトノカバーが確実に固定されていることを確認してください。

 警告

■ **デッキフックを使用しないときは**

必ずもとの位置にもどしておいてください。

■ **トノカバーについて**

トノカバーの上には、お子さまが乗ったりしないようにしてください。トノカバーが破損しお子さまが重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

4-1. お手入れのしかた

外装の手入れ	264
内装の手入れ	268
タイヤについて	271

4-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット	274
ガレージジャッキ	276
エンジンルームカバー	278
電球（バルブ）の交換	280
ヒューズの点検、交換	294
電子キーの電池交換	303
ウォッシュャー液の補給	305

外装の手入れ

お手入れは、次の項目を実施ください。

- 水を十分かけながら、車体・足まわり・下まわりの順番に上から下へ汚れを洗い落とす
- 車体はスポンジやセーム皮のような柔らかいもので洗う
- 汚れがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す
- 水を拭き取る
- 水のはじきが悪くなったときは、ワックスがけを行う

ボデーの表面の汚れを落としても水が玉状にならないときは、車体の温度が冷えているときにワックスをかける。(およそ体温以下を目安としてください。)

なお、ボデーコート、ホイールコート、ガラスコートなどレクサスケミカル商品を施工された場合は、お手入れ方法が異なります。詳しくはレクサス販売店にお問い合わせください。

知識

■ 自動洗車機を使うときは

- 洗車する前に、ミラーを格納してください。(→P. 80)
- 洗車する前に、ワイパースイッチを OFF にしてください。(→P. 187)
- 洗車する前に、パワーバックドアメインスイッチを OFF にしてください。(→P. 51)
- ブラシで車体に傷がつき、塗装を損なうことがあります。
- 洗車機によっては、リヤスポイラーが引っかかり洗車できない場合や、傷付いたり破損したりするおそれがあります。

■ 高圧洗車機を使うときは

- 室内に水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をドアガラスやドア枠付近に近づけすぎないでください。
- 洗車の前に給油口がしっかり閉まっていることを確認してください。

■ アルミホイール

- 中性洗剤を使用し、早めによごれを落としてください。研磨剤の入った洗剤や硬いブラシは塗装を傷めますので使用しないでください。
- 夏場の長距離走行後などでホイールが熱いときは、洗剤は使用しないでください。
- 洗剤を使用した後は早めに十分洗い流してください。

■ バンパー

研磨剤入りの洗剤でこすらないようにしてください。

■ レインクリアリングミラーの親水効果回復作業について*

鏡面の親水効果は、太陽光をあてることにより徐々に回復します（→P. 82）が、早く回復させたいときは次の作業を行ってください。

- 手順 1 鏡面に水をかけ、泥汚れなどを洗い流す
- 手順 2 水を含ませたきれいなやわらかい布などで汚れを落とす
- 手順 3 ガラスクリーナーか中性洗剤で洗浄後、十分な水で洗剤を洗い流す
- 手順 4 きれいなやわらかい布などで鏡面に付いた水を拭き取る
- 手順 5 屋外に車両を駐車し、鏡面に太陽光を5時間程度あてる
（汚れの量や種類により、回復時間は異なります）

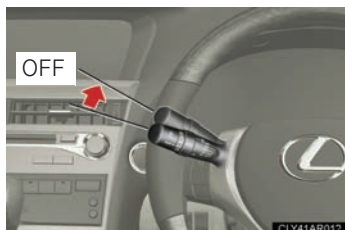
* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

警告

■ **洗車をするときは**

エンジンルーム内に水をかけないでください。
電気部品などに水がかかると車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ **フロントウィンドウガラスを清掃するときは**



ワイパースイッチを OFF にしてください。
AUTO モードになっていると、次のようなときにワイパーが不意に作動し、指などを挟み重大な傷害を受けたり、ワイパーブレードなどを損傷するおそれがあります。

- 雨滴センサー上部のフロントウィンドウガラスに手でふれたとき
- 水分を含んだ布などを雨滴センサーに近付けたとき
- フロントウィンドウガラスに衝撃を与えたとき
- 車内から雨滴センサー本体にふれるなどして衝撃を与えたとき

■ **排気管について**

排気管は排気ガスにより高温になります。洗車などでふれる場合は、十分に排気管が冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

 注意

■ 塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために

- 次のような場合はただちに洗車してください。
 - ・ 海岸地帯を走行したあと
 - ・ 凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
 - ・ コールタール、花粉、樹液、鳥のふん、虫の死がいなどが付着したとき
 - ・ ばい煙、油煙、粉じん、鉄粉、化学物質などの降下が多い場所を走行したあと
 - ・ ほこり、泥などで激しく汚れたとき
 - ・ 塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき
- 塗装に傷がついた場合は、早めに補修してください。
- ホイール保管時は、腐食を防ぐためによごれを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

■ ランプの清掃

- 注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。ランプを損傷させるおそれがあります。
- ランプにワックスがけを行わないでください。レンズを損傷するおそれがあります。

■ ワイパーアームの損傷を防ぐために

ワイパーアームを立てるときは、必ず運転席側を先に立ててから助手席側を立ててください。また、もとにもどすときは、必ず助手席側から先にもどしてください。

■ 自動洗車機を使用するときは

ワイパースイッチを OFF にしてください。
AUTO モードになっていると、不意にワイパーが作動してワイパーブレードなどを損傷するおそれがあります。

内装の手入れ

お手入れは、次の要領で実施ください。

■ 車内の手入れ

掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布で拭き取る

■ 本革部分の手入れ

- 掃除機などでほこりや砂を取り除く
- 薄めた洗剤を柔らかい布に含ませ、汚れを拭き取る
ウール用の中性洗剤を約 5% の水溶液まで薄めたものを使用してください。
- 真水をひたした布を固くしぼり、表面に残った洗剤を拭き取る
- 乾いたやわらかい布で表面の水分を拭き取り、風通しのよい日陰で乾燥させる

■ 合成皮革部分の手入れ

- 掃除機をかけて、大まかな汚れを取る
- スポンジや柔らかい布を使用して合成皮革部分に刺激の少ない洗剤を付ける
- 数分間そのままにしておいてから汚れを落とし、固く絞ったきれいな布で洗剤を拭き取る



知識

■ 本革部分のお手入れの目安

品質を長く保つため、年に 2 回程度の定期的なお手入れをおすすめします。

■ カーペットの洗浄

カーペットは常に乾いた状態を保つことをおすすめします。洗浄には、市販の泡タイプクリーナーがご利用になれます。

スポンジまたはブラシを使用して泡をカーペットに広げ、円を描くように塗り込んでください。直接水をかけたりせず、拭き取ってから乾燥させてください。

■ シートベルト

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布かスポンジを使って洗ってください。シートベルトの擦り切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。(→P. 72)

 警告**■ 車両への水の浸入**

- 車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。
- SRS エアバッグの構成部品や配線などをぬらさないでください。(→P. 110)
電気の不具合により、エアバッグが作動したり、正常に機能しなくなり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 内装の手入れをするときは（特にインストルメントパネル）

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害もしくは死亡におよぶおそれがあります。

 注意

■ 清掃するとき使用する溶剤について

- 変色・しみ・塗装はがれの原因になるため、次の溶剤は使用しないでください。
 - ・ シート以外の部分：ベンジン・ガソリンなどの有機溶剤や酸性またはアルカリ性の溶剤・染色剤・漂白剤
 - ・ シート部分：シンナー・ベンジン・アルコール・その他の揮発性の溶剤
- 艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

■ 革の傷みをさけるために

皮革の表面の劣化や損傷を避けるために次の警告をお守りください。

- 革に付着したほこりや砂はすぐに取り除く
- 直射日光に長時間さらさないようにする。特に夏場は日陰で車を保管する。
- ビニール製・プラスチック製・ワックス含有のものは、車内が高温になると革に張り付くおそれがあるため、革張りの上に置かない

■ 床に水がかかると

水で洗わないでください。オーディオやフロアカーペット下にある電気部品に水がかかると、車の故障の原因となったり、ボデーが錆びるおそれがあります。

■ リヤウインドウガラスの内側を掃除するときは

- 熱線やアンテナを損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線やアンテナにそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。
- 熱線やアンテナを引っかいたり、損傷させないように気を付けてください。

4-1. お手入れのしかた タイヤについて

タイヤの点検は、法律で義務付けられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。

タイヤの摩耗を均等にし寿命をのばすために、タイヤローテーション（タイヤ位置交換）を 5,000 km ごとに行ってください。

■ タイヤの点検項目

タイヤは次の項目を点検してください。

点検方法は別冊「メンテナンスノート」をお読みください。

● タイヤ空気圧

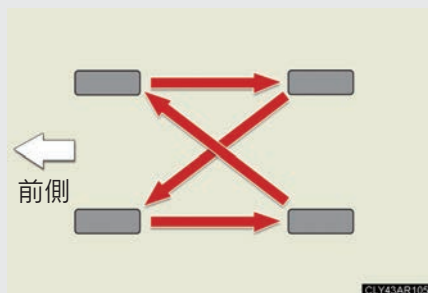
空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに行ってください。

● タイヤの亀裂・損傷の有無

● タイヤの溝の深さ

● タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無

■ タイヤローテーションのしかた



図で示す順にタイヤをローテーションしてください。

タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命を延ばすために、レクサスは定期点検ごとのタイヤローテーションをおすすめします。

 知識

■ タイヤ空気圧の数値



前輪：220 kPa (2.2 kg/cm²)

後輪：220 kPa (2.2 kg/cm²)

応急用タイヤ：420 kPa (4.2 kg/cm²)

タイヤの指定空気圧は、運転席側のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。

■ タイヤ関連の部品を交換するとき

タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットを交換するときは、レクサス販売店にご相談ください。

 警告

■ 点検、交換時の警告

必ず次のことをお守りください。

守らないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- タイヤはすべて同一メーカー・同一銘柄・同トレッドパターンで、摩耗差のないタイヤを使用する
- メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しない
- ラジアルタイヤ・バイアスベルテッドタイヤ・バイアスプライタイヤを混在使用しない
- サマータイヤ・オールシーズンタイヤ・冬用タイヤを混在使用しない

 警告**■ 異常があるタイヤの使用禁止**

異常があるタイヤをそのまま装着していると、走行時にハンドルを取られたり、異常な振動を感じることがあります。また、次のような事態になり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 破裂などの修理できない損傷をあたえる
- 車が横すべりする
- 車の本来の性能（燃費、車両の安定性、制動距離など）が発揮されない

■ タイヤサイズの変更について

新車時に装着されているタイヤサイズによってタイヤ切れ角の設定が異なるため、装着されているタイヤサイズ以外のタイヤを装着しないでください。サイズの異なるタイヤやホイールを装着した場合に車両の安定性が十分に確保できなくなる恐れがあり危険です。

 注意**■ 走行中に空気漏れが起こったら**

走行を続けしないでください。
タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

■ 悪路走行に対する注意

凹凸のある路上を走行するときは注意してください。
タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。また、タイヤ、ホイール、車体などの部品も損傷するおそれがあります。

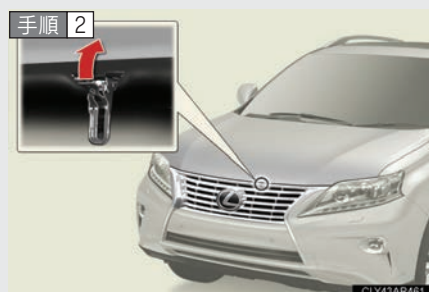
4-2. 簡単な点検・部品交換 ボンネット

車内からロックを解除して、ボンネットを開けます。



ボンネット解除レバーを引く。

ボンネットが少し浮き上がります。



レバーを引き上げてボンネットを開ける。

警告**■ 走行前の確認**

ボンネットがしっかりロックされていることを確認ください。

ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ エンジンルームを点検したあとは

エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認ください。

点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れてしまうと、故障の原因となったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ ボンネットを閉めるときは

ボンネットを閉めるときは、手などを挟まないように注意してください。

重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

注意**■ ボンネットやダンパーステーへの損傷を防ぐために**

- ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。
ボンネットがへこむおそれがあります。
- ボンネットにはボンネットを支えるためのダンパーステーが取り付けられています。ダンパーステーの損傷や作動不良を防ぐため次のことをお守りください。
 - ・ ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステーのロッド部（棒部）に付着させない
 - ・ ロッド部を軍手などで触れない
 - ・ ボンネットにレクサス純正品以外のアクセサリ用品を付けない
 - ・ ステーに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない

ガレージジャッキ

ガレージジャッキを使用してお車を持ち上げるときは、正しい位置にガレージジャッキを取り付けてください。

正しい位置に取り付けないと、車両が損傷したり、けがをするおそれがあります。

■ フロント側



■ リヤ側



警告

■車両を持ち上げるときには

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



●図のようなガレージジャッキを使用して車両を持ち上げてください。

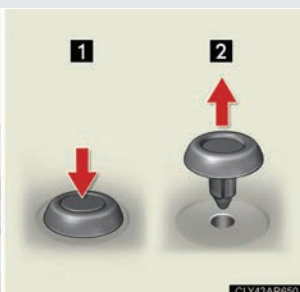
- ガレージジャッキを使用するときは、必ずガレージジャッキ付属の取扱説明書を十分に確認の上、使用してください。
- 車に搭載されているジャッキを使用しないでください。
車両が落下するおそれがあります。
- ガレージジャッキのみで支えられた車両の下に体の一部を入れたり、もぐり込んだりしないでください。
- ガレージジャッキおよび、自動車用ジャッキスタンドをしっかりとした傾きのない平坦な床面で使用してください。
- 車両がジャッキアップされた状態でエンジンを始動しない。
- 平らで硬い地面に車両を停車させ、しっかりとパーキングブレーキをかけ、シフトレバーをPにしてください。
- ガレージジャッキは、必ずジャッキポイントに正しく取り付けてください。
ガレージジャッキを正しくセットせずに車両を持ち上げると、車両が損傷します。
また、車両がガレージジャッキから落下するおそれがあります。
- 車内に乗員がいるときは車両を持ち上げないでください。
- 車両を持ち上げるときは、ガレージジャッキの上下にものを置かないでください。

4-2. 簡単な点検・部品交換 エンジンルームカバー

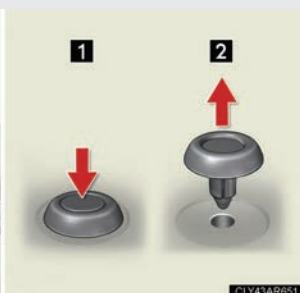
ヒューズや電球（バルブ）の点検・交換などをおこなうときに取りはずします。

■ エンジンルームカバーの取りはずし方

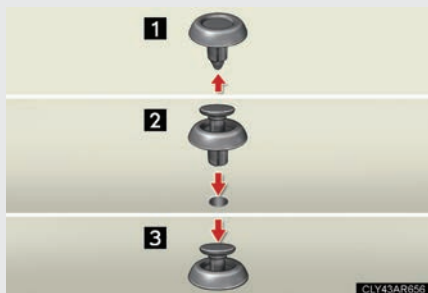
▶ 外側



▶ 前側



▶ クリップの取り付け方



■ バッテリーカバーの取りはずし方



カバーを上にあげて取りはずす。

⚠ 警告

■ けがを防ぐために

エンジンルームカバーを取りはずす前に、“エンジン スタート ストップ” スイッチを OFF にしてください。熱くなった部品でやけどをしたり、作動中の部品に巻き込まれて重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■ カバーを取り付けたあとは

もとの場所に確実に取り付けられていることを確認ください。

4-2. 簡単な点検・部品交換

電球（バルブ）の交換

次に記載する電球は、ご自身で交換できます。詳細が不明な場合やその他の電球交換については、レクサス販売店にご相談ください。

■ 電球の用意

切れた電球の W 数を確認してください。（→P. 375）

■ エンジンルームカバーの取りはずし方

→P. 278

■ パワーバックドアメインスイッチを OFF にする

→P. 51

■ フロントのバルブ位置

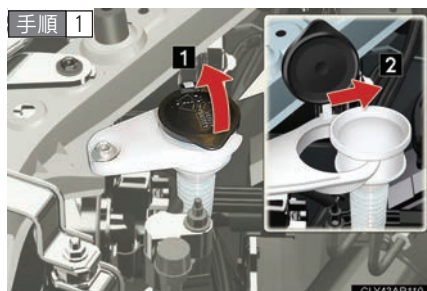


■ リヤのバルブ位置



電球交換のしかた

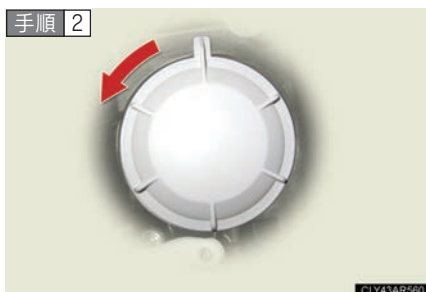
■ ヘッドランプ（ハイビーム）



右側のみ

- 1 キャップを開ける。
- 2 補給口をずらす。

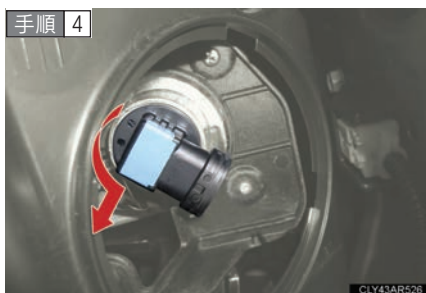
* : グレードなどで異なる装備やオプション装備



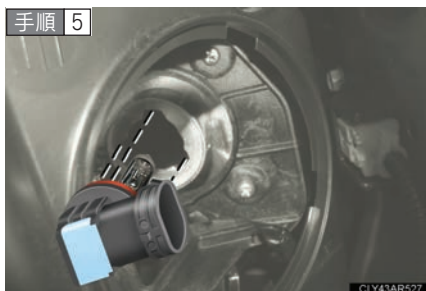
カバーを取りはずす。



コネクターを取りはずす。

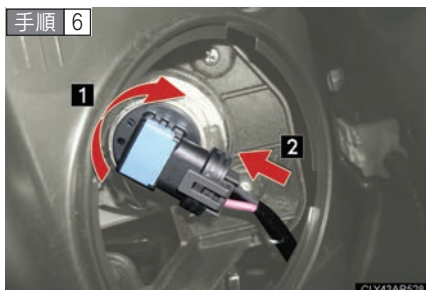


電球を取りはずす。



電球を交換し、取り付ける。

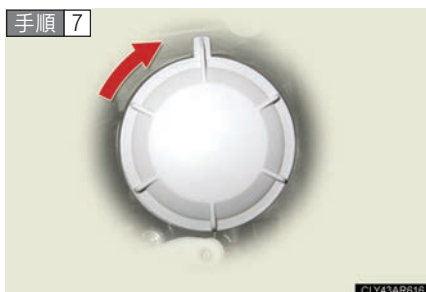
取り付け部と電球のツメ（3か所）を合わせて挿し込みます。



1 電球をまわして固定する。

2 コネクターを取り付ける。

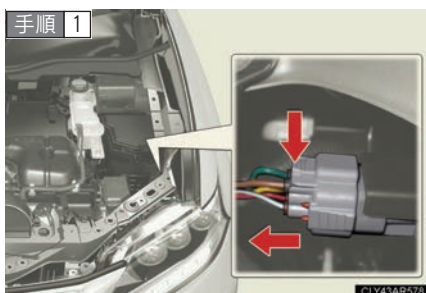
電球を軽くゆさぶってぐらつきがないことを確認し、いったんヘッドランプのハイビームを点灯させ、電球の取り付け部からランプの光がもれていないことを目視確認してください。



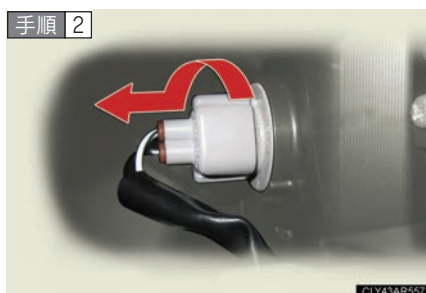
カバーを取り付ける。

手順 8 右側を交換したときは、手順 1 と逆の手順で取り付ける。

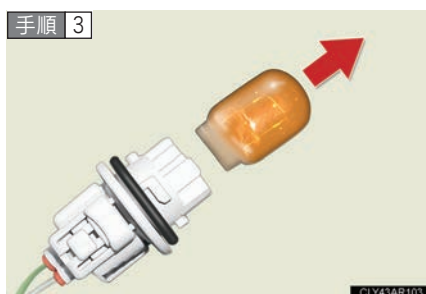
■ フロント方向指示灯／非常点滅灯（左側）



コネクターを取りはずす。



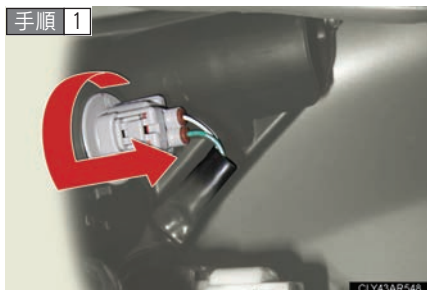
ソケットを取りはずす。



電球を取りはずす。

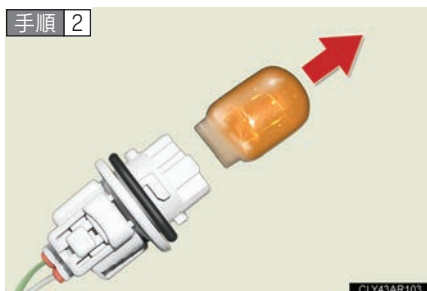
■ フロント方向指示灯／非常点滅灯（右側）

手順 1



ソケットを取りはずす。

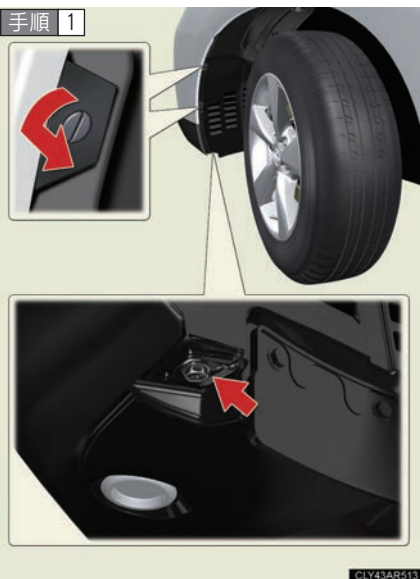
手順 2



電球を取りはずす。

■ フロントフォグランプ

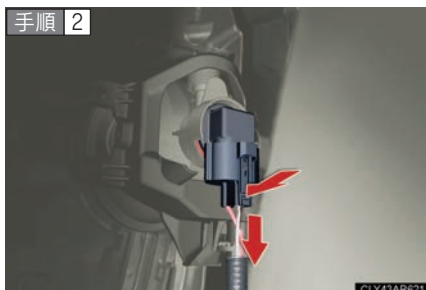
手順 1



交換するランプの反対側へハンドルをまわし、タイヤの向きをかえる。

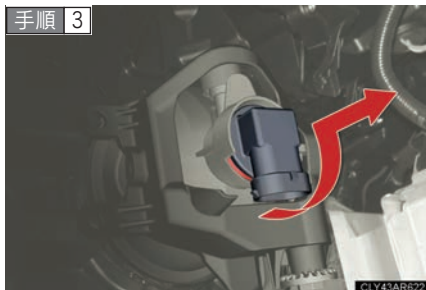
フェンダーライナー固定ボルトとクリップをはずし、フェンダーライナーをめくる。

手順 2

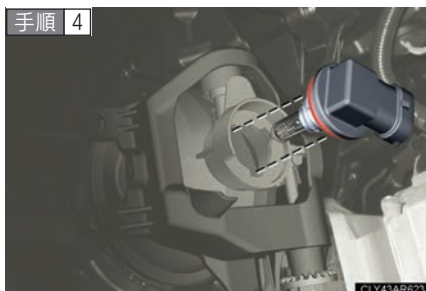


コネクターを取りはずす。

手順 3

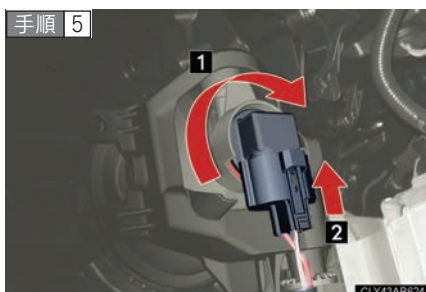


電球を取りはずす。



電球を交換し、取り付ける。

取り付け部と電球のツメ（3か所）を合わせて挿し込みます。



1 電球をまわして固定する。

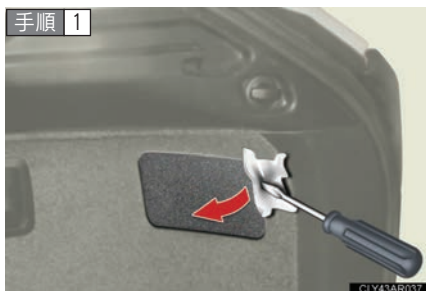
2 コネクターを取り付ける。

電球を軽くゆさぶってぐらつきがないことを確認し、いったんフロントフォグランプを点灯させ、電球の取り付け部からランプの光がもれていないことを目視確認してください。

手順 6 手順 1 と逆の手順でフェンダーライナーをもとに戻す。

■ リヤ方向指示灯／非常点滅灯、尾灯

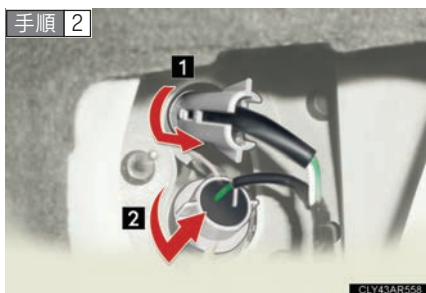
手順 1



バックドアを開け、カバーの切り欠きにマイナスドライバーなどを差し込んで取りはずす。

傷付き防止のため、ドライバーの先端に布などをあててください。

手順 2

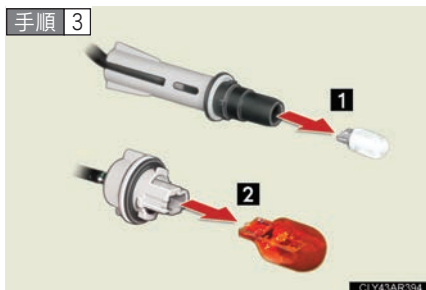


ソケットを取りはずす。

1 尾灯

2 リヤ方向指示灯／非常点滅灯

手順 3



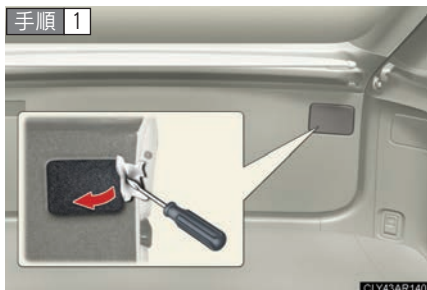
電球を取りはずす。

1 尾灯

2 リヤ方向指示灯／非常点滅灯

■ 後退灯、尾灯

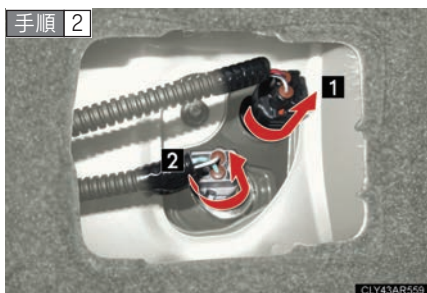
手順 1



バックドアを開け、カバーの切り欠きにマイナスドライバーなどを差し込んで取りはずす。

傷付き防止のため、ドライバーの先端に布などをあててください。

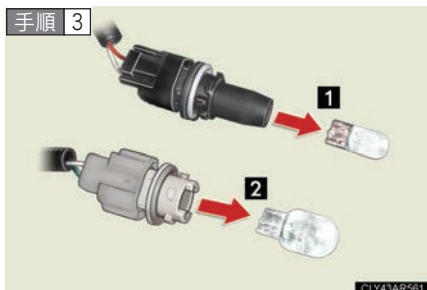
手順 2



ソケットを取りはずす。

- 1 尾灯
- 2 後退灯

手順 3



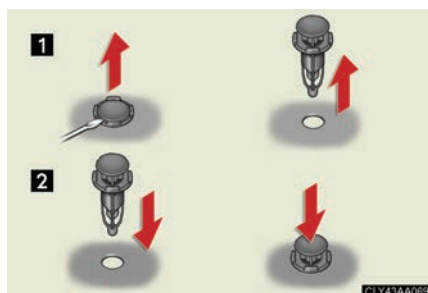
電球を取りはずす。

- 1 尾灯
- 2 後退灯

■ リヤフォグランプ*（右側）



ボルト・クリップをはずし、カバーを取りはずす。

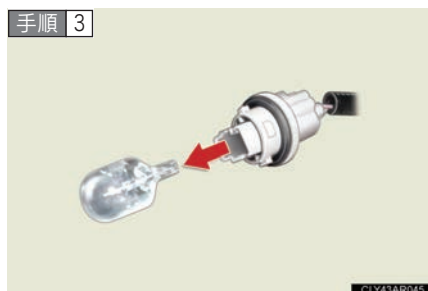


1 取りはずし

2 取り付け



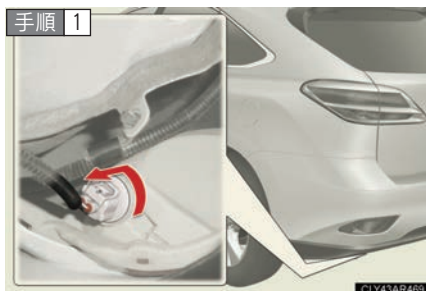
ソケットを取りはずす。



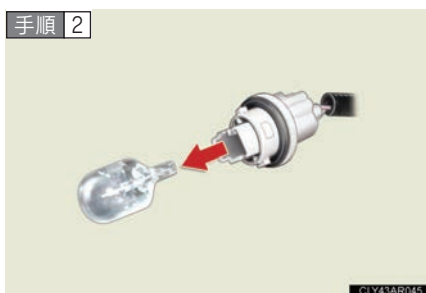
電球を取りはずす。

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

■ リヤフォグランプ*（左側）



ソケットを取りはずす。



電球を取りはずす。

■ その他の電球

以下の電球が切れたときは、レクサス販売店で交換してください。

- ヘッドランプ（ロービーム）
- 車幅灯／LED デイライト
- サイド方向指示灯／非常点滅灯
- 制動灯
- ハイマウントストップランプ
- 番号灯
- ドアミラー照明

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

知識

■ レンズ内の水滴と曇り

レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。ただし、次のようなときは、レクサス販売店にご相談ください。

- レンズ内側に大粒の水滴がついている
- ランプ内に水がたまっている

警告

■ 電球を交換するときは

- ランプは消灯してください。消灯直後は高温になっているため、交換しないでください。
やけどをするおそれがあります。
- 電球のガラス部を素手でふれないでください。
やむを得ずガラス部を持つ場合は、電球に油脂や水分を付着させないために、乾いた清潔な布などを介して持ってください。
また、電球を傷付けたり、落下させたりすると球切れや破裂することがあります。
- 電球や電球を固定するための部品はしっかり取り付けてください。取り付けが不十分な場合、発熱や発火、またはヘッドランプ内部への浸水による故障や、レンズ内に曇りが発生することがあります。

 注意

- ヘッドランプ（ハイビーム）、フロント方向指示灯／非常点滅灯、フロントフォグランプ、後退灯、尾灯、リヤ方向指示灯／非常点滅灯、リヤフォグランプ*の電球交換について

ご自身で電球交換をおこなった場合、車を損傷するおそれがあります。

- お車の故障や火災を防ぐために

電球が正しい位置にしっかりと取り付けられていることを確認ください。

- ヘッドランプ（ロービーム）、サイド方向指示灯／非常点滅灯、制動灯、ハイマウントストップランプ、番号灯、車幅灯／LED デイライトについて

ヘッドランプ（ロービーム）、サイド方向指示灯／非常点滅灯、制動灯、ハイマウントストップランプ、番号灯、車幅灯／LED デイライトは数個のLEDで構成されています。もしLEDがひとつでも点灯しないときは、レクサス販売店で交換してください。

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

ヒューズの点検、交換

ランプがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検を行ってください。

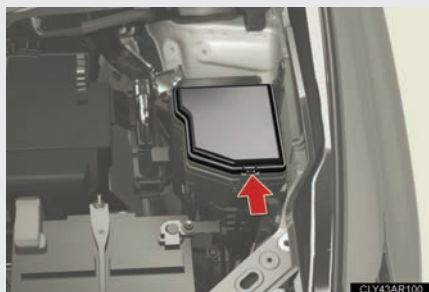
手順 1 “エンジン スタート ストップ” スイッチを OFF にする。

手順 2 故障の状況から、点検すべきヒューズを確認する。(→P. 296)

手順 3 エンジンルームカバーを取りはずす。(→P. 278)

手順 4 ヒューズボックスを開ける。

▶ エンジンルーム



ツメを押しながら、カバーを持ち上げる。

▶ 助手席足元



カバーを取りはずす。

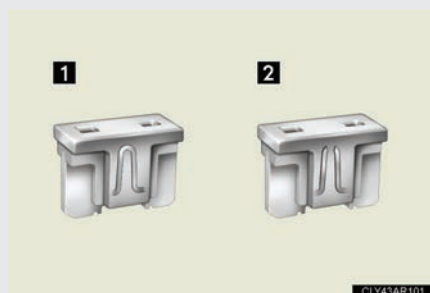
手順 5



ヒューズは必ずヒューズを引
き抜く。

手順 6 ヒューズが切れていないか点検する。

▶ ヒューズ A

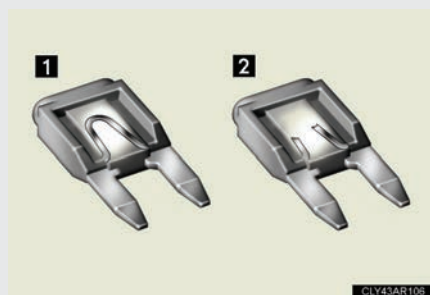


1 正常

2 ヒューズ切れ

ヒューズボックスの表示に従い、規
定容量のヒューズに交換します。

▶ ヒューズ B



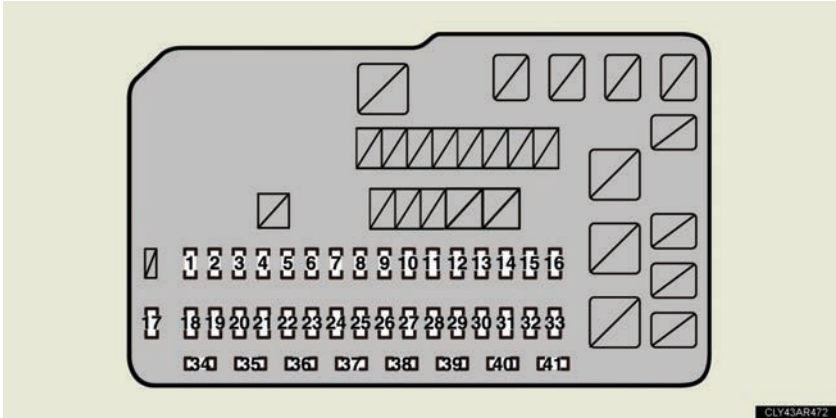
1 正常

2 ヒューズ切れ

ヒューズボックスの表示に従い、規
定容量のヒューズに交換します。

ヒューズの配置と負荷

■ エンジンルーム



	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1	AMP1	30 A	オーディオシステム
2	EFI MAIN	30 A	EFI NO.1、EFI NO.2、F/PMP、EFI システム、エレクトリックコントロールドトランスミッション
3	AMP2	30 A	オーディオシステム
4	IG2 MAIN	30 A	IGN、GAUGE NO.2、ECU IG2
5	IP J/B	25 A	パワードアロックシステム
6	STR LOCK	20 A	スタートシステム
7	RAD NO.3	15 A	オーディオシステム、メーター、ナビゲーションシステム
8	HAZ	15 A	方向指示／非常点滅灯
9	ETCS	10 A	EFI システム
10	RAD NO.1	10 A	オーディオシステム、ナビゲーションシステム
11	AM2	7.5 A	スタートシステム

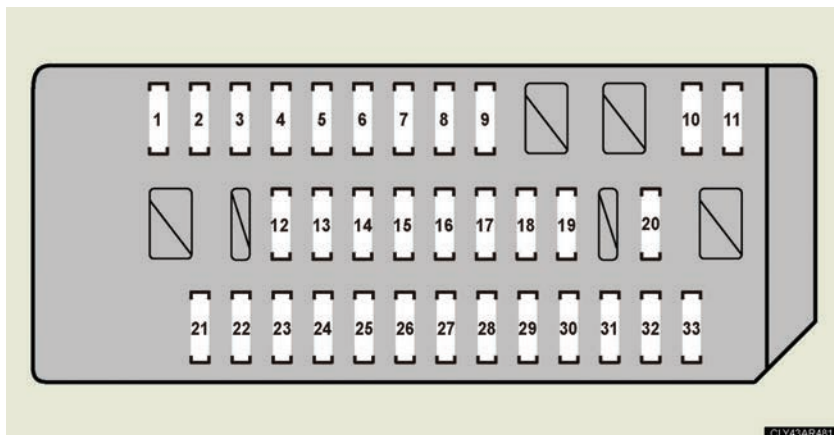
ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
12	ECU-B NO.2	7.5 A	エアコンシステム、オーディオシステム、ビークルスタビリティコントロール、パワーウィンドウ
13	MAYDAY/TEL	7.5 A	MAYDAY/TEL
14	IMMOBI	7.5 A	IMMOBI
15	ALT-S	7.5 A	チャージングシステム
16	DRL	7.5 A	LED デイライト
17	IGN	10 A	EFI システム
18	DOME	10 A	室内灯、ラゲージルームランプ、パニティーミラーランプ
19	ECU-B NO.1	10 A	電動チルト&テレスコピックステアリング、マルチコミュニケーションシステム、メーター、シートポジションメモリーシステム、シート調整、パワーバックドア、ヘッドアップディスプレイ、電動ミラー、ステアリングセンサー
20	EFI NO.1	10 A	EFI システム、エレクトリックコントロールドトランスミッション
21	A/F ※ 1	10 A	EFI システム
	WIP-S ※ 2	7.5 A	クルーズコントロール
22	ECU-IG1 NO. 4	10 A	AFS、エアコンシステム、リヤウインドウデフォグガー、ビークルスタビリティコントロール、電動クーリングファン
23	BK/UP LP	7.5 A	後退灯
24	ECU-IG1 NO. 5	15 A	エアコンシステム
25	ECU-IG1 NO. 6	10 A	AFS、ヘッドランプクリーナー、クルーズコントロール、ビークルスタビリティコントロール、エアコンシステム
26	EFI NO.2	10 A	EFI システム
27	F/PMP ※ 2	15 A	EFI システム
28	DEICER	25 A	クルーズコントロール

ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
29	STOP	7.5 A	ピークルスタビリティコントロール、ピークルダイナミクスインテグレイテッドマネージメント、制動灯、エレクトリックコントロールドトランスミッション、EFI システム、シフトロックコントロールシステム、スタートシステム
30	TOWING BATT	20 A	———
31	TOWING	30 A	———
32	FILTER	10 A	———
33	IG1 MAIN	30 A	ECU-IG1 NO.6、BK/UP LP、ECU-IG1 NO.5、ECU-IG1 NO.4
34	H-LP RH HI	15 A	ヘッドランプ右側（ハイビーム）
35	H-LP LH HI	15 A	ヘッドランプ左側（ハイビーム）
36	BIXENON	10 A	———
37	H-LP RH LO	15 A	ヘッドランプ右側（ロービーム）
38	H-LP LH LO	15 A	ヘッドランプ左側（ロービーム）
39	HORN	10 A	ホーン
40	EFI MAIN NO.2 ※ 1 A/F ※ 2	20 A	EFI システム
41	S-HORN	7.5 A	S-HORN

※ 1:RX270

※ 2:RX350

■ 助手席足元



	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1	P/POINT	15 A	アクセサリースOCKET
2	ECU-ACC	10 A	ナビゲーションシステム、エアコンシステム、オーディオシステム、マルチコミュニケーションシステム、マルチインフォメーションディスプレイ、ヘッドアップディスプレイ、DSRC システム
3	CIG	15 A	アクセサリースOCKET
4	RADIO NO.2	7.5 A	オーディオシステム、ナビゲーションシステム
5	GAUGE NO.1	10 A	方向指示ノ非常点滅灯、ナビゲーションシステム、ヘッドアップディスプレイ、エアコンシステム、チャージングシステム
6	ECU-IG1 NO.3	10 A	電動ミラー、ワイパー&ウオッシャー、シートヒーター、スタートシステム、アクセサリースOCKET、ムーンルーフ、エアコンシステム

ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
7	ECU-IG1 NO.1	10 A	マルチコミュニケーションシステム、ステアリングセンサー、シフトロックコントロールシステム、電動チルト&テレスコピックステアリング、オートマチックトランスミッションシステム、パワーバックドア、プリクラッシュセーフティシステム、ピークルスタビリティコントロール
8	S/ROOF	30 A	ムーンルーフ
9	FUEL OPN	7.5 A	フューエルドアオープナー
10	DR LOCK	10 A	———
11	FR FOG	7.5 A	フロントフォグランプ
12	4WD	7.5 A	AWD システム
13	INVERTER	20 A	アクセサリースOCKET
14	RR FOG	7.5 A	リヤフォグランプ
15	D/L ALT B	25 A	マルチコミュニケーションシステム、パワードアロックシステム、パワーバックドア
16	EPS	10 A	パワーステアリングシステム
17	ECU-IG1 NO.2	10 A	クリアランスソナー、AWD システム、ナビゲーションシステム、プリクラッシュシートベルト
18	PANEL	10 A	イルミネーションスイッチ、ナビゲーションシステム、オートマチックトランスミッションシステム、オーディオシステム、マルチインフォメーションディスプレイ、エアコンシステム、マルチコミュニケーションシステム
19	TAIL	10 A	車幅灯、尾灯、番号灯、フロントフォグランプ、リヤフォグランプ
20	AIR SUS	20 A	———
21	OBD	7.5 A	ダイアグノーシスコネクター
22	FR DOOR	25 A	フロント右側パワーウィンドウ、電動ミラー

	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
23	RR DOOR	25 A	リヤ右側パワーウィンドウ
24	FL DOOR	25 A	フロント左側パワーウィンドウ、電動ミラー
25	RL DOOR	25 A	リヤ左側パワーウィンドウ
26	FR WASH	25 A	ワイパー&ウォッシャー
27	RR WIP	15 A	ワイパー&ウォッシャー
28	RR WASH	20 A	ワイパー&ウォッシャー
29	FR WIP	30 A	ワイパー&ウォッシャー
30	ECU IG2	10 A	EFI システム、エアバッグシステム、制動灯、ステアリングロックシステム、エレクトリックコントロールドランスミッション
31	GAUGE NO.2	7.5 A	メーター
32	RH S-HTR	15 A	シートヒーター右側
33	LH S-HTR	15 A	シートヒーター左側

知識

■ ヒューズを交換したあと

- 交換してもランプ類が点灯しないときは、電球を交換してください。(→P. 280)
- 交換しても再度ヒューズが切れる場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

■ バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかると

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れるように設計されています。

 警告

■ **車の故障や、車両火災を防ぐために**

以下のことをお守りください。

お守りいただかないと、車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

- 規定容量以外のヒューズ、またはヒューズ以外のものを使用しないでください。
- 必ずレクサス純正ヒューズが同等品を使用してください。一瞬であっても、決して銅線でつながないでください。
- ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

 注意

■ **ヒューズを交換する前に**

ヒューズが切れた原因が電気の過剰負荷だと判明したときは、レクサス販売店で点検を受けてください。

4-2. 簡単な点検・部品交換 電子キーの電池交換

電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。

■ 用意するもの

- マイナスドライバー
- 小さいプラスドライバー
- リチウム電池 CR1632

■ 電池交換のしかた

手順 1



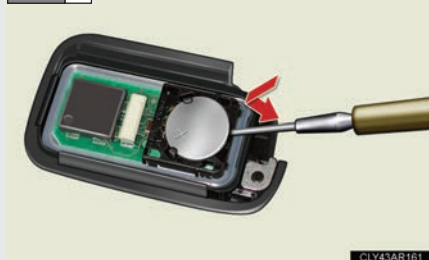
解除レバーをスライドさせメカニカルキーを抜く。

手順 2



カバーをはずす。

手順 3



消耗した電池を取り出す。

新しい電池は + 極を上にして取り付けます。

知識

■ 電子キーの電池が消耗していると

次のような状態になります。

- スマートエントリー&スタートシステム、ワイヤレスリモコンが作動しない
- 作動距離が短くなる

■ リチウム電池 CR1632 の入手

電池はレクサス販売店、時計店およびカメラ店などで購入できます。

■ カードキー*の電池交換が必要なときは

カードキーの電池は市販されていないため、レクサス販売店で交換してください。

警告

■ 取りはずした電池と部品について

お子さまにさわらせないでください。

部品が小さいため、誤って飲み込むと、のどなどにつまらせ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■ 交換後、正常に機能させるために

次のことを必ずお守りください。

- めれた手で電池を交換しない
錆の原因になります。
- 電池以外の部品に、ふれたり動かしたりしない
- 電極を曲げない

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

4-2. 簡単な点検・部品交換

ウォッシャー液の補給



ウォッシャー液が出なかったり、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたら、ウォッシャー液を補充する。

警告

■ ウォッシャー液を補給するときは

エンジンが熱いときやエンジンがかかっているときは、ウォッシャー液を補給しないでください。ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、エンジンなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

注意

■ ウォッシャー液について

ウォッシャー液のかわりに、せっけん水やエンジン不凍液などを入れないでください。

塗装にしみがつくおそれがあります。

■ ウォッシャー液の薄め方

必要に応じて水で薄めてください。水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

5-1. まず初めに

故障したときは.....	308
非常点滅灯 （ハザードランプ）.....	309
発炎筒	310
けん引について.....	312
フューエルポンプ シャットオフシステム.....	321

5-2. 緊急時の対処法

警告灯がついたときは.....	322
警告メッセージが 表示されたときは.....	326
パンクしたときは.....	342
エンジンが かからないときは.....	351
シフトレバーが シフトできないときは.....	353
キーを無くしたときは.....	354
電子キーが正常に 働かないときは.....	355
バッテリーが あがったときは.....	358
オーバーヒート したときは	362
スタックしたときは.....	365
車両を緊急停止するには	367

5-1. まず初めに 故障したときは

故障のときはすみやかに次の指示に従ってください。



非常点滅灯（→P. 309）を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車する

非常点滅灯は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。



高速道路や自動車専用道路では、次のことに従う

- 同乗者を避難させる
- 車両の50 m以上後方に発炎筒（→P. 310）と停止表示板を置くか、停止表示灯を使用
 - ・ 見通しが悪い場合はさらに後方に置いてください。
 - ・ 発炎筒は、燃料もれの際やトンネル内では使用しないでください。
- その後、ガードレールの外側などに避難する

知識

■ 停止表示板・停止表示灯について



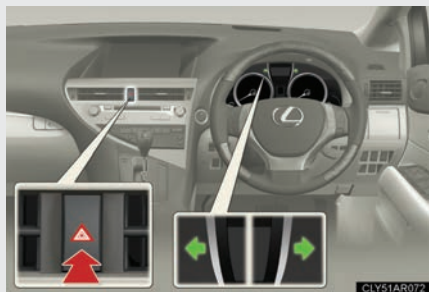
停止表示板

停止表示灯

- 高速道路や自動車専用道路でやむを得ず駐車する場合は、停止表示板または停止表示灯の表示が、法律で義務付けられています。
- 停止表示板・停止表示灯のご購入については、レクサス販売店にお問い合わせください。

非常点滅灯（ハザードランプ）

故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるために使用してください。



スイッチを押す

すべての方向指示灯が点滅します。
もう一度押すと消灯します。

知識

■ G-Link サービス（ご契約のお客様のみ）

- うっかり通知機能によって、施錠のし忘れ・ドアガラスの閉め忘れ・非常点滅灯の消し忘れを、携帯電話などへメールでお知らせすることができます。
- リモート確認機能によって、施錠の状態やドアガラスの状態、非常点滅灯の状態などを携帯電話から確認することができます。
- うっかり通知機能は車内の電子キーの検知を利用しています。そのため、スマートエントリー&スタートシステムが正しく作動しない場合は、うっかり通知機能が正しく働かないことがあります。

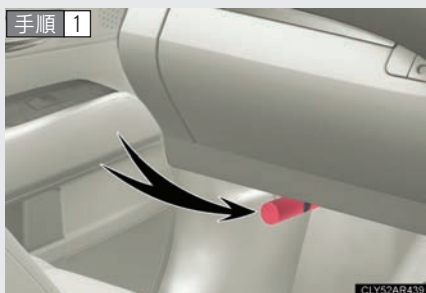
詳しくは別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書 /G-Link/G-Security」をご覧ください。

■ 非常点滅灯について

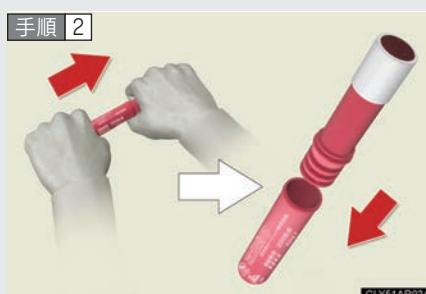
エンジン停止中に、非常点滅灯を長時間使用すると、バッテリーがあがるおそれがあります。

5-1. まず初めに 発炎筒

高速道路や踏切などでの故障・事故時に非常信号用として使用します。
(トンネル内や可燃物の近くでは使用しないでください)
発炎時間は約 5 分です。非常点滅灯と併用してください。



助手席足元の発炎筒を取り出す



本体をまわしながら抜き、本体を逆さにして差し込む



先端のフタを取り、すり薬で発炎筒の先端をこすり、着火させる

必ず車外で使用してください。
着火させる際は、筒先を顔や体に向け
ないでください。



知識

■ 発炎筒の有効期限

本体に表示してある有効期限が切れる前に、レクサス販売店でお求めください。有効期限が切れると、着火しなかったり、炎が小さくなる場合があります。

 警告

■ 発炎筒を使用してはいけない場所

以下の場所では、発炎筒を使用しないでください。

煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

- トンネル内
- ガソリンなど可燃物の近く

■ 発炎筒の取り扱いについて

以下のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近づけたりしない
- 発炎筒は、お子さまにさせない

5-1. まず初めに けん引について

けん引は、できるだけレクサス販売店または専門業者にご依頼ください。
その場合は、レッカー車または、車両運搬車を使用することをおすすめします。

やむを得ず他車にロープでけん引してもらう場合は、車両積載車までの移動など、できるだけ短距離にとどめてください。

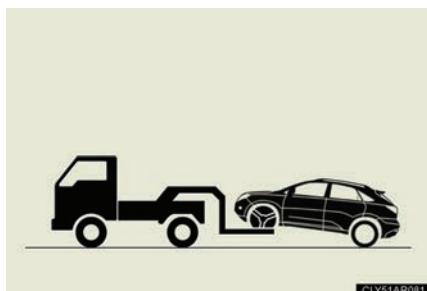
けん引の前に販売店への連絡が必要な状況

次の場合は、駆動系の故障が考えられるため、レクサス販売店へご連絡ください。

- エンジンがかかるが車が動かない
- 異常な音がする

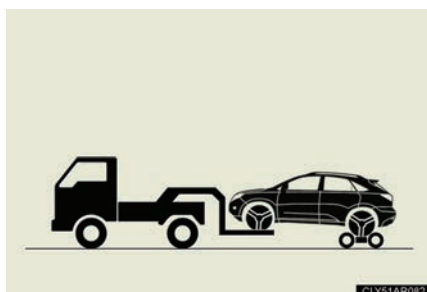
レッカー車でけん引するとき

- ▶ 前向きにけん引するときは（2WD 車）



パーキングブレーキを解除する

- ▶ 前向きにけん引するときは（AWD 車）



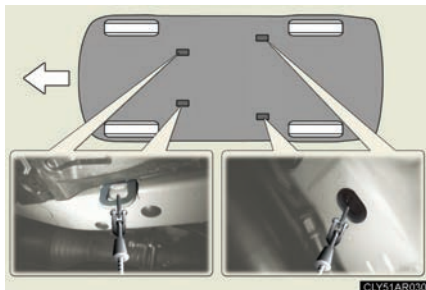
台車を使用して後輪を持ち上げる

- ▶ うしろ向きにけん引するときは

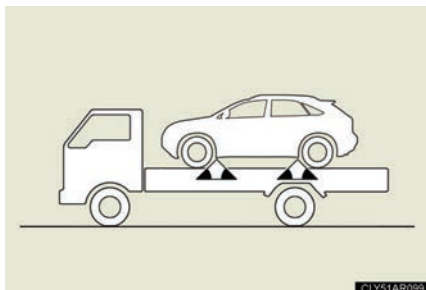


台車を使用して前輪を持ち上げる

車両運搬車を使用するとき



車両運搬車で輸送されているときは、図の場所にフックを取り付ける

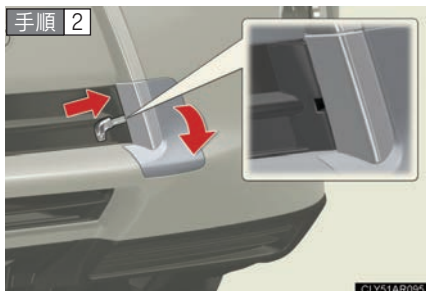


鎖やケーブルなどを使用して車両を固縛する場合は図に黒く示す角度が45° になるように固縛する

けん引されるとき

手順 1 けん引フックを取り出す (→P. 342)

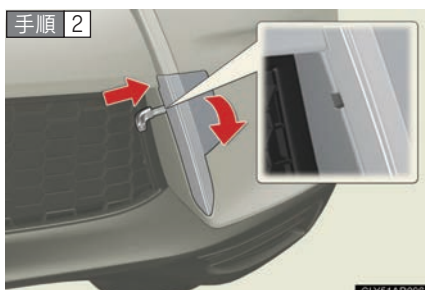
▶ タイプ A



バンパーの溝にメカニカルキー (→P. 27) を差し込み、ツメを解除する

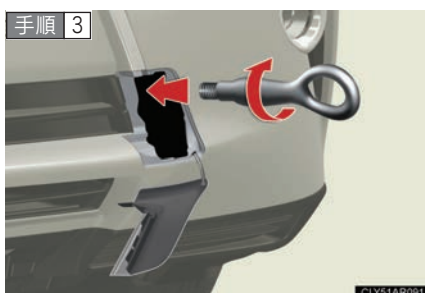
メカニカルキーを差し込んだまま、けん引フックカバーを手前に引き取りはずす

▶ タイプB

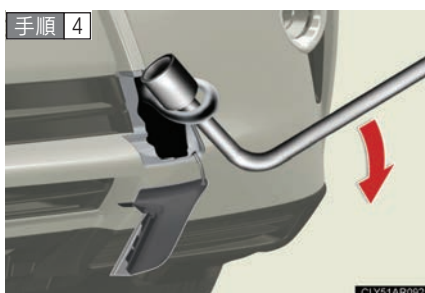


バンパーの溝にメカニカルキー（→P. 27）を差し込み、ツメを解除する

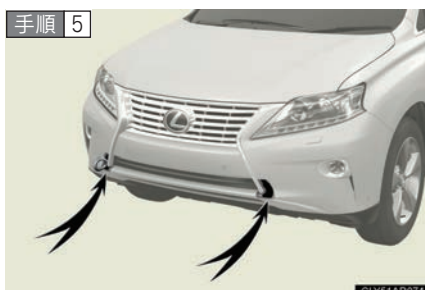
メカニカルキーを差し込んだまま、けん引フックカバーを手前に引き取りはずす



けん引フックを穴に挿し込み、手で可能なところまでしめる

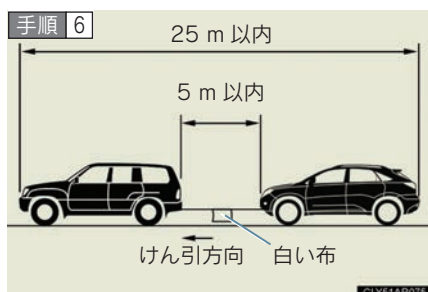


バンパーとの干渉を防ぐため、ホイールナットレンチの先端を使用して、確実に取り付ける



車体に傷が付かないようにロープをけん引フックにかける

車体に傷が付かないように注意してください。また、前進方向でけん引してください。



ロープの中央に白い布を付ける

布の大きさ：

0.3 m 平方 (30 cm × 30 cm) 以上

手順 7 運転者はけん引される車両に乗り、エンジンをかける

エンジンがかからないときは、“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッション ON モードにしてください。

手順 8 けん引される車両のシフトレバーを N にしてから、パーキングブレーキを解除する

けん引中は、ロープがたるまないよう、減速時なども前の車の速度に合わせてください。

シフトレバーがシフトできないときは：→P. 353

 知識

■けん引フックの使用目的

けん引フックはけん引されるときに使うものであり、他車をけん引するためのものではありません。

■けん引されるときに

エンジンが停止しているとブレーキの効が悪くなったり、ハンドル操作が通常より重くなったりします。

■ホイールナットレンチについて

ラゲージルームに搭載されています。(→P. 342)

■輸送用フックについて



このフックは船舶固縛で車両を輸送するとき
に固定するためのものです。他車に引っ張り出
してもらったり、他車をけん引したりするこ
とはできません。

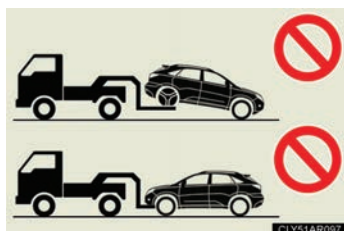
警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

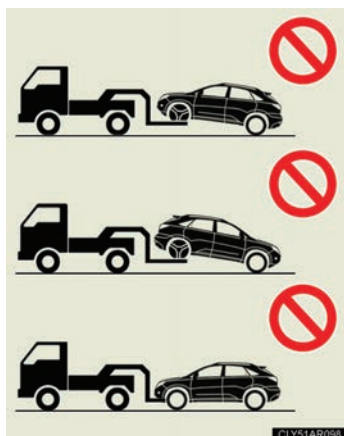
けん引されるとき

▶ 2WD 車



必ず前輪を持ち上げるか、4 輪とも持ちあげた状態で運搬してください。前輪が地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品が破損するおそれがあります。

▶ AWD 車



4 輪とも持ち上げた状態で運搬してください。タイヤが地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品が破損したり車が台車から飛び出したりするおそれがあります。

**警告****■けん引中の運転について**

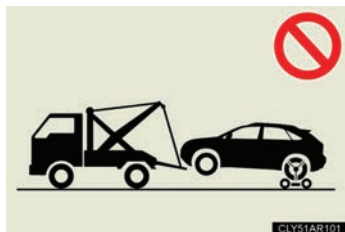
- ロープによるけん引を行うときは、けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進などを避けてください。
けん引フックやロープが破損し、その破片が周囲の人などにあたり、重大な傷害を与えるおそれがあります。
- “エンジン スタート ストップ” スイッチを OFF にしないでください。
ハンドルがロックされ、ハンドル操作ができなくなるおそれがあります。

■けん引フックを車両に取り付けるとき

指定の位置にしっかりと取り付けてください。
指定の位置にしっかりと取り付けていないとけん引時にフックがはずれるおそれがあります。

 注意

■ レッカー車でけん引するとき



車両の損傷を防ぐために図のようなレッカー車ではけん引しないでください。

■ 車両運搬車に車を固縛するとき

ケーブル等を過度に締め付けすぎないでください。車両の損傷につながるおそれがあります。

■ 駆動系部品の損傷を防ぐために

- ロープでけん引されるときは次のことを必ずお守りください。
 - ・ ワイヤロープは使用しない
 - ・ 速度 30 km/h 以下、距離 80 km 以内でけん引する
 - ・ 前進方向でけん引する
 - ・ サスペンション部などにロープをかけない
- この車両で他車やポート（トレーラー）などをけん引しないでください。

■ 長い下り坂でけん引するときは

- 2WD 車：レッカー車で前輪を持ち上げるか、4 輪とも持ち上げた状態でけん引してください。
レッカー車でけん引しないと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。
- AWD 車：レッカー車で 4 輪とも持ち上げた状態でけん引してください。
レッカー車でけん引しないと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

■ 輸送用フックについて

輸送用フックで他車に引っ張り出してもらったり、他車をけん引したりしないでください。装置の変形や車両の損傷などにつながるおそれがあります。

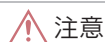
フューエルポンプシャットオフシステム

エンジン停止時および SRS エアバッグ作動時は、フューエルポンプシャットオフシステムが作動し、燃料供給を停止し、燃料もれを最小限に抑えます。

システムが作動したあと、エンジンを始動するには、次の手順に従ってください。

手順 1 “エンジン スタート ストップ” スイッチをアクセサリモードまたは OFF にする

手順 2 エンジンを再始動する



注意

■ エンジンを始動する前に

車両下をよく確認してください。

地面に燃料もれを見つけた場合は、燃料システムに損傷があり、修理する必要があります。その場合はエンジンを再始動しないでください。

警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて以下のように対処してください。なお、点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

ただちに停車してください。走行を続けると危険です。

以下の警告はブレーキの故障のおそれがあることを意味します。ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へ連絡してください。

警告灯	警告灯名・警告内容
	ブレーキ警告灯（警告ブザー）※ ・ブレーキ液の不足 ・ブレーキ系統の異常 パーキングブレーキが解除されていないときも点灯します。 解除後、消灯すれば正常です。

※ パーキングブレーキ未解除走行時警告ブザー
→P. 332

ただちに停車してください。

以下の警告は、お車へのダメージや思わぬ危険を招くおそれがあることを意味します。ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へ連絡してください。

警告灯	警告灯名・警告内容
	充電警告灯 充電系統の異常

ただちに点検を受けてください。

以下の警告は、放置するとシステムが正しく働かず、思わぬ危険や故障を招くおそれがあることを意味します。ただちにレックス販売店で点検を受けてください。

警告灯	警告灯名・警告内容
	エンジン警告灯 ・エンジン電子制御システムの異常 ・電子制御スロットルの異常 ・オートマチックトランスミッション電子制御システムの異常
	SRS エアバッグ/プリテンショナー警告灯 ・SRS エアバッグシステムの異常 ・プリテンショナー付きシートベルトシステムの異常
	ABS & ブレーキアシスト警告灯 ・ABS の異常 ・ブレーキアシストの異常
	パワーステアリング警告灯（警告ブザー） ・EPS（エレクトリックパワーステアリング）の異常
 (点滅)	PCS 警告灯* プリクラッシュセーフティシステムの異常 システムの異常時以外にも、警告灯が次のように作動します。 ・システムの作動時には、速い点滅でお知らせします。 (→P. 219) ・プリクラッシュブレーキを OFF にすると点灯します。 (→P. 220) ・システムが一時的に使用できないときに点灯します。 (→P. 332)
 (点滅)	AFS OFF 表示灯 アダプティブフロントライティングシステムの異常
	スリップ表示灯 ・VSC システムの異常 ・TRC システムの異常 ・ヒルスタートアシストコントロールシステムの異常

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

ただちに処置してください。

以下の警告はそれぞれの対処方法に従って処置し、警告灯が消灯することを確認してください。

警告灯	警告灯名・警告内容	対処方法
	半ドア警告灯 (警告ブザー) ※ 1 いずれかのドアが確実に閉 まっていない	全ドアを閉める
	燃料残量警告灯 燃料の残量が約 10.7 L 以下に なった	燃料を補給する
	運転席シートベルト 非着用警告灯 (警告ブザー) ※ 2 運転席シートベルトの非着用	シートベルトを着用する
	助手席シートベルト 非着用警告灯 (警告ブザー) ※ 2 助手席シートベルトの非着用	シートベルトを着用する

警告灯	警告灯名・警告内容	対処方法
	マスターウォーニング システムの異常時にブザーと共に点灯・点滅しマルチインフォメーションディスプレイ上に警告メッセージを表示します。	→P. 326

※1 半ドア走行時警告ブザー：

→P. 332

※2 運転席・助手席シートベルト非着用警告ブザー：

運転席・助手席シートベルト非着用のまま車速が約 20 km/h 以上になると警告ブザーが 30 秒間断続的に鳴ります。その後も運転席・助手席シートベルト非着用のままだと、ブザーの音が変わり 90 秒間鳴ります。



知識

■ 助手席シートベルト非着用警告灯の乗員検知センサーの作動について

- 乗員がいなくても、シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅することがあります。
- 座布団などを敷くと、センサーが乗員を検知せず警告灯が作動しないことがあります。

■ パワーステアリング警告灯／警告ブザーについて

バッテリーの充電が不十分な場合、または一時的に電圧が下がった場合に警告灯が点灯し、警告ブザーが鳴ることがあります。



警告

■ パワーステアリング警告灯が点灯したときは

ハンドルが非常に重くなることがあります。

ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

警告メッセージが表示されたときは

マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示された場合は、落ち着いて以下のように対処してください。



1 マスターウォーニングランプ

マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されているとき、点灯・点滅します。

2 マルチインフォメーションディスプレイ

処置後に再度メッセージが表示されたときは、レクサス販売店へご連絡ください。

ただちに停車してください。走行を続けると危険です。

以下の警告は、ブレーキの故障のおそれがあることを意味します。ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へ連絡してください。

警告メッセージ	警告内容
ブレーキ異常 	ブレーキ液の不足 ブレーキシステムの異常 警告ブザーが鳴ります。

ただちに停車してください。

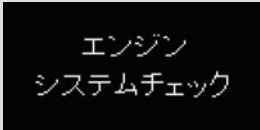
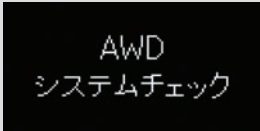
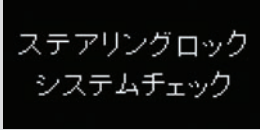
警告ブザーと共に警告メッセージが表示されます。以下の警告は、お車への損傷や思わぬ危険を招くおそれがあることを意味します。ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へ連絡してください。

警告メッセージ	警告内容
エンジン油圧不足 	エンジンオイル圧力の異常 エンジンオイルの圧力が異常に低いと表示されます。
AWD高温  (点滅) (AWD 車)	AWD システム*の過熱

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

ただちに点検を受けてください。

警告ブザーと共に警告メッセージが表示されます。以下の警告は、放置すると、システムが正しく働かず、思わぬ危険や故障を招くおそれがあることを意味します。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

警告メッセージ	警告内容
	エンジン制御システムの異常
	AWD システム*の異常
	
	ステアリングロックシステムの異常
	
	
	AFS の異常
	

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

警告メッセージ	警告内容
ヘッドランプ システムチェック  (点滅)	ヘッドランプシステムの異常
ブレーキランプ システムチェック 	ブレーキランプ制御システムの異常
PCS システムチェック PCS (点滅) 	PCS（プリクラッシュセーフティシステム）*の異常
 ソナー システム チェック 	クリアランスソナー*の異常 異常のある部位が点滅して表示されます。

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

警告メッセージ	警告内容
クルーズ システムチェック 	クルーズコントロールシステム* /レーダークルーズコントロールシステム*の異常 メインスイッチを一度 O F F にし、再度設定してください。
ヘッドライト レベリング システムチェック 	ヘッドランプオートレベリングシステムの異常
エアバッグ システムチェック 	SRS エアバッグ・プリテンショナー付きシートベルトシステムの異常
ABSチェック	ABS・ブレーキアシストの異常
パワーステアリング システムチェック 	EPS（エレクトリックパワーステアリング）の異常

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

警告メッセージ	警告内容
ナビ・ブレーキアシスト システムチェック 	ナビ・ブレーキアシスト*の異常 ナビ・ブレーキアシストについては別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照ください。

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

ただちに処置してください。

警告ブザーと共に警告メッセージが表示されます。以下の警告はそれぞれの対処方法に従って処置し、警告メッセージが消灯するのを確認してください。

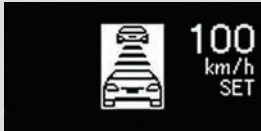
警告メッセージ	警告内容	対処方法
	各ドアが確実に閉まっていない 開いてるドアが表示されます。 各ドアが確実に閉まっていない状態のまま、車速が5 km/h をこえたときにはブザーが鳴ります。	各ドアを閉める
ボンネット 	ボンネットが確実に閉まっていない ボンネットが確実に閉まっていない状態のまま、車速が5 km/h をこえたときにはブザーが鳴ります。	ボンネットを閉める
バックドア 	バックドアが確実に閉まっていない バックドアが確実に閉まっていない状態のまま、車速が5 km/h をこえたときにはブザーが鳴ります。	バックドアを閉める

警告メッセージ	警告内容	対処方法
ムーンルーフが 開いています  (点滅)	ムーンルーフ*が確実に閉 まっていない状態で“エン ジン スタート ストップ” スイッチを OFF にして運転 席ドアを開けた	ムーンルーフを閉める
パーキングブレーキを 解除して下さい	パーキングブレーキが解除 されていない パーキングブレーキをか けたまま、車速が 5 km/h をこえたときには  が点滅しブザー が鳴ります。	パーキングブレーキを解除 する
ウォッシャー液不足	ウォッシャー液が残りわず か	ウォッシャー液を補充する
AWD解除  (点滅) (AWD 車)	AWD システム*が現在機能 していないことを示す 警告ブザーが鳴ります。	・車速を落とす ・停車する
PCS 現在使用できません  PCS	グリルまたはセンサーの汚 れにより PCS (プリクラッ シュセーフティシステム) *が現在機能していない システムの過熱保護のた め一時的に機能していな い場合にも表示されます。	・グリルまたはセンサー (→P. 220) の汚れを取り 除く ・システムの過熱保護によ り表示されている場合は、 システムが通常温度にな り正常復帰するまでしば らくお待ちください。

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

警告メッセージ	警告内容	対処方法
 	クリアランスソナー*のセンサー部分の汚れ、氷などの付着 警告ブザーが鳴ります。異常のある部位と車マークが点滅して表示されます。	汚れおよび氷などを取り除く
レーダー汚れ 清掃必要 	レーダークルーズコントロール*のセンサー部分の汚れ、氷などの付着 警告ブザーが鳴ります。	汚れおよび氷などを取り除く
悪天候 クルーズできません 	レーダークルーズコントロール*の車間制御の測定不可 警告ブザーが鳴ります。	・走行モードを通常走行にかえる ・ワイパーを止めるか、AUTO または高速作動以外にかえる
ブレーキ! PCS (点滅)	衝突の可能性が高い、またはプリクラッシュブレーキが作動している（プリクラッシュセーフティシステム*） 警告ブザーが鳴ります。ヘッドアップディスプレイ*に ブレーキ! も表示されます（点滅）。	ブレーキで減速する

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

警告メッセージ	警告内容	対処方法
 (点滅)	(レーダークルーズコントロール*の車間制御中) 衝突の危険性 警告ブザーが鳴ります。 ヘッドアップディスプレイ*に  も表示されます (点滅)。	ブレーキを踏む
エンジン オーバーヒート 	エンジンオーバーヒート 警告ブザーが鳴ります。	→P. 362
給油して下さい	燃料の不足	燃料残量を点検し、燃料を補給する。
AT油温異常 	オートマチックトランスミッションフルードの油温が異常に高くなった 警告ブザーが鳴ります。	ただちに安全な場所に停車し、シフトレバーをPにして、エンジンをかけたまま温度が下がるまで待つ しばらくして表示が消えたら、走行可能になります。表示が消えないときは、レクサス販売店にご連絡ください。

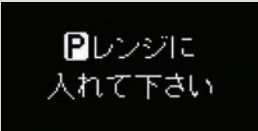
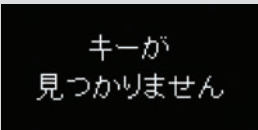
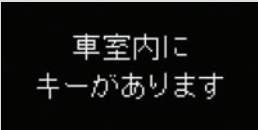
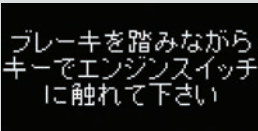
* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

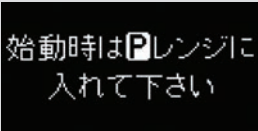
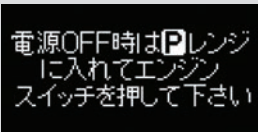
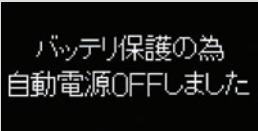
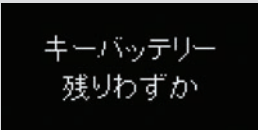
ただちに処置してください。

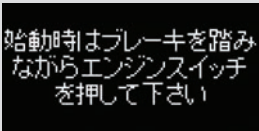
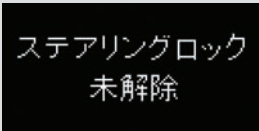
それぞれの対処方法に従って処置し、警告メッセージが消灯するのを確認してください。

車内 警告 ブザー	車外 警告 ブザー	警告メッセージ	警告内容	対処方法
1 回	なし	キーが 見つかりません  (点滅)	電子キーを携帯していない状態でエンジンを始動しようとした	電子キーを携帯する
1 回	3 回	キーが 見つかりません  (点滅)	“エンジン スタート ストップ” スイッチが OFF 以外の状態で運転席以外のドアが開閉され同乗者が電子キーを持ち出した	電子キーを車内にもどす
			シフトレバーがPの状態です “エンジン スタート ストップ” スイッチを OFF にせずにキーを持ち出したまま運転席ドアが開閉された	“エンジン スタート ストップ” スイッチを OFF にするまたは電子キーを車内にもどす

車内 警告 ブザー	車外 警告 ブザー	警告メッセージ	警告内容	対処方法
1 回	1 回	キーが 見つかりません 電源を OFFして下さい (交互に表示)  (点滅)	“エンジン スタート ストップ” スイッチを OFF にせずに、電子キーを外に持ち出してドアを施錠しようとした	“エンジン スタート ストップ” スイッチを OFF にしたあと、再度施錠する
1 回	なし	キーが 見つかりません  (点滅)	正規の電子キーが車室内に無い状態で走行をはじめた	車室内に電子キーがあるか確認する
連続音	なし	Pレンジに 入れて下さい  (点滅)	シフトレバーが P 以外の状態で、“エンジン スタート ストップ” スイッチを OFF にせずに運転席ドアが開いた	シフトレバーを P にする

車内 警告 ブザー	車外 警告 ブザー	警告メッセージ	警告内容	対処方法
連続音	連続音	  (点滅)	シフトレバーがP以外の状態で“エンジン スタート ストップ”スイッチをOFFにせずに電子キーを持ち出したまま運転席ドアが開閉された	・シフトレバーをPにする ・電子キーを車内に入れる
1 回	連続音	  (点滅)	車内に電子キーを置いたまま、スマートエントリー&スタートシステムでドアを施錠しようとした	車内から電子キーを取り出したあと、再度施錠する
1 回	なし	  (点滅)	・メカニカルキーで解錠して“エンジン スタート ストップ”スイッチを押した際、車室内で電子キーを検出できなかった ・“エンジン スタート ストップ”スイッチを押したとき車室内で電子キーを検出できなかったが2回連続で続いた	ブレーキを踏みながら電子キーで“エンジン スタート ストップ”スイッチに触れる

車内 警告 ブザー	車外 警告 ブザー	警告メッセージ	警告内容	対処方法
1 回	なし	  (点滅)	エンジン始動可能なシフトレバー位置でエンジンを始動しようとしている	シフトレバーを P に入れてからエンジンを始動させる
1 回	なし	  (点滅)	シフトレバーが P 以外で“エンジンスタートストップ”スイッチのモードを OFF にしようとした	“エンジン スタート ストップ”スイッチのモードを OFF にしたい場合は、シフトレバーを P にし“エンジン スタート ストップ”スイッチを押す
なし	なし		自動電源 OFF 機能が作動した	次回エンジン始動時にエンジン回転数を少し高めにし、約 5 分間その回転数を保持しバッテリーを充電する
1 回	なし	 	電子キーの電池残量が少ない	新しい電池と交換する (→P. 303)

車内 警告 ブザー	車外 警告 ブザー	警告メッセージ	警告内容	対処方法
1 回	なし		“エンジン スタート ストップ” スイッチが OFF の状態で運転席のドアを開閉してからエンジンを始動せずに “エンジン スタート ストップ” スイッチをアクセサリモードに 2 回した	ブレーキを踏んで “エンジン スタート ストップ” スイッチを押す
		 (点滅)	電子キーが正常に働かないときのエンジンの始動の方法で (→P. 356) “エンジン スタート ストップ” スイッチに電子キーを触れた	ブザーが鳴ってから 10 秒以内に “エンジン スタート ストップ” スイッチを押す
1 回	なし		“エンジン スタート ストップ” スイッチを押してから約 3 秒以内にステアリングロックが解除できなかった	ブレーキを踏んでハンドルを左右に回しながら “エンジン スタート ストップ” スイッチを押す
		 (点滅)		

 知識

■ レーダークルーズコントロール*の車間制御中の警告表示について

車間距離が短くても、以下のような場合は警告メッセージが表示されないおそれがあります。

- 先行車と自車の車速が同じか先行車の方が速いとき
- 先行車が非常に低速で走行しているとき
- 速度を設定した直後
- アクセルが踏まれたとき

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

パンクしたときは

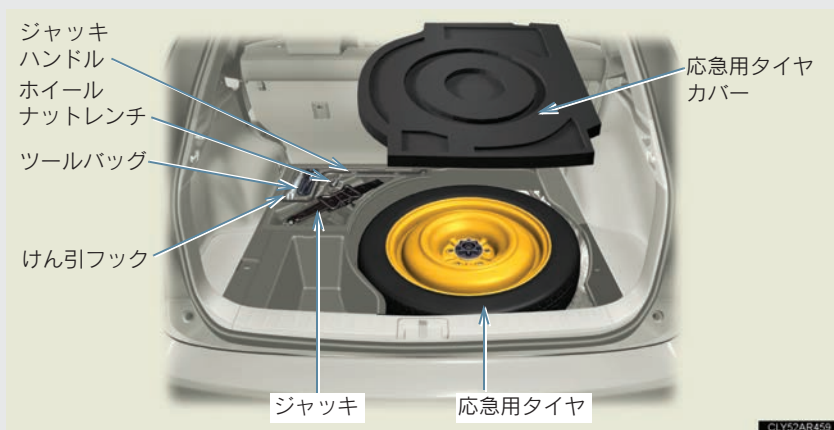
この車両には応急用タイヤが搭載されています。パンクしたタイヤを、備え付けの応急用タイヤと交換してください。

(タイヤについての詳しい説明は P. 271 を参照ください)

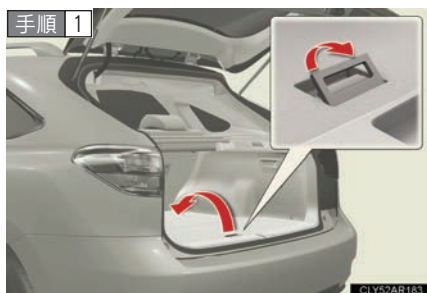
■ ジャッキで車体を持ち上げる前に

- 地面が固く平らな場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーを P に入れる
- エンジンを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる

■ 工具とジャッキ位置



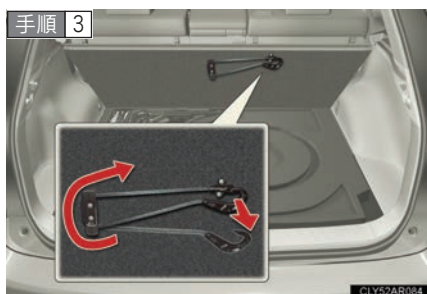
ジャッキの取り出し方



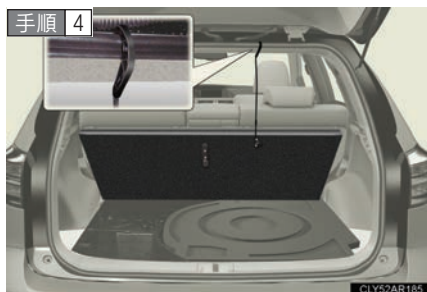
レバーを持ち上げデッキボードを半分に折りたたむ



折りたたんだデッキボードを持ち上げる



デッキボードの裏側のフックを外し、ひもを外す



フックを使って、デッキボードを留める

手順 5



ジャッキの留め具をはずす

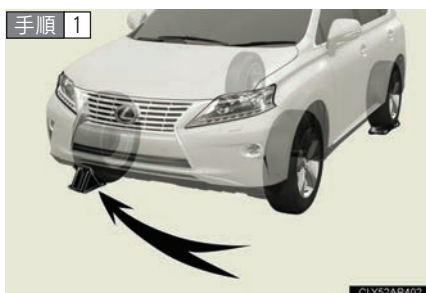
応急用タイヤの取り出し



デッキボードを持ち上げてから応急用タイヤカバーを取りはずす。留め具をはずし、応急用タイヤを取り出す

パンクしたタイヤの交換

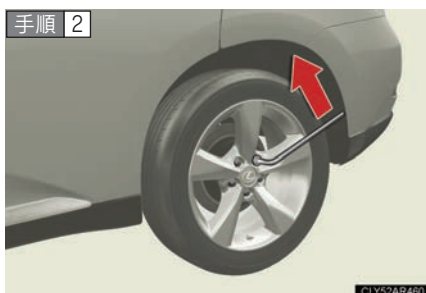
手順 1



輪止め※をする

パンクしたタイヤ		輪止めの位置
前輪	左側	右側後輪うしろ
	右側	左側後輪うしろ
後輪	左側	右側前輪前
	右側	左側前輪前

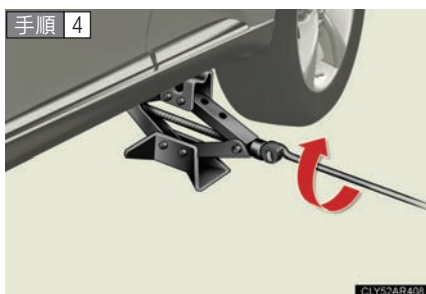
※輪止めは、レクサス販売店で購入することができます。



ナットを少し（約 1 回転）ゆるめる



ジャッキの A 部を手でまわして、ジャッキ溝をジャッキセット位置にしっかりかける



タイヤが地面から少し離れるまで、車体を上げる

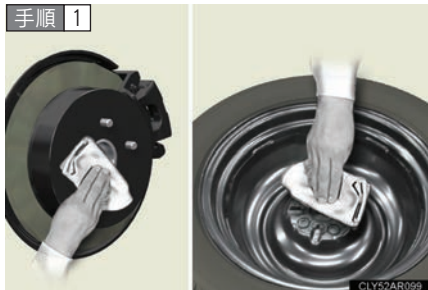


ナットすべてを取りはずし、タイヤを取りはずす

タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの意匠面に傷がつかないように意匠面を上にします。

応急用タイヤの取り付け

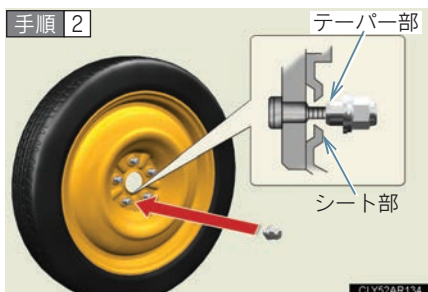
手順 1



ホイール接触面の汚れを拭き取る

ホイール接触面が汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤがはずれるおそれがあります。

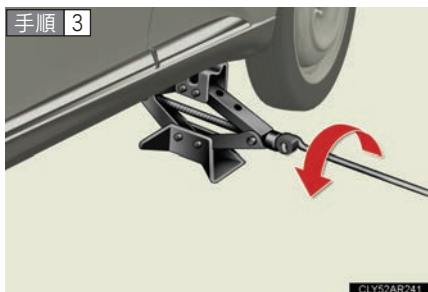
手順 2



応急用タイヤを取り付け、タイヤががたつかない程度まで手でナットを仮締めする

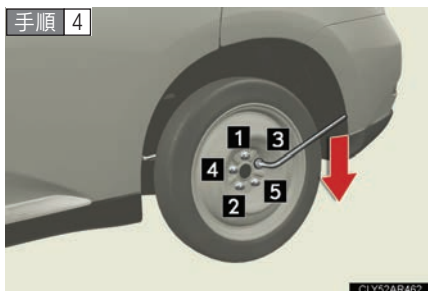
ナットのテーパ部がホイールのシート部に軽くあたるまでまわす。

手順 3



車体を下げる

手順 4



図の番号順でナットを 2、3 度しっかり締め付ける

締め付けトルク：

103 N・m (1050 kgf・cm)

手順 5 すべての工具・ジャッキ・パンクしたタイヤを収納する

 知識

■ 応急用タイヤについて

- タイヤの側面に TEMPORARY USE ONLY と書かれています。応急用にのみ使用してください。
- 空気圧を必ず点検してください。(→P. 374)

■ 雪道・凍結路で前輪がパンクしたときは

- 手順 1** 後輪を応急用タイヤと交換する
- 手順 2** パンクした前輪をはずした後輪と交換する
- 手順 3** タイヤチェーンを前輪に装着する

 警告

■ 応急用タイヤを使用するときは

- お客様のお車専用になっているため、他の車には使用しないでください。
- 同時に2つ以上の応急用タイヤを使用しないでください。
- できるだけ早く通常のタイヤと交換してください。
- 急加速、急ハンドル、急ブレーキやシフト操作による急激なエンジンブレーキの使用は避けてください。

**警告****■ 応急用タイヤ装着中は**

正確な車両速度が検出できない場合があります、以下のシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

- ABS
- ブレーキアシスト
- VSC
- TRC
- S-VSC *
- VDIM *
- ナビゲーションシステム
- クリアランスソナー*
- バックガイドモニター*
- クルーズコントロール*
- レーダークルーズコントロール*
- プリクラッシュセーフティシステム*

また、以下のシステムは、性能が十分に発揮できないばかりでなく、駆動系部品に悪影響を与えるおそれがあります。

- AWD システム*

■ 応急用タイヤ使用時の速度制限

応急用タイヤを装着しているときは、100 km/h 以上の速度で走行しないでください。

応急用タイヤは、高速走行に適していないため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

 警告**■ ジャッキの使用について**

ジャッキの取り扱いを誤ると、車が落下して重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

以下のことをお守りください。

- ジャッキはタイヤ交換・タイヤチェーン取り付け・取りはずし以外の目的で使用しない
 - 備え付けのジャッキは、お客様の車にしか使うことができないため、他の車に使ったり他の車のジャッキをお客様の車に使用したりしない
 - ジャッキセット位置に正しくジャッキがかかっていることを確かめる
 - ジャッキで支えられている車の下に体を入れない
 - ジャッキで支えられている状態で、エンジンをかけたり走らせない
 - 車内に人を乗せたまま車を持ち上げない
 - 車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下にものを載せない
 - 車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
 - 車の下にもぐり込んで作業する場合は、ジャッキスタンドを使用する
- 車両を下げる際は特に、ご自身や周囲の人がけがをしないよう注意してください。

■ タイヤ交換について

- 次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

 - ・ 走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください。走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているためタイヤ交換などで手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。
 - ・ 破損したホイールオーナメントを使用しないでください。走行中に脱落するおそれがあります。

警告

- 次のことをお守りいただかないとナットがゆるみ、ホイールがはずれ落ち、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
 - ・ ねじ部にオイルやグリースをぬらない
ナットを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。
またナットがゆるみホイールが落下して、重大な事故につながるおそれがあります。オイルやグリースがねじ部についている場合は拭き取ってください。
 - ・ ホイールの交換後はすぐに 103 N・m (1050 kgf・cm) の力でナットを締める
 - ・ タイヤの取り付けには、使用しているホイール専用のナットを使用する
 - ・ ボルトやナットのねじ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、レクサス販売店で点検を受ける
- タイヤ交換などをする際は、パワーバックドアメインスイッチ (→P. 51) を OFF にしてください。OFF にしないと、誤ってパワーバックドアスイッチを操作したときにバックドアが動き、指や手などを挟んでけがをするおそれがあります。

注意

■ バンクしたままの走行について

タイヤがパンクした状態で走行を続けないでください。
短い距離の運転でも、タイヤとホイールが修理できないほどの損傷になります。

■ 応急用タイヤ装着中は段差に注意

応急用タイヤ装着中は、標準タイヤ装着時に比べ車高が低くなっています。段差を乗り越えるときはご注意ください。

■ 応急用タイヤ使用時のタイヤチェーン装着

応急用タイヤには、タイヤチェーンを装着しないでください。
タイヤチェーンが車体側に当たり、走行に悪影響をおよぼすおそれがあります。

エンジンがかからないときは

正しいエンジンのかけ方（→P. 148）に従っても、エンジンがかからないときは、以下のことを確認してください。

■ **スターターは正常にまわっているのにエンジンがかからない場合**

以下の原因が考えられます。

- 燃料が入っていない可能性があります。
給油してください。
- 燃料を吸い込みすぎている可能性があります。
再度、正しい手順（→P. 148）に従って、エンジンをかけてください。
- エンジンイモビライザーシステムに異常がある可能性があります。
（→P. 101）

■ **スターターがゆっくりまわる／室内灯・ヘッドランプが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合**

以下の原因が考えられます。

- バッテリーあがりの可能性があります。（→P. 358）
- バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。

■ **スターターがまわらない**

電装品の断線やヒューズ切れなど、電気系統異常の可能性があります。異常の種類によっては、エンジンを一時的な処置でかけることができます。（→P. 352）

■ **スターターがまわらない／室内灯・ヘッドランプが点灯しない／ホーンが鳴らない場合**

以下の原因が考えられます。

- バッテリーのターミナルがはずれている可能性があります。
- バッテリーあがりの可能性があります。（→P. 358）
- ステアリングロックシステムに異常がある可能性があります。

処置のしかたがわからないとき、あるいは処置をしてもエンジンがかからないときは、レクサス販売店にご連絡ください。

緊急始動機能

通常のエンジン始動操作でエンジンが始動しないときは、以下の手順でエンジンが始動する場合があります。緊急時以外は、この方法で始動させないでください。

手順 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

手順 2 シフトレバーが P の位置にあることを確認する

手順 3 “エンジン スタート ストップ” スイッチをアクセサリモードにする

手順 4 ブレーキペダルをしっかりと踏んで “エンジン スタート ストップ” スイッチを約 15 秒以上押し続ける

上記の方法でエンジンが始動しても、システムの故障が考えられます。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

シフトレバーがシフトできないときは

ブレーキペダルを踏んだ状態でシフトレバーがシフトできない場合、シフトロックシステム（シフトレバーの誤操作を防ぐ装置）などの故障が考えられます。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

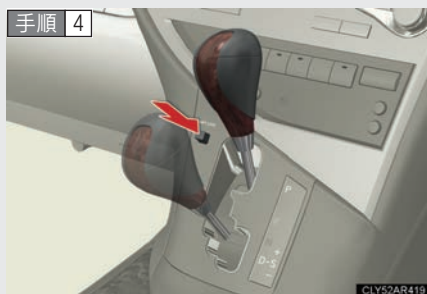
ただし一時的な処置として、以下の方法でシフトレバーをシフトすることができます。

手順 1 パーキングブレーキをかける

手順 2 “エンジン スタート ストップ” スイッチをアクセサリモードにする

手順 3 ブレーキペダルを踏む

手順 4



シフトロック解除ボタンを押す

ボタンを押しているあいだは、レバーをシフトできます。

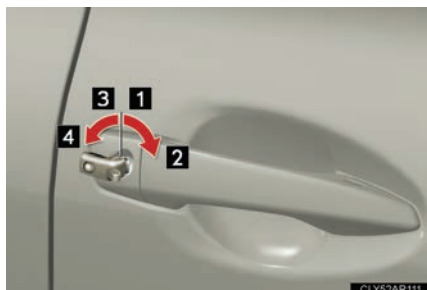
キーを無くしたときは

キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りのキーから、レクサス販売店でレクサス純正品の新しいキーを作ることができます。
(→P. 26)

電子キーが正常に働かないときは

電子キーと車両間の通信がさまたげられたり（→P. 37）、電子キーの電池が切れたときは、スマートエントリー&スタートシステムとワイヤレスリモコンが使用できなくなります。このような場合、以下の手順でドアを開けたり、エンジンを始動したりすることができます。

ドアの施錠・解錠とキー連動操作



メカニカルキー（→P. 27）を使って操作します。（運転席ドアのみ）

- 1 全ドア施錠
- 2 ドアガラス・ムーンルーフ*が閉まる（まわし続ける）
- 3 全ドア解錠
- 4 ドアガラス・ムーンルーフ*が開く（まわし続ける）

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

エンジン始動の方法

手順 1 シフトレバーがPの状態ブレーキペダルを踏む



電子キーのレクサスエンブレム面で、“エンジン スタート ストップ”スイッチに触れる

この操作中にいずれかのドアが開閉されると、スマートエントリー&スタートシステムが“エンジン スタート ストップ”スイッチに触れた電子キーを正しく検知できず警告音が鳴ります。



手順 3 ブザーが鳴ってから 10 秒以内に、ブレーキペダルをしっかりと踏み込んで、“エンジン スタート ストップ”スイッチを押す
処置をしても作動しないときは、レクサス販売店にご連絡ください。

 知識

■ エンジンの停止のしかた

通常のエンジンの停止のしかたと同様、シフトレバーを P にして “エンジン スタート ストップ” スイッチを押します。

■ 電池交換について

ここで説明しているエンジンの始動方法は一時的な処置です。電池が切れたときは、ただちに電池の交換をおすすめします。(→P. 303)

■ “エンジン スタート ストップ” スイッチのモードの切りかえ

ブザーが鳴ってから 10 秒以内に、ブレーキペダルから足を離して “エンジン スタート ストップ” スイッチを押すと、エンジンが始動せず、スイッチを押すごとにモードが切りかわります。(→P. 149)

 警告

■ メカニカルキーを使ってドアガラスやムーンルーフを操作するとき

ドアガラスやムーンルーフに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、メカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスやムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

バッテリーがあがったときは

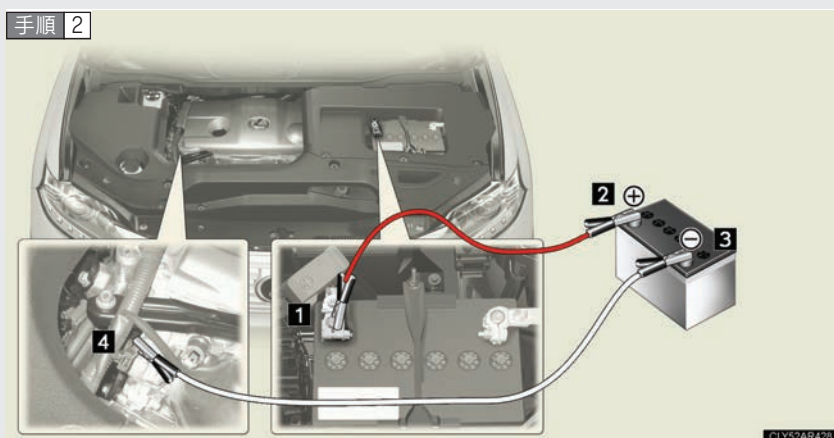
バッテリーがあがった場合、以下の手順でエンジンを始動することができます。

ブースターケーブルと 12 V のバッテリー付き救援車があれば、以下の手順に従って、エンジンを始動させることができます。

手順 1 ボンネットを開けて、バッテリーカバーをはずす
(→P. 279)

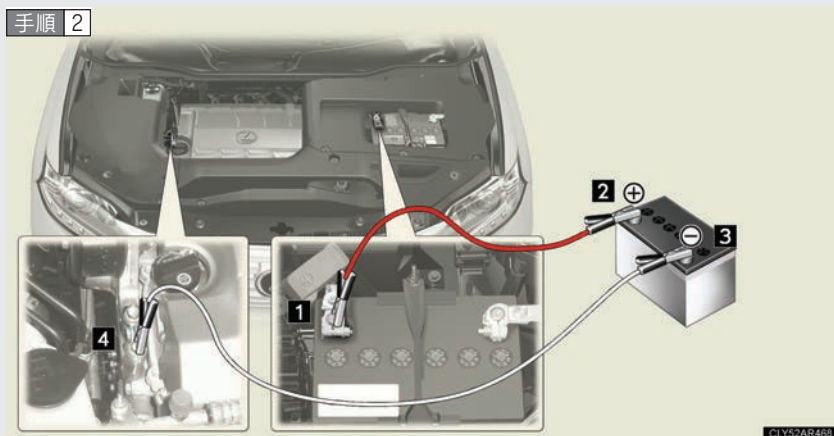
▶ RX270

手順 2



▶ RX350

手順 2



バッテリーの+端子のカバーをはずし、ブースターケーブルを以下の順につなぐ

- 1 赤色のブースターケーブルを自車のバッテリーの+端子につなぐ
- 2 赤色のブースターケーブルのもう一方の端を救援車のバッテリーの+端子につなぐ
- 3 黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの-端子につなぐ
- 4 黒色のブースターケーブルのもう一方の端をバッテリーから離れた、未塗装の金属部（図に示すような固定された部分）につなぐ
- 手順 3 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約 5 分間自車のバッテリーを充電する
- 手順 4 “エンジン スタート ストップ” スイッチが OFF の状態で、いずれかのドアを開閉する
- 手順 5 救援車のエンジン回転を維持したまま、“エンジン スタート ストップ” スイッチをいったんイグニッション ON モードにしてから、自車のエンジンをかける
- 手順 6 自車のエンジンが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順ではずす

エンジンがかかっても、早めにレクサス販売店で点検を受けてください。

 知識

■ バッテリーあがり時の始動について

この車両は、押しがけによる始動はできません。

■ バッテリーあがりを防ぐために

- エンジンがかかっていないときは、ランプやオーディオの電源を切ってください。
- 渋滞などで長時間止まっているときは、不要な電装品の電源を切ってください。

■ バッテリーがあがってしまった場合は

コンピューターに記憶されている情報が消去されます。バッテリーがあがったときは、レクサス販売店で点検を受けてください。

■ バッテリーあがり時や取りはずし時は

バッテリーを充電・交換する場合は、車内にキーがないことを確認してください。オートアラームが作動するとキーが車内に閉じ込められるおそれがあります。
(→P. 104)

■ バッテリーの充電について

バッテリーの電力は、車両を使用していないあいだも、一部の電装品による消費や自然放電のために、少しずつ消費されています。そのため、車両を長期間放置すると、バッテリーがあがってエンジンを始動できなくなるおそれがあります。(バッテリーは走行中に自動で充電されます)

警告

■ バッテリーの引火または爆発を防ぐために

バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、火や火花が発生しないよう、次のことをお守りください。

- ブースターケーブルは正しい端子以外に接続しない
- ブースターケーブルは+側と-側の端子を絶対に接触させない
- バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない

■ バッテリーの取り扱いについて

バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、以下のことを必ずお守りください。

- バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、液（酸）が皮膚・衣服・車体につかないようにする
- バッテリーに寄りかかったりしない
- 必要以上、顔や頭などをバッテリーに近付けない
- 誤ってバッテリー液が体に付着したり目に入ったりした場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診察を受ける
また、医師の診察を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部にあてておく
- 誤ってバッテリー液を飲み込んだ場合、多量の水を飲んで、すぐに医師の診察を受ける
- バッテリーの支柱、ターミナル、その他の関連部品の取り扱い後は手を洗う
- お子さまをバッテリーに近づけない

注意

■ ブースターケーブルの取り扱いについて

ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、冷却ファンやベルトに巻き込まれないように十分注意してください。

オーバーヒートしたときは

次のような場合は、オーバーヒートの可能性があります。

- 「エンジンオーバーヒート」がマルチインフォメーションディスプレイに表示
- エンジンルームから蒸気が出る

対処方法

手順 1 安全な場所に停車し、エアコンを OFF にしてから、エンジンを停止する

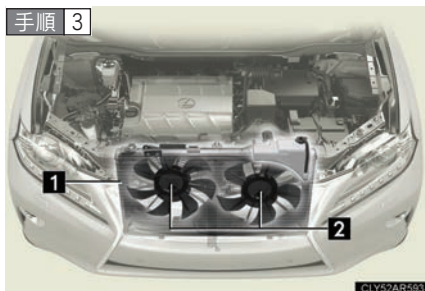
手順 2 蒸気が出ている場合：

蒸気が出なくなったことを確認してから、注意してボンネットを開ける

蒸気が出ていない場合：

注意してボンネットを開ける

手順 3



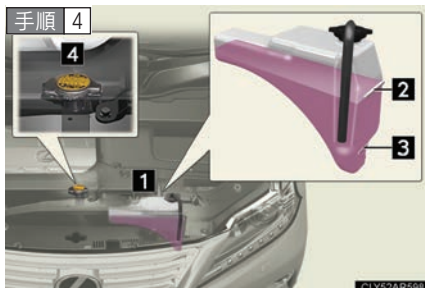
エンジンが十分に冷えてから、ラジエーターコア部（放熱部）やホースなどからの冷却水もれを点検する

1 ラジエーター

2 ファン

多量の冷却水もれがある場合は、ただちにレクサス販売店に連絡してください。

手順 4



冷却水の量がリザーバータンクの “FULL”（上限）と “LOW”（下限）のあいだにあるかを点検する

1 リザーバータンク

2 “FULL”（上限）

3 “LOW”（下限）

4 ラジエーターキャップ



冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する（→P. 278）

冷却水がない場合は、応急措置として水を補給してください。

手順 6 エンジンを始動し、エアコンを作動させてラジエーター冷却用のファンが作動しているか、およびラジエーターコアやホースなどから冷却水もれがないことを再度確認する

エンジンが冷えた状態での始動直後は、エアコンを ON にすることでファンが作動します。ファンの音や風で確認してください。わかりにくいときは、エアコンの ON/OFF をくり返してください。

（ただし、氷点下となる寒冷時はファンが作動しないことがあります）

手順 7 ファンが作動していない場合：

すぐにエンジンを停止し、レクサス販売店に連絡する

ファンが作動している場合：

最寄りのレクサス販売店で点検を受ける

警告

■ エンジンルーム点検中の事故やけがを防ぐために

- エンジンルームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンルーム内が高温になっているため、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）をファンやベルトから離してください。手や着衣が巻き込まれ、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- エンジンおよびラジエーターが熱いうちはラジエーターキャップを開けないでください。
高温の蒸気や冷却水が圧力によって噴き出し、やけどなどの重傷を負うおそれがあり危険です。

 注意

■ 冷却水を入れるときの注意

エンジンが十分に冷えてから入れてください。

冷却水はゆっくり入れてください。

エンジンが熱いときに急に冷たい冷却水を入れると、エンジンが損傷するおそれがあります。

■ 冷却システムの故障を防ぐために

次のことをお守りください。

- 異物（砂やほこりなど）を冷却水に混入させない
- 冷却水添加剤を使用しない

スタックしたときは

ぬかるみや砂地、雪道などでタイヤが空転したり埋まり込んで動けなくなったときは次の方法で脱出してください。

- 【手順 1】 パーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P にしてエンジンを停止する
- 【手順 2】 前輪周辺の土や雪を取り除く
- 【手順 3】 前輪の下に木や石などをあてがう
- 【手順 4】 エンジンを再始動する
- 【手順 5】 AWD 車 : AWD LOCK モードスイッチを押して ON にする (→P. 216)
- 【手順 6】 シフトレバーを D または R に確実に入れ、注意しながらアクセルを踏む

知識

■ 脱出しにくいときは



VSC OFF スイッチを押して TRC を OFF にしてください。

 警告

■ **脱出するときは**

前進と後退を繰り返してスタックから脱出する場合、他の車、ものまたは人との衝突を避けるため周囲に何も無いことを確認してください。

スタックから脱出するとき、車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、特に注意してください。

■ **シフトレバーを操作するときは**

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。

車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

 注意

■ **トランスミッションやその他の部品への損傷を避けるために**

- タイヤが空転するのを避け、必要以上にアクセルペダルを踏まないでください。
- 上記の方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。

車両を緊急停止するには

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、以下の手順で車両を停止させてください。

手順 1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続ける。

ブレーキペダルを繰り返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。

手順 2 シフトレバーを N に入れる。

▶ シフトレバーが N に入った場合

手順 3 減速後、車を安全な道路脇に停める。

手順 4 エンジンを停止する。

▶ シフトレバーが N に入らない場合

手順 3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる。

手順 4



“エンジン スタート ストップ” スイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してエンジンを停止する。

手順 5 車を安全な道路脇に停める。

⚠ 警告

■ 走行中にやむを得ずエンジンを停止するときは

ブレーキの効きが悪くなると共にハンドルが重くなるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。エンジンを停止する前に、十分に減速するようにしてください。

6-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ
(指定燃料、
オイル量など) 370

6-2 カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ
機能一覧 377

6-3 初期設定

初期設定が必要な項目 384

メンテナンスデータ（指定燃料、オイル量など）

使用するオイルや液類の品質により、お車の寿命は著しく左右されます。お車には、最も適した弊社純正オイル・液類（以下、「指定銘柄」といいます）のご使用をおすすめします。

指定銘柄以外を使用される場合は、指定銘柄に相当する品質のものをご使用ください。

燃料

▶ RX270

指定燃料	容量 [L]（参考値）
無鉛レギュラーガソリン	72

▶ RX350

指定燃料	容量 [L]（参考値）
無鉛プレミアムガソリン（無鉛ハイオク）	72

エンジンオイル

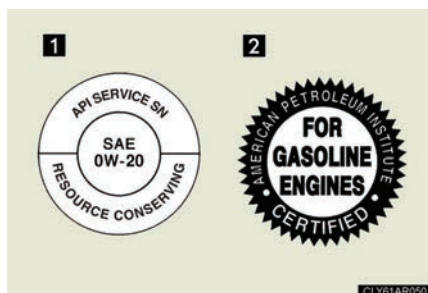
指定銘柄		容量 [L] (参考値※ ¹)	
		オイルのみ 交換	オイルと オイル フィルター 交換
弊社純正モーターオイル SN 0W-20 ※ ² — API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 0W-20 弊社純正モーターオイル SN 5W-20 — API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 5W-20 弊社純正モーターオイル SN 5W-30 — API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 5W-30	RX270	4.0	4.4
弊社純正モーターオイル SN 10W-30 — API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 10W-30	RX350	5.7	6.1

※¹ エンジンオイルの容量は交換する際の目安です。オイル量の確認は、エンジンを暖機後に停止し、5分以上経過してからレベルゲージで行ってください。

※² 0W-20 は上記表の指定銘柄の中では、最も省燃費性に優れるオイルです。

■ 指定エンジンオイル

API 規格 SN/RC、SM/EC か、ILSAC 規格合格油をおすすめします。なお、ILSAC 規格合格油の缶には ILSAC CERTIFICATION（イルサックサーティフィケーション）マークが付いています。

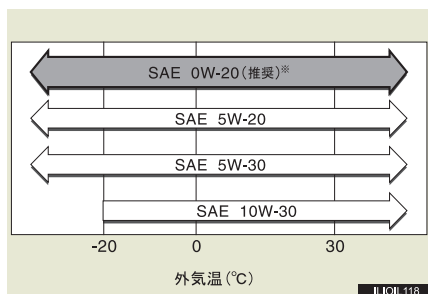


1 API マーク

2 ILSAC CERTIFICATION マーク

■ エンジンオイル推奨粘度

下記図に基づき、外気温に適した粘度のものをご使用ください。



※0W-20 は新車時に充填されており、上記図に示す中では、最も省燃費性に優れるオイルです。

オイル粘度について（例として 0W-20 で説明します）：

- ・ 0W-20 の 0W は、低温時のエンジン始動特性を示しています。W の前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。
- ・ 0W-20 の 20 は、高温時の粘度特性を示しています。粘度の高い（数値が大きい）オイルは高速または重負荷走行に適しています。

ラジエーター

指定銘柄	容量 [L] (参考値)
弊社純正スーパーロングライフクーラント 凍結保証温度 濃度 30% -12 ℃ 濃度 50% -35 ℃	▶ RX270 6.7 ▶ RX350 8.6

オートマチックトランスミッション

指定銘柄	駆動方式	容量 [L] (参考値)
弊社純正オートフルード WS	FF (前輪駆動)	6.5
	AWD (4 輪駆動)	6.7

トランスファー (AWD 車)

指定銘柄 (推奨粘度)	容量 [L] (参考値)
弊社純正ディファレンシャルギヤオイル LT (API GL-5, SAE 75W-85)	0.8

リヤディファレンシャル (AWD 車)

指定銘柄 (推奨粘度)	容量 [L] (参考値)
弊社純正ディファレンシャルギヤオイル LT (API GL-5, SAE 75W-85)	0.5

ブレーキ

■ ブレーキフルード

指定銘柄
弊社純正ブレーキフルード 2500H-A

■ ブレーキペダル

項目	基準値 [mm]
遊び	1 ～ 6
踏み込んだときの床板とのすき間※	93

※ 500 N (51 kgf) の踏力をかけたときの床板とのすき間の最小値

■ パーキングブレーキ

項目	基準値 (回数)
踏みしろ 操作力 300 N (31 kgf) のときのノッチ※数	7 ～ 10

※ ノッチとは、パーキングブレーキをかけるときの節度（“カチツ” という音）のことです。

ウォッシャー

容量 [L] (参考値)
4.8

タイヤ・ホイール

タイヤサイズ		ホイールサイズ	タイヤが冷えているときの 空気圧 kPa (kg/cm ²)
標準 タイヤ	235/60R18 103H	18 × 7 1/2J	220 (2.2)
	235/55R19 101V	19 × 7 1/2J	
応急用 タイヤ	T165/90D18 107M	18 × 4T	420 (4.2)

電球（バルブ）

電球		W（ワット）数
車外	ヘッドランプ ハイビーム（バルブタイプ：H9） ロービーム	65 LED※
	車幅灯／LED デイライト	LED※
	フロントフォグランプ（バルブタイプ：H16）	19
	フロント方向指示灯／非常点滅灯	21
	サイド方向指示灯／非常点滅灯	LED※
	リヤ方向指示灯／非常点滅灯	21
	制動灯	LED※
	尾灯	5
	後退灯	16
	リヤフォグランプ*	21
	ハイマウントストップランプ	LED※
	番号灯	LED※
	ドアミラー照明	5

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

電球		W (ワット) 数
車内	バニティミラーランプ	8
	フロントインテリアランプ	5
	リヤインテリアランプ	8
	フロントパーソナルランプ	LED ※
	リヤパーソナルランプ	LED ※
	シフト照明	LED ※
	スカッフプレート照明*	LED ※
	ドアカーテシーランプ	5
	足元照明	3.8
	グローブボックスランプ	LED ※
	コンソールボックスランプ	LED ※
	ラゲージルームランプ	5

※ LED は、Light Emitting Diodes（発光ダイオード）の略で、半導体発光電子素子です。

車両仕様

名称	型式	エンジン	電動機型式	駆動方式
RX270	AGL10W	1AR-FE (2.7L ガソリン)	—	FF（前輪駆動）
RX350	GGL10W	2GR-FE (3.5L ガソリン)	—	FF（前輪駆動）
	GGL15W	2GR-FE (3.5L ガソリン)	—	AWD（4 輪駆動）

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

ユーザーカスタマイズ機能一覧

車には、設定を変更することが可能な数多くの装備がついています。レクサス販売店で作動などをご希望の設定に変更することができます。

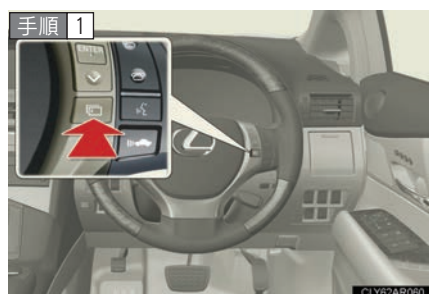
また、マルチインフォメーションスイッチや、ナビゲーションシステムの画面操作により設定を変更することができる機能もあります。

機能によっては、他の機能と連動して設定が変わるものもあります。詳しくはレクサス販売店へお問い合わせください。

車両カスタマイズ設定をする

マルチインフォメーションスイッチを操作して、車の装備の設定を変更することができます。※

車両のカスタマイズを行うために、安全に操作することができる場所に停車し、シフトレバーをPの状態にしたうえで、パーキングブレーキをかけます。



マルチインフォメーションスイッチのメニュースイッチを長押しすると、カスタマイズモードが表示されます。



1 ▲▼ スイッチを押してカスタマイズしたい項目を選択

2 ENTER スイッチを押す



- 1 H/V スイッチを押してカスタマイズする項目の設定値を選択
- 2 ENTER スイッチを押す

カスタマイズ設定を終了する場合はメニュースイッチを押し、カスタマイズ設定画面を終了します。

※ナビゲーション画面でのカスタマイズ設定の操作は、別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照ください。

車両カスタマイズ設定一覧

- 1 ナビゲーションシステムの画面操作で設定変更可能
- 2 マルチインフォメーションスイッチの操作で設定変更可能
- 3 1の操作が不可能な場合にマルチインフォメーションスイッチの操作で設定変更可能
- 4 レクサス販売店で設定変更可能

項目	機能の内容	初期設定	変更後	1	2	3	4
ドアロック (→P. 45, 355)	メカニカルキーによる解錠	1 回で全ドア解錠	1 回で運転席ドア解錠、連続 2 回で全ドア解錠	○	—	—	○
	車速感应式ドアロック	あり	なし	○	—	○	○
	シフトレバーを P 以外にしたときの全ドア施錠	なし	あり	○	—	○	○
	シフトレバーを P にしたときの全ドア解錠	あり	なし	○	—	○	○

項目	機能の内容	初期設定	変更後	1	2	3	4
ドアロック (→P. 45, 355)	運転席を開けたときの全ドア解錠	なし	あり	○	—	○	○
スマートエントリー&スタートシステム、ワイヤレスドアロック (→P. 31, 42)	作動の合図 (ブザー)	あり	なし	○	—	○	○
	作動の合図 (非常点滅灯)	あり	なし	○	—	○	○
	作動の合図 (ブザー音量調整)	レベル 7	OFF ~ レベル 6	○	—	○	○
	半ドア警告ブザー	あり	なし	—	—	—	○
	解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠までの時間	30 秒	60 秒	—	—	—	○
			120 秒				
スマートエントリー&スタートシステム (→P. 31)	解錠ドアの選択	全席	運転席	○	—	○	○
	スマートエントリー&スタートシステム	あり	なし	○	—	○	○
ワイヤレスドアロック (→P. 42)	解錠時の操作	1 回で全ドア解錠	1 回で運転席ドアのみ解錠、連続 2 回で全ドア解錠	○	—	○	○
パワーバックドア (→P. 49)	バックドアオープンスイッチでの作動	あり	なし	—	—	—	○
ランプ自動点灯・消灯システム (→P. 182)	ランプセンサーの感度調整	標準	-2 ~ 2	○	—	○	○
	ランプが点灯するまでの時間	標準	長め	—	—	—	○
ランプ (→P. 182)	LED デイライトの点灯	あり	なし	—	—	—	○

項目	機能の内容	初期設定	変更後	1	2	3	4
イルミネーション (→P. 232)	消灯までの時間	15 秒	7.5 秒	○	—	○	○
			30 秒				
	ドアミラー照明の点灯時間	15 秒	7.5 秒	○	—	○	○
			30 秒				
	“エンジンスタートストップ” スイッチ OFF 後の作動	あり	なし	—	—	—	○
	解錠時の照明の点灯	あり	なし	—	—	—	○
	接近時の照明の点灯	あり	なし	—	—	—	○
	室内照明の点灯制御	する	しない	○	—	○	○
エアコン (ナビゲーションシステム取扱書参照)	室外照明の点灯制御	する	しない	○	—	○	○
	シフト照明の点灯	あり	なし	—	—	—	○
	AUTO スイッチが ON のとき、連動して外気導入と内気循環を自動的に切りかえる	する	しない	○	—	—	○
	AUTO スイッチを ON にしたとき、A/C (エアコン) スイッチが連動して ON になる	する	しない	○	—	—	○
	排ガスセンサーの感度	標準	-3 ~ 3	○	—	—	○

項目	機能の内容	初期設定	変更後	1	2	3	4
ドライビングポジションメモリー (→P. 65)	降車時の運転席シート移動量調節*	標準	OFF	○	—	○	○
			-1	○	—	○	○
	スマートエントリー&スタートシステムでドアを開けたときのドライビングポジションの呼び出し対象ドアの選択	運転席	全席	—	—	—	○
メーター (→P. 140)	エコドライブインジケータランプ作動	する	しない	—	○	○	○
マルチインフォメーションディスプレイ (→P. 169)	降車時窓閉め提案	する	しない	—	○	—	○
クリアランスソナー (ナビゲーションシステム取扱書参照)	フロントセンターセンサー報知距離	遠い	近い	○	—	—	○
	リヤセンターセンサー報知距離	遠い	近い	○	—	—	○
	ブザーの音量	3	1～5	○	—	—	○
	表示の切りかえ (ノーマルクリソナ時)	すべて表示	ソナー表示なし	○	—	—	○

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

項目	機能の内容	初期設定	変更後	1	2	3	4
パワーウィンドウ (→P. 85)	ドアキー連動開閉機能	あり	なし	—	—	—	○
	ワイヤレスリモコン連動開閉機能	なし	あり	—	—	—	○
	ワイヤレスリモコン連動作動合図 (ブザー)	あり	なし	—	—	—	○
ムーンルーフ (→P. 90)	ドアキー連動開閉機能	あり	なし	—	—	—	○
	ワイヤレスリモコン連動開閉機能*	なし	あり	—	—	—	○
	ドアキー連動作動時の開閉部位	スライドのみ	チルトのみ	—	—	—	○
	ワイヤレスリモコン連動作動時の開閉部位	スライドのみ	チルトのみ	—	—	—	○

* ワイヤレスリモコンでのパワーウィンドウ開閉が可能でなければ設定できません。



■ 以下の状態になるとカスタマイズモードが自動的に終了します。

- カスタマイズモード画面表示後に警告メッセージが表示された。
- “エンジン スタート ストップ” スイッチが OFF になった。
- カスタマイズモード画面表示中に走行し始めた。

 警告**■ カスタマイズを行うときの警告**

エンジンを始動した状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 注意**■ カスタマイズを行うときは**

バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にエンジンがかかっている状態で実施してください。

初期設定が必要な項目

以下の項目はバッテリーを再接続したり、メンテナンスを行った後などに、システムを正しく動かせるために初期設定が必要です。

項目	初期設定が必要なとき	参照
パワーバックドア	バッテリーの充電・交換後の再接続時	P. 49

さくいん

略語一覧..... 386

五十音順さくいん 387

症状別さくいん 399

次の装備は、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」をお読みください。

- ・ GPS ボイスナビゲーション
- ・ エアコン・デフォッガー
- ・ バックガイドモニター
- ・ クリアランスソナー
- ・ ITS スポット対応 DSRC システム（ETC 機能付）
- ・ オーディオ&ビジュアル
- ・ リヤウインドウデフォッガー&ミラーヒーター

アルファベット略語一覧

アルファベット略語	カタカナ表記
2WD	2 ホイールドライブ
4WD	4 ホイールドライブ
ABS	アンチロックブレーキシステム
AFS	アダプティブフロントライティングシステム
AI-SHIFT	アーティフィカルインテリジェンスシフト
AWD	オールホイールドライブ
ECO	エコノミー／エコロジー
ECT	エレクトリックコントロールドトランスミッション
ECU	エレクトリックコントロールユニット
EDR	イベントデータレコーダー
EPS	エレクトリックパワーステアリング
ETC	エレクトロニックトールコレクション
FF	フロントエンジンフロントドライブ
HUD	ヘッドアップディスプレイ
LED	ライトエミッティングダイオード
PCS	プリクラッシュセーフティシステム
SRS	サプリメンタルレストレイントシステム
S-VSC	ステアリングアシステッドピークルスタビリティコントロール
TRC	トラクションコントロール
VDIM	ピークルダイナミクスインテグレイテッドマネージメント
VSC	ピークルスタビリティコントロール

あ	アームレスト.....	252
	アクセサリーコンセント.....	246
	アクセサリーソケット.....	246
	アクティブトルクコントロール 4WD システム.....	210
	アシストグリップ.....	254
	足元照明.....	232
	アダプティブフロントライティング システム.....	183
	アンダートレイ.....	243
	アンチロックブレーキシステム.....	210
い	イグニッションスイッチ.....	148
	イベントデータレコーダー.....	22
	イモビライザーシステム.....	101
	イルミネーテッドエントリー システム.....	232
	インストルメントパネル 照度調整スイッチ.....	164
	インテリアランプ スイッチ.....	233
	インナーミラー.....	78

う	ウインカー W 数.....	375
	スイッチ.....	160
	電球の交換.....	280
	ウインドウ ウォッシュャー.....	187
	パワーウインドウ.....	85
	ウインドウロックスイッチ.....	85
	ウインドシールドデアイサー※	
	ウォーニングランプ.....	322
	ウォッシュャー 液の補給.....	305
	スイッチ.....	187
	タンク容量.....	374
	冬の前の準備・点検.....	228
	運転 寒冷時の運転.....	228
	正しい姿勢.....	108
	手順.....	138
	運転席シートベルト 非着用警告灯.....	324

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照ください。

え

AUX※

AWD ロックモードスイッチ..... 216

LED テイライト

LED テイライト..... 184

W 数..... 375

電球の交換..... 280

ライトスイッチ..... 182

エアコン※

エアコン・デフォッガー※

エアバッグ

SRS エアバッグ..... 110

一般的な警告..... 115

お子さまのための注意..... 115

カーテンシールドエアバッグに

関する警告..... 115

カーテンシールドエアバッグの

作動条件..... 112

改造・分解..... 118

警告灯..... 323

サイドエアバッグに

関する警告..... 115

サイドエアバッグの作動条件... 112

作動条件..... 111

正しい姿勢..... 108

配置..... 110

エコドライブモード..... 154

エネルギーモニター..... 172

エレクトリック

パワーステアリング..... 210

エンジン

イグニッション

スイッチ..... 148

エンジン回転計..... 163

エンジンがかからない..... 351

エンジン警告灯..... 323

エンジンスイッチ..... 148

エンジンの始動方法..... 148

エンジンルームカバー..... 278

オーバーヒート..... 362

ボンネット..... 274

エンジンイモビライザー

システム..... 101

エンジンオイル

冬の前の準備・点検..... 228

容量..... 371

お

応急用タイヤ

空気圧 374

収納場所 342

オーディオ※

オートアラーム 102

オートマチックトランスミッション

S モード 156

オートマチックトランス

ミッション 153

シフトレバー^g

シフトできない 353

オートレベリングシステム 184

オーバーヒート

(エンジン) 362

オープナー

給油口 97

バックドア 49

ボンネット 274

お子さまの安全のために

ウインドウロックスイッチ 85

エアバッグに関する警告 115

お子さまのシートベルト着用 73

シートヒーターに関する警告 ... 251

シートベルトに関する警告 74

チャイルドシート 129

チャイルドシートの固定 129

チャイルドプロテクター 46

電子キーの電池に関する

警告 304

電動サンシェードに関する

警告 96

バックドアに関する警告 54

バッテリーに関する

警告 361

パワーウインドウに

関する警告 88

ムーンルーフに関する警告 93

オドメーター 163

か

カーテンシールドエアバッグ 110

カードキー 26

外気温表示※ 170

カスタマイズ機能 377

カップホルダー 238

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照ください。

き

キー

エンジンスイッチ	148
キー	26
キーナンバー	26
キーレスエントリー	42
キーを無くした	354
電子キー	26
電子キーが正常に働かない	355
メカニカルキー	26
ワイヤレスドアロック	42

給油口	97
-----	----

緊急時の対処

エンジンがかからない	351
オーバーヒートした	362
キーを無くした	354
警告灯がついた	322
警告メッセージが表示された	326
けん引	312
故障したときは	308
シフトレバーが	
シフトできない	353
車両を緊急停止する	367
スタックした	365
電子キーが正常に働かない	355
発炎筒	310
パンクした	342
バッテリーがあがった	358

緊急ブレーキシグナル	211, 219
------------	----------

<

空気圧 (タイヤ)	374
区間距離計	163
曇り取りスイッチ※	
クリアランスソナー※	
クルーズコントロール	
クルーズコントロール	194
レーダークルーズ	
コントロール	198
グローブボックス	236

け

計器

メーター	163
メーター照度調整スイッチ	164

警告灯

SRS エアバッグ	323
アンチロックブレーキ	
システム	323
エンジン	323
シートベルト非着用	324
充電	322
スリップ表示灯	323
燃料残量	324
パワーステアリング	323
半ドア	324
ブリクラッシュセーフティ	
システム	323
プリテンショナー	323
ブレーキ	323
ブレーキアシスト	323
マスターウォーニング	324

警告表示

AFS	328
AWD	327, 328, 332
ウォッシュャー液量	332
エンジンオイル圧力	327
オートマチックトランス	
ミッション油温	332
クリアランスソナー	328, 332
ステアリングロック	328
スマートエントリー&	
スタートシステム	336
ドア	332
パーキングブレーキ	332
ブリクラッシュセーフティ	
システム	328, 332
ブレーキ液量	326
ヘッドランプオート	
レベリングシステム	328
ボンネット	332
ムーンルーフ	332
レーダークルーズ	
コントロール	328, 332
警告ブザー	
シートベルト非着用	324
半ドア	324
ブレーキ	322
化粧用ミラー	245
けん引	312

こ

コインホルダー	242
交換	
タイヤ	342
電球	280
電子キーの電池	303
ヒューズ	294
工具	342
後席 7 型ワイドディスプレイ※	
後退灯	
W 数	375
電球の交換	280
コートフック	253
コンソールボックス	240
コンライト	
(自動点灯・消灯装置)	182

さ

サイドエアバッグ	110
サイドモニターシステム※	80
サンシェード	
ルーフ	91, 95
サンバイザー	244

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照ください。

し

シート

シートヒーター	250
シートポジションメモリー	65
正しい姿勢	108
チャイルドシートの固定	129
調整	59, 62
調整に関する警告	61, 64
手入れ	268
ヘッドレスト	70
ベンチレーター	250

シートベルト

お子さまの着用	73
緊急時シートベルト固定機構	73
シートベルト警告灯	324
シートベルト	
プリテンショナー	73
清掃・手入れ	268
正しい着用	72
チャイルドシートの固定	129
調整	72
妊娠中の方の着用	74

室内灯

スイッチ	233
------------	-----

シフト照明	232
-------------	-----

シフトレバー

オートマチックトランス	
ミッション	153
シフトレバーが	
シフトできない	353

シフトロックシステム	353
------------------	-----

ジャッキ

ガレージジャッキ	276
車載ジャッキ	342

ジャッキハンドル	342
----------------	-----

車幅灯

W 数	375
電球の交換	280
ランプスイッチ	182

車両型式	376
------------	-----

車両仕様	370
------------	-----

車両データの記録	21
----------------	----

収納装備	235
------------	-----

助手席シートベルト

非着用警告灯	324
--------------	-----

す	水温計	163
	スイッチ	
	イグニッション	
	スイッチ	148
	ウインドウロックスイッチ	85
	エンジンスイッチ	148
	ドアロックスイッチ	45
	パドルシフトスイッチ	153
	ハザードランプスイッチ	309
	パワーウインドウスイッチ	85
	非常点滅灯スイッチ	309
	フォグランプスイッチ	185
	ブリクラッシュ	
	ブレーキ OFF	220
	マルチインフォメーション	
	スイッチ	169
	ランプスイッチ	182
	ワイパー＆ウォッシャー	
	スイッチ	187
	スイッチモード	
	AFS	183
	エコドライブモード	154
	クリアランスソナー※	
	スノーモード	155
	スカッフプレート照明	232

スタック	
スタックした	365
ステアリングヒーター	249
ステアリングホイール	
オーディオスイッチ※	
調整	76
ハンドルポジションメモリー	65
スノーモード	155
スピードメーター	163
スペアタイヤ	
空気圧	374
収納場所	342
スペック	370
スマートエントリー&スタートシステム	
エンジンの始動	148
ドアの施錠・解錠	31
バックドアの施錠・解錠	31

せ	積算距離計	163
	清掃	
	外装	264
	シートベルト	268
	内装	268
	洗車	264
	前照灯	
	W 数	375
	スイッチ	182
	電球の交換	280

そ	速度計	163
----------	-----------	-----

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照ください。

た	タイヤ	
	応急用タイヤ	342
	空気圧	374
	交換	342
	チェーン	228
	点検	271
	パンクした	342
	冬用タイヤ	228
	ローテーション	271
	タコメーター	163
ち	チェーン (タイヤチェーン)	228
	チェンジレバー	
	オートマチックトランス	
	ミッション	153
	シフトレバーが	
	シフトできない	353
	チャイルドシート	
	ISOFIX バーでの固定	130
	シートベルトでの固定	130
	チャイルドプロテクター	46
	駐車ブレーキ	161
つ	ツール	342

て	ディスプレイ	
	警告メッセージ	326
	トリップインフォメーション ...	172
	レーダークルーズ	
	コントロール	198
	手入れ	
	外装	264
	シートベルト	268
	内装	268
	テールランプ	
	スイッチ	182
	電球	
	W 数	375
	交換	280
	電子キー	
	正常に働かない	43
	電池が切れた	355
	電動サンシェード	95
	電話スイッチ※	

と

ドア	
ドアガラス	85
ドアミラー	80
ドアロック	31, 42, 45
ドアカーテシーランプ	232
ドアガラス	85
ドアポケット	237
ドアミラー	
調整	80
ミラーポジションメモリー	65
ドアミラー照明	
W 数	375
ドアミラー照明	232
盗難警報アラーム	102
盗難防止システム	
イモビライザー	
システム	101
オートアラーム	102
トークスイッチ※	
トノカバー	259
ドライビングポジションメモリー	65
トラクションコントロール	210
トリップメーター	163

な

ナビゲーションシステム※	
ナビブレーキアシスト※	210

に

荷物	
積むときの注意	226

ね

燃料	
給油	97
種類	370
燃料計	163
容量	370

は

パーキングブレーキ	161
パーソナルランプ	
スイッチ	233
ハザードランプスイッチ	309
発炎筒	310
バックアップランプ	
W 数	375
電球の交換	280
バックガイドモニター※	
バックドア	49
バッテリー	
バッテリーがあがった	358
冬の前の準備点検	228
パドルシフトスイッチ	153
パニティミラー	245

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照ください。

ひ

バニティランプ	
W 数.....	375
バニティランプ	245
バルブ	
W 数.....	375
交換	280
パワーイージーアクセスシステム....	67
パワーウインドウ	85
パワーバックドア	49
バンク	
バンクした	342
ハンドル	
オーディオスイッチ※	
調整	76
ハンドルポジション	
メモリー	65
ビークルスタビリティ	
コントロール.....	210
ビークルダイナミクス	
インテグレイテッド	
マネージメント.....	210
非常点滅灯スイッチ	309
尾灯	
スイッチ	182
ヒューズ.....	294
表示灯	165
ヒルスタートアシスト	
コントロール.....	210

ふ

フォグランプ	
W 数	375
スイッチ	185
電球の交換	280
フック	
けん引フック	312
コートフック	253
冬用タイヤ.....	228
プリクラッシュセーフティ	
システム	
プリクラッシュセーフティ	
システム	219
プリクラッシュブレーキ	
OFF スイッチ.....	220
PCS 警告灯.....	323
ブレーキ	
緊急ブレーキシグナル....	211, 219
パーキングブレーキ.....	161
ブレーキ付近からキーキー音が	
聞こえる	143
ブレーキアシスト	210
フロアマット	255
フロントシート	
シートポジションメモリー	65
調整	59
ドライビングポジション	
メモリー	65
フロントフォグランプ	
W 数	375
スイッチ	185
フロント方向指示灯	
W 数	375

へ	ヘッドアップディスプレイ	
	HUD メインスイッチ	177
	表示位置調整スイッチ	177
	表示輝度調整スイッチ	177
	ヘッドランプ	
	W 数	375
	スイッチ	182
	電球の交換	280
	ヘッドレスト	
	調整	70
ほ	ホイール	271
	方向指示灯	
	W 数	375
	スイッチ	160
	電球の交換	280
	ボトルホルダー	237
	ホーン	162
	ボンネット	274
ま	窓閉め提案モード	173
	マルチインフォメーション	
	ディスプレイ	169

み	ミラー	
	インナーミラー	78
	ドアミラー	80
	バニティミラー	245
む	ムーンルーフ	90
め	メーター	
	インストルメントパネル	
	照度調整スイッチ	164
	メーター	163
	メモリーコール機能	66
	メンテナンス	
	メンテナンスデータ	370
ゆ	USB ※	
ら	ランプ	
	W 数	375
	インテリアランプ	233
	室内灯	232
	電球の交換	280
	ドアカーテシーランプ	232
	パーソナルランプ	233
	ハザードランプ	309
	バニティランプ	245
	非常点滅灯	309
	フォグランプ	185
	ヘッドランプ	182
	方向指示灯	160

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照ください。

リ	リモートタッチ※	
	リヤウインドウデフォッガー& ミラーヒーター※	
	リヤシート	
	調整	62
	リヤフォグランプ	
	W 数	375
	スイッチ	185
	電球の交換	280
	リヤ方向指示灯	
	W 数	375
	電球の交換	280
れ	冷却水	
	冬の前の準備・点検	228
	容量	373
	冷却装置	
	エンジンオーバーヒート	362
	レーダークルーズコントロール.....	198
わ	ワイパー	
	スイッチ	187, 191
	ワイヤレスドアロック	
	電池交換	303
	リモコン	42

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照ください。



タイヤがパンクした

P. 342 パンクしたときは



エンジンがかからない

P. 351 エンジンがかからないときは

P. 101 エンジンイモビライザーシステム

P. 358 バッテリーがあがったときは



シフトレバーが動かない

P. 353 シフトレバーがシフトできないときは



水温計の針が
赤いゾーンに入った

P. 362 オーバーヒートしたときは



エンジンルームから
蒸気が立ちのぼった



キーを無くした

P. 354 キーを無くしたときは



バッテリーがあがった

P. 358 バッテリーがあがったときは



ドアが施錠できない

P. 31

P. 42 ドア

P. 45



ホーンが鳴り出した

P. 102 オートアラーム



ぬかるみや砂地などで
動けなくなった

P. 365 スタックしたときは



警告灯が点灯、点滅した

P. 322 警告灯がついたときは



警告灯一覧



ABS& ブレーキアシスト
警告灯 P. 323



充電警告灯 P. 322



ブレーキ警告灯 P. 322



運転席シートベルト非着用
警告灯 P. 324



燃料残量警告灯 P. 324



助手席シートベルト非着用
警告灯 P. 324



SRS エアバッグ/プリテン
ショナー警告灯 P. 323



マスターウォーニング
P. 324



半ドア警告灯 P. 324



パワーステアリング警
告灯 P. 323



エンジン警告灯 P. 323



PCS 警告灯 (点滅) ※
P. 323



AFS OFF 表示灯
(点滅) ※ P. 323



スリップ表示灯 P. 323

※ 点滅した場合はシステム異常のおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。



警告音が鳴った

■警告灯の点灯、点滅、またはマルチインフォメーションディスプレイの警告メッセージを確認ください。

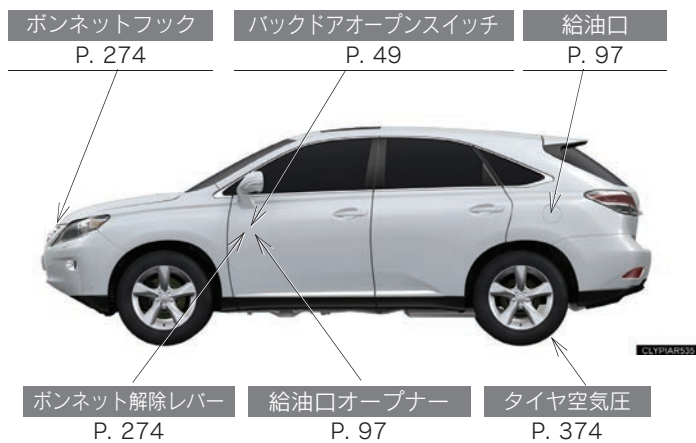
- 警告灯が点灯、点滅している (→P. 322)
- 警告メッセージが表示されている (→P. 326)

■警告灯の点灯、点滅や、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージの表示がないとき、または車外で警告音が鳴ったときは、以下のことを確認ください。

お車の状況	鳴ったときの状況	参照ページ
停車／駐車中	ドアを開けたとき	P. 35
	車外に出たとき	
	スマートエントリー&スタートシステムでロックスイッチを押したとき	
走行中	シフトレバーをRにしたとき	P. 159
	シフトダウンしたとき	P. 159
	レーダークルーズコントロールを使っているとき	P. 198

ガソリンスタンドでの情報

給油や交換などの際に必要になる項目をまとめてあります。



燃料の容量 (参考値)	72 L
燃料の種類	▶ RX270 無鉛レギュラーガソリン ▶ RX350 無鉛プレミアムガソリン (無鉛ハイオク)
タイヤが冷えているときの空気圧	標準タイヤ : 220 kPa (2.2 kg/cm ²) 応急用タイヤ : 420 kPa (4.2 kg/cm ²)
エンジンオイル容量 (参考値)	オイルのみ交換時 RX270 : 4.0 L RX350 : 5.7 L オイルとフィルター交換時 RX270 : 4.4 L RX350 : 6.1 L
エンジンオイルの種類	弊社純正モーターオイル P. 371

